

## 令和4年度 本部事業報告書

社会福祉法人 ささゆり会

令和4年度の運営スローガンは、『足腰・頭を鍛え、いつまでも健康で楽しく暮らして頂く為の介護支援を目指す』になっております。

令和4年度は、10月に新たに介護職員等ベースアップ等支援加算が加わりました。処遇改善の加算としては3つ目の加算になります。「介護職員等ベースアップ等支援加算」は、令和3年2月からの賃上げのために事業所へ交付される新たな補助金のルールを踏襲したものです。既存の処遇改善加算の(III)以上を算定していること、加算額の3分の2以上をベースアップに振り向けること、などが要件として定められています。

道路交通法の改正があり、白ナンバーの車5台以上保有している事業所は安全運転管理者を選任し、運転前後にアルコールチェックが義務化されました。デイサービスとヘルパーの事業所が対象となるためアルコール検知器の購入、乗車前後のアルコールチェックの記録管理体制を整えました。

令和5年度に社員寮の建設のために土地の購入を行なっています。土地代は2400万円で取得しています

地域貢献事業として、子ども食堂ですが、コロナ禍の為に中止しておりました。デイサービスサンライフ田寺は中止、サンライフ西庄は、12月23日にプレゼントとお弁当の配布のみ実施しました。

令和4年10月2日にベトナムのEPA候補生を介護型ケアハウスサンライフ魚崎1名受け入れていました。技能実習生が御立で6名、土山3名、西庄1名、ひろみね1名、魚崎3名の合計14名。特定技能生は、御立4名、土山8名、ひろみね1名、西庄5名の合計18名。技能実習生から特定技能生へ変わった外国人職員は魚崎1名、御立3名の合計4名がいます。介護福祉士の合格者が、12名合格しています。その内、外国人の合格者は6名合格しています。

感染対策を行ない、面会を行う際は、人数制限と時間を設けており、ワクチン接種証明の提示が確認された家族だけ面会を可能としています。緊急事態宣言が解除になった時には、面会の人数を制限がありますが積極的に面会をしてもらいます。家族様との面会もオンラインでできるようにzoomのソフトウェアを利用してオンラインで映像と音声で会話ができるようしています。机等にはアクリル板でパーテーションをし、飛沫感染のリスク回避を行っています。また、アルコール、手袋、マスクなど余分に備蓄し対応しました。ワクチン接種は職員、ご入居様とも行なっています。

コロナ禍の中、利用者、職員等感染対策をしながらも運営を続けることができました。売上も大幅に落とすことなく運営ができています。職員には大変多くの苦勞をかけたが、大変感謝いたします

令和4年度ささゆり会重点課題は、事業計画に挙げた下記3つの重点項目である。

- I. 施設運営の改革に不可欠な諸事業の充実
  - ・新型コロナ感染対策
  - ・外国人技能実習生受け入れ
- II. 主体的経営の基盤強化に不可欠なシステム及び仕組みの構築
  - ・ICT導入による業務改善
- III. 施設の運営や活動に不可欠な人材育成と確保
  - ・新卒者、中途者採用促進の為、専門担当者の配置推進
  - ・EPA(経済連携協定)、技能実習生、特定技能生の採用と育成

以下、令和4年度の事業推進結果を主要運営の経緯・施設経営と介護サービス・会議と大別して、その概要を報告する。

## 1. 主要運営の経緯

- I. 定款の変更と諸規程の改正
  - R4. 5. 11 社会福祉法人ささゆり会諸規定の改定について
  - R4. 6. 9 社会福祉法人ささゆり会諸規定の改定について
  - R4. 8. 18 社会福祉法人ささゆり会諸規定の改定について
  - R4. 10. 28 社会福祉法人ささゆり会諸規定の改定について
  - R4. 12. 9 社会福祉法人ささゆり会諸規定の改定について

## 2. 施設経営と介護サービス

- I. 施設運営の改革に不可欠な諸事業の充実
  - 姫路市名古山町に土地を購入し、社員寮の建設の準備
- II. 主体的経営の基盤強化に不可欠なシステム及び仕組みの構築
  - サンライフひろみねとサンライフ土山にICTのシステム構築
- III. 施設の運営や活動に不可欠な人材育成と確保
  - 外国人職員の確保

IV. 地域貢献事業等の推進（介護実習等）

姫路事業所

受入先	人数
関西福祉大学	5
関西国際大学	1
NHK 学園	1
姫路看護専門学校	14
関西福祉大学看護学部	4
神戸総合医療専門学校	2
姫路福祉保育専門学校	9
神戸医療未来大学	3
龍野北高等学校	2

合計 41

魚崎事業所

受入先	人数
兵庫県立総合衛生学院(介護)	6
神戸市常盤大学短期大学（歯科）	4
関西福祉科学大学（介護）	1

合計 11

ふれあい子供食堂（レストランテ・ヴォーノ西庄）

	12/23
子ども人数	26
大人参加人数	1
ボランティア	3

※12月はお弁当・プレゼントの配布のみ

ふれあい子供食堂（レストランテ・ヴォーノ田寺）

実施なし

V. 職員の資格取得への取組について

・介護福祉士

サンライフ御立	オニ アグスティヤン
サンライフ御立	高尾 恵美子
サンライフ御立	西本 優太
サンライフ西庄	木村 友香子
サンライフ魚崎	池内 弓紘
サンライフ魚崎	稲田 智恵美
サンライフ魚崎	デュオン ティ タイン
サンライフ魚崎	ホアン バン ズン
サンライフ魚崎	水口 拓也
サンライフ魚崎	ルオン ティ ハン
サンライフ魚崎	レーティ タイン ホア
サンライフ魚崎	レーティ トウー
合計	12名（内外国人 6名）

3. 会議

定款の変更、規定の改正、事業計画及び事業報告、会計予算及び決算、介護に関する業務の執行状況や財産状況の整理のため、以下の会議を行った。

I. 監事会・理事会・評議員会

会議名	内 容	期 日	場 所
第1回理事会	1. 故 山岡氏 弔慰金の支給について 2. 定款変更について 3. 社会福祉法人ささゆり会諸規程の改定について	R4.5.11	御立 2F 会議室
第1回監事会	1. 令和3年度事業報告・決算などの監査	R4.6.2	御立 2F 会議室
第2回理事会	1. 令和3年度事業報告承認について 2. 令和3年度会計決算承認について 3. 令和3年度監事監査報告 4. 福祉充実残額、充実計画の承認について 5. 定時評議委員会の議案承認について 6. 社会福祉法人ささゆり会諸規程の制定	R4.6.9	御立 2F 会議室

	及び改定について		
定時評議員会	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 令和3年度事業報告承認について</li> <li>2. 令和3年度会計決算承認について</li> <li>3. 令和3年度監事監査報告について</li> <li>4. 令和3年度福祉充実残額、充実計画の承認について</li> <li>5. 定款変更について</li> </ol>	R4. 6. 27	御立 2F 会議室
第3回理事会	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社員寮土地購入について</li> <li>2. 社会福祉法人ささゆり会諸規程の改定について</li> <li>3. 資産運用規程の改正及び委員の指名について</li> </ol>	R4. 8. 18	御立 2F 会議室
第4回理事会	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 資産運用委員会開催の報告と資産運用について</li> <li>2. 社会福祉法人ささゆり会諸規程の改定について</li> <li>3. 管理者の変更について</li> <li>4. 副理事長の生命保険加入について</li> </ol>	R4. 10. 28	御立 2F 会議室
第2回監事会	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 上半期事業推進状況の監査</li> <li>2. 事業計画に基づく諸事業の実施状況と課題</li> </ol>	R4. 11. 22	御立 2F 会議室
第5回理事会	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 令和4年度上半期事業報告について 令和4年度上半期会計決算報告について 令和4年度上半期監事監査報告について</li> <li>3. 令和4年度第1次補正予算(案)承認について</li> <li>4. 社会福祉法人ささゆり会諸規程の改定について</li> <li>5. 第1回臨時評議委員会の議案承認について</li> </ol>	R4. 12. 9	御立 2F 会議室
第1回臨時評議員会	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 令和4年度上半期会計決算報告について 令和4年度上半期監事監査報告について</li> <li>2. 令和4年度第一次補正予算(案)承認に</li> </ol>	R4. 12. 20	御立 2F 会議室

	ついて		
第6回理事会	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 令和5年度本部・施設事業計画(案)承認について</li> <li>2. 令和4年度法人・拠点区分会計第2次補正予算(案)承認について</li> <li>3. 令和5年度法人・拠点区分会計予算(案)について</li> <li>4. 令和4年度第2回臨時評議員会の招集の件 日時、議案承認について</li> <li>5. 積立資産の取崩しについて</li> <li>6. 社会福祉法人ささゆり会諸規定について</li> <li>7. 管理者の変更について</li> </ol>	R5.3.13	御立 2F 会議室
第2回臨時評議員会	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 令和5年年度本部・施設事業計画(案)承認について</li> <li>2. 令和4年度法人・拠点区分会計補正予算(案)について</li> <li>3. 令和5年度法人・拠点区分会計予算(案)承認について</li> </ol>	R5.3.23	御立 2F 会議室

## II. 介護保険推進委員会

会議名	内 容	期 日	場 所
第1回介護保険推進委員会	令和4年度上半期事業推進状況報告と課題検討	コロナにより中止	
第2回介護保険推進委員会	令和5年度事業計画の策定案について	コロナにより中止	

# 特別養護老人ホームサンライフ御立

## 令和4年度 事業報告書

令和4年度のささゆり会経営スローガンである「足腰・頭を鍛え、いつまでも健康で楽しく暮らして頂く為の介護支援を目指す」を基に介護の原点に立ち返りADLの維持・向上を念頭におき各専門職と連携を図り、体操などレクリエーション・リハビリの強化を目指した。また、引き続き感染防止に向け、ご利用者の健康管理、ご家族の不安解消に職員が一丸となり、それぞれの体調管理にも注意を払い尽力した。

しかしながら、12月にショートステイでコロナ陽性者発生が確認され、感染対策を強化したものの、特養においても陽性者が確認され、年末年始を挟み収束に約2週間を要した。幸い重症化した方はなく快方に向かったが、やはり隔離期間があったことにより、活動量の低下等により認知機能及びADL低下に繋がってしまった方が数名いた。第5類移行後、社会全体が規制緩和される中で面会を継続していくことになり、職員の生活状況、行動範囲も変わってくるため、適宜感染症対策の内容を状況に応じ改定しながら、徹底していきたい。

職員の介護技術及び、資質向上への取り組みとして、感染対策の中、オンライン研修や対面研修にも積極的に参加するよう努めたが、まだまだ十分な人数を参加させることはできていない。また、実践として、歯科衛生士や機能訓練士、看護師の協力を得て、随時気になることがあれば、技術指導を仰ぎ実践に活かせるよう取り組んだ。専門職も含め各研修への参加を促し、研修で得た知識を現場で伝達研修を実施し、指導、助言するなど役立てていきたい。

新たな取り組みとして、OJT活動において業務の効率化に向け、5S活動を徹底して行うことにより、各職員も意識的に整理整頓できるようになってきた。配線の整理など高額な工事や必要物品の発注はあったが、整理整頓だけでなく安全が担保され職場環境が充実した。まだまだ、整理整頓していかなければならない箇所も多く、また、様々な「余裕をもっておいておこう」という考え方を改め、在庫管理などムダを徹底的に省けるよう取り組んでいきたい。

EPA介護職員の退職は今年度も歯止めがきかず、昨年度介護福祉士に合格した1名を含め今年度の合格者2名の計3名、また、技能実習生1名が特定技能生への移行はせず退職した。来年度受験予定のEPA生1名も退職の意向である。今年度新しく特定技能生4名、技能実習生6名の入職があり、介護技術の習得に努め、日本語勉強会以外でも、積極的にコミュニケーションを図りながら、現場で話す機会を多く設けるよう努めた。今後は、介護福祉士取得も目指しながら、取得後も継続的に働きたいと思える環境整備に努めたい。日本人職員においても、常勤1名、非常勤1名の退職があった。若い職員も多く、結婚・出産等による退職や産休・育休取得も大いに考えられるため、外国人職員の育成は急務である。

収入としては、昨年度末のクラスター発生により、稼働率が92.8%からの開始となり、6月で回復はしたが上半期は96.4%と低く、下半期は98.65%で入院者も6名と高い水準を保てたが、年間平均97.52%と目標を下回った。また、人件費の上昇、物価高騰による食材費や光熱費等の上昇があり、収支差額は前年比103.14%にとどまった。昇給等人件費確保のためにも、適正人員でサービス提供ができるよう、介護技術の向上に向けた研修を実施し、業務の効率化・標準化に努めたい。

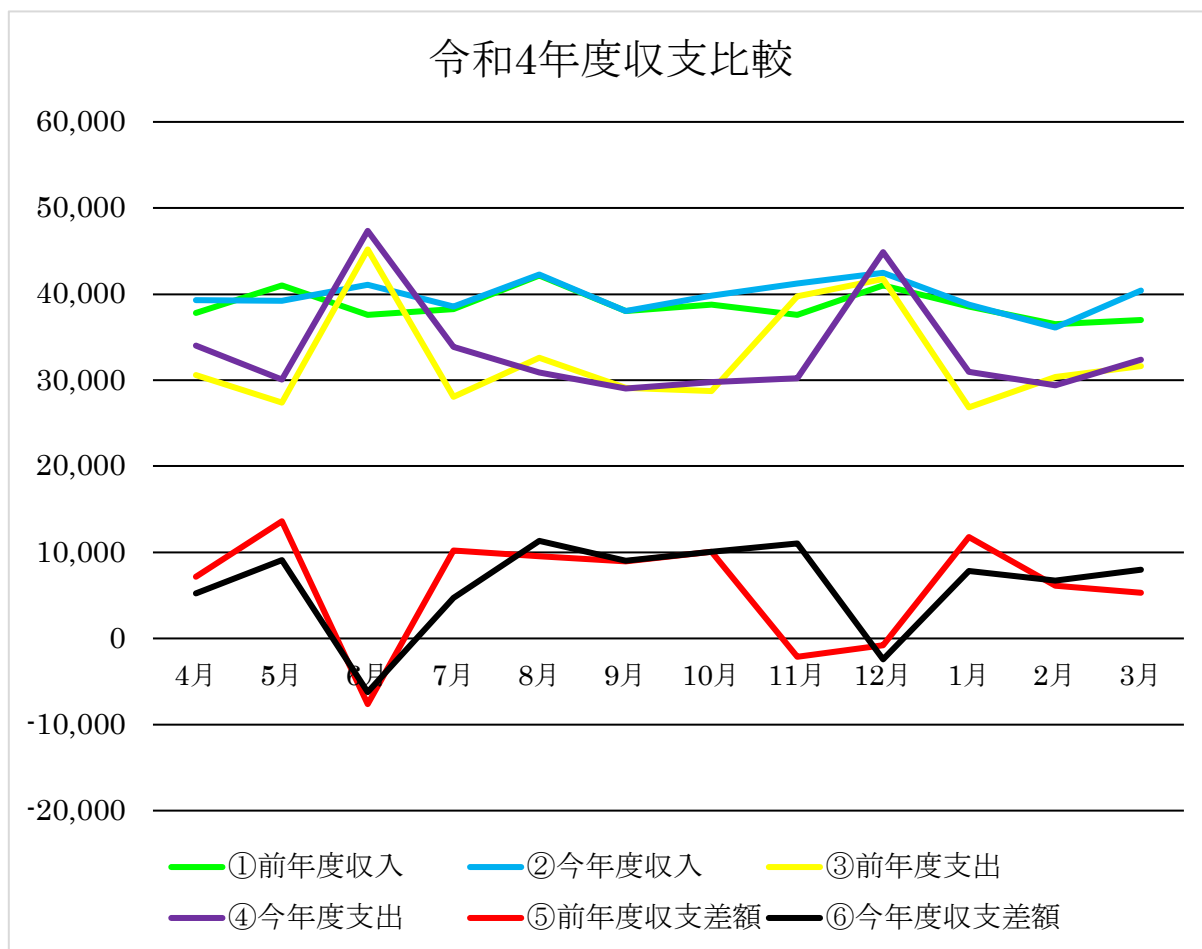
1. 年間収支比較

(単位:千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計	比率
①前年度収入	37,776	41,022	37,558	38,250	42,154	38,054	234,814	—
②今年度収入	39,304	39,216	41,107	38,564	42,237	38,067	238,495	101.57%
③前年度支出	30,624	27,410	45,187	28,044	32,629	29,085	192,979	—
④今年度支出	34,044	30,104	47,343	33,858	30,905	29,032	205,286	106.38%
⑤前年度収支差額	7,152	13,612	-7,629	10,206	9,525	8,969	41,835	—
⑥今年度収支差額	5,260	9,112	-6,236	4,706	11,332	9,035	33,209	79.38%

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
①前年度収入	38,810	37,607	41,012	38,581	36,509	37,012	464,345	—
②今年度収入	39,798	41,228	42,470	38,805	36,110	40,392	477,298	102.79%
③前年度支出	28,769	39,762	41,786	26,840	30,407	31,669	392,212	—
④今年度支出	29,756	30,223	44,895	30,978	29,390	32,375	402,903	102.73%
⑤前年度収支差額	10,041	-2,155	-774	11,741	6,102	5,343	72,133	—
⑥今年度収支差額	10,042	11,005	-2,425	7,827	6,720	8,017	74,395	103.14%





## 2. 利用者数

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
R3年度	2,946	3,039	2,945	3,029	3,061	2,958	17,978
R4年度	2,784	2,915	2,935	3,038	3,036	2,964	17,672
前年度差	-162	-124	-10	9	-25	6	-306
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R3年度	3,012	2,957	2,997	2,991	2,691	2,855	35,481
R4年度	3,077	2,969	3,034	3,028	2,768	3,076	35,624
前年度差	65	12	37	37	77	221	143

## 3. 稼働率

(単位:%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
R3年度	2,946	3,039	2,945	3,029	3,061	2,958	17,978
R4年度	2,784	2,915	2,935	3,038	3,036	2,964	17,672
前年度差	-162	-124	-10	9	-25	6	-306
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R3年度	3,012	2,957	2,997	2,991	2,691	2,855	35,481
R4年度	3,077	2,969	3,034	3,028	2,768	3,076	35,624
前年度差	65	12	37	37	77	221	143

## 4. 入院日数

(単位:日)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
R3年度	53	65	47	74	47	44	330
R4年度	91	89	40	95	59	32	406
前年度差	38	24	-7	21	12	-12	76
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R3年度	88	38	105	141	86	60	848
R4年度	6	27	78	54	28	22	621
前年度差	-82	-11	-27	-87	-58	-38	-227

## 5. 特養空床数

(単位:床)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
R3年度	46	60	54	68	44	41	313
R4年度	91	89	40	62	34	32	348
前年度差	45	29	-14	-6	-10	-9	35
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R3年度	84	36	104	134	83	59	813
R4年度	6	27	56	28	4	0	469
前年度差	-78	-9	-48	-106	-79	-59	-344

## 6. 事故分類別発生数 (単位:件)

	A	B	C	合計
小計	3	5	157	165

A:入院加療を要する事故 B:受診・通院を要する事故 C:受診・通院を要さない事故

Aランク内容:右大腿骨頸部骨折…2件、右膝内側骨折…1件

## 7. 退所者数

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
看取り介護	3	1	1	1	1	0	7
病院	0	0	1	1	1	2	5
急死	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
合計	3	1	2	2	2	2	12
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
看取り介護	3	1	1	0	1	1	14
病院	1	1	3	1	0	1	12
急死	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
合計	4	2	4	1	1	2	26

# サンライフ御立ショートステイ

## 令和4年度 事業報告書

令和4年度経営スローガンである「足腰・頭を鍛え、いつまでも健康で楽しく暮らして頂く為の介護支援を目指す。」をもとに、引き続き感染防止に力を入れながら、コロナ禍の中であっても安心して利用していただき、利用者様・家族様が心身共に健康を維持して生活できるような立ち位置となるよう職員一丸となって取り組んだ。

### 1. 継続した感染症対策

12月に、短期利用者がコロナ陽性となったことをきっかけにクラスターが発生、施設内に感染が広がった。約2週間受け入れを停止し、その後の2週間は居室対応に了承された方のみ受け入れを行った。無症状の方が複数おられ、拡大防止が困難であった。以降も換気、手洗い消毒など基本の徹底、送迎時の検温と体調確認を行い感染防止に努めた。ひとたび感染が広がると、ゾーンニングのため人手が必要となり職員の時間外勤務が増えることとなってしまった。

### 2. 利用者様・家族様の満足度

生活リハビリや、歩行の機会の継続、楽しいと思ってもらえる時間を持つことで心身の健康維持に努めた。

I. 新規利用の際の積極的な関わりが全員に徹底できていない。情報収集、声掛けなどを各自が意識しておこなう必要がある。

II. 楽しいと思える時間を増やし活性化を図る。

・YouTubeを活用した体操で、退屈されがちだった午前中の時間を有効に使うことができたが、同じものばかり流していたり流しっぱなしになっていたりということが多く、時間があるときにもYouTube以外のレクリエーションをする動きがみられなかった。曜日ごとにある程度柱となるレクと担当を決めて取り組んでいく。

II. 依頼を受けたケアの要望にきちんと応える。

軟こう塗布などセッティング忘れが目立ったが、ポスターによる注意喚起、準備場所の指定など対策し以前よりは意識できるようになっている。

IV. 家族様とのコミュニケーションについて

長期利用の方については、月に一回の手紙による近況報告を継続しておこなった。写真をみて安心したという声を頂いている。

### 3. 介護技術の指導強化

内部研修はほとんど行うことが出来なかった。来季は隙間の時間に小さなことから実施していく。

#### 4. 事故防止の取り組みを継続していく

ヒヤリハットを1日5件提出し、事故の発生を防ぐようにすることを継続した。注意喚起のポスターに替わるものを検討したが、活かしているという声もあり継続とした。事故の件数は昨年度より10件増の64件となってしまったが、転倒を繰り返し対策が困難な方がいると件数がどんどん増えてしまう。その中でも、服薬ミス（服薬忘れ）のような無くせる事故を0にするようにしていきたい。

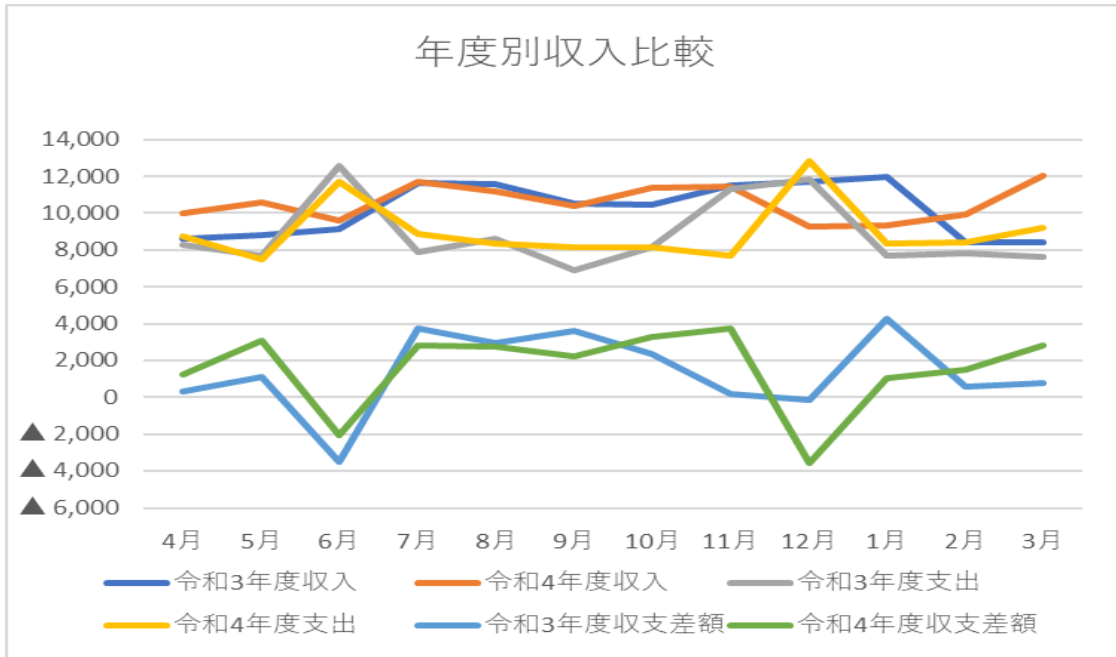
#### 5. 有給取得強化について

計画的に年次有給休暇の5日以上の取得および生活支援休暇の取得ができています。

#### 6. 収入の確保について

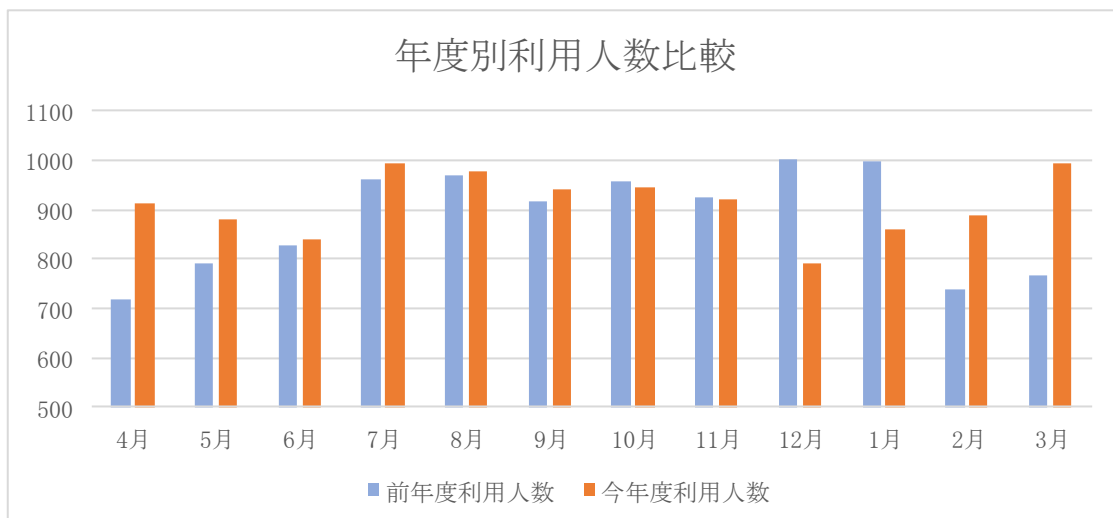
コロナによるキャンセルなどはあったものの、年間通して概ね稼働率100%を超える利用があった。感染が広がった際に、ロング利用の方で療養解除となった方を特養の空床に移動し、アフターコロナで感染の心配がない方や、施設内の状況を分かっただうえでも利用したいという方をショートフロアで受入れし稼働を確保することができた。特養相談員、主任と協力し事前面談で待機者の確保に努めたが、常に待機者を複数名確保することが今後の課題となる。特養の入所申込みを増やすような方法も考えていく必要がある。

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	小計
前年度収入	8,809	9,105	11,642	11,559	10,512	10,458	62,085
今年度収入	10,590	9,626	11,696	11,155	10,398	11,387	64,852
前年度支出	7,700	12,580	7,888	8,625	6,877	8,125	51,795
今年度支出	7,494	11,688	8,852	8,373	8,146	8,135	52,688
前年度収支差額	1,109	▲ 3,475	3,754	2,934	3,635	2,333	10,290
今年度収支差額	3,096	▲ 2,062	2,844	2,782	2,252	3,252	12,164
	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
前年度収入	11,485	11,728	11,957	8,389	8,410	122,670	
今年度収入	11,414	9,276	9,363	9,905	12,018	126,826	103%
前年度支出	11,300	11,865	7,665	7,817	7,640	106,361	
今年度支出	7,693	12,839	8,344	8,387	9,169	107,862	101%
前年度収支差額	185	▲ 137	4,292	572	770	16,309	
今年度収支差額	3,721	▲ 3,563	1,019	1,518	2,849	18,964	116%



5

	5月	6月	7月	8月	9月	10月
前年度利用人数	791	828	960	972	917	957
今年度利用人数	882	842	996	978	943	945
	11月	12月	1月	2月	3月	合計
前年度利用人数	927	1002	1000	741	769	10583
今年度利用人数	921	790	859	891	994	10953



年度別事故件数比較

	5月	6月	7月	8月	9月	小計
前年度事故件数	2	3	1	5	5	16
今年度事故件数	3	5	9	5	8	30
件数比較	1	2	8	0	3	14
	11月	12月	1月	2月	3月	合計
前年度事故件数	8	3	3	3	7	54
今年度事故件数	2	3	3	7	6	64
件数比較	△ 6	0	0	4	△ 1	10

A	B	C	合計
		4	4
1		2	3
		5	5
		9	9
		5	5
		8	8
		9	9
		2	2
		3	3
		3	3
		7	7
		6	6
1		63	64

Aの事故（入院加療を要する事故）・・・1件

- ・認知症があるが自立している利用者様が、食事を終えてどこかへ行こうと歩き出した際に向かい側の席の方の老人車に足をひっかけて転倒された。翌朝痛みがあり立位がとれないため家族様に病院受診してもらったところ大腿骨骨折で入院となった。

# 特別養護老人ホームサンライフ御立（医務）

## 令和4年度 年間事業報告

医務室としては、今年度ささゆり会のスローガンに添って、中・長期的なベッド稼働率の維持を目指し、以下の通り職員・利用者の健康面や感染対策について重点的に取り組んだ。

### 1. 新型コロナウイルス等の感染対策

前年度のコロナクラスターの反省から、1~2ヶ月分の必要物品の備蓄を行った。期限のある備品では、適宜入れ替えを行っている。

職員・利用者のコロナワクチン接種を、7/27~8/24にかけて4回目、11/30~12/28にかけて5回目を実施した。今後とも定期的にワクチン接種が予想されるが、可能な限り早期の実施を心掛け、個人や集団免疫の早期体得を目指していきたい。

コロナウイルス等感染症の早期発見・対応を目指す中で、今年度より平時から職員・利用者の毎日の検温を開始し、熱発時では発見次第隔離・抗原検査の実施を徹底した。出入りの多いショートステイについても、体調不良や発熱者には随時検査や早期退所といった水際対策を徹底。また、フロアでもアクリル板を使用し、短期利用と長期利用の利用者を可能な範囲で分けて対応するようにした。コロナ禍での職員出勤の判断基準について多く質問があったため、理事長や各施設長と相談し職員出勤規定を作成した。

上記以外でも社会情勢を鑑み、適宜施設長や理事長と相談しながらコロナ対策を講じてきたが、12/19より3階利用者1名、職員1名の新型コロナ感染が確認された。原因としては、職員の持ち込み、おそらく食事介助時に感染したものと推定された。陽性者発覚以降は、前回クラスター時の対応を参考にフロアの全隔離を実施。その後他に感染者を出すことなく最短の10日間で終息した。しかし、4階ではショートからの持ち込みに始まり、最終的に1か月間で特養フロア10名、ショート9名がコロナ陽性となるクラスターが発生した。発生直後より嘱託医や薬局と連携し、円滑にラゲブリオの早期投与を実施できたこともあり、重症化や死亡に繋がるケースはなかった。

### 2. ベッド稼働率の維持（経営力強化）に向けて

今年度入院者数は22名、入院延べ日数は651日、受診件数238件、ベッド稼働率は年間平均97.52%であった。目標の98%に届かなかった原因としては、前年度2~3月に発生した新型コロナウイルスクラスターなどの影響（9名永眠、1名入院）が大きいと考えられ、4月92.8%、5月94%と数字が落ち込んだ。6月以降は98%前後で推移し、下半期に限っては、入院件数は6件のみ、稼働率は98.65%と目標は達成できてい

る。

入院理由としては、肺炎及び誤嚥性肺炎が9名で最多、次点で骨折が3名、摂食障害や吐血が2名ずつと続く形となった。肺炎予防に向けては、OT や歯科衛生士などの専門職を交えて座位姿勢や口腔ケア方法などを適宜検討している。しかし、嚥下機能や認知機能に関しては経年的な低下もあり、対策案にも限界があるように感じている。そのため、日頃より摂食、嚥下機能を含めた全身状態の観察・評価に注力し、状態によっては早期に看取り介護への切り替えを家族へ提案し、入院件数の削減に繋げていけるよう努めた。結果として、新規看取り同意者数は、H30年度からR3年度までの年間平均人数が11.7名であったのに対し、今年度では15名と新規の同意を交わした。これらの継続的な積み重ねが、今後のベッド稼働率の維持に繋がると期待している。

骨折原因では、転倒転落事故の他に原因不明なものも散見された。骨粗鬆症を抱えている利用者も多いため、状態変化に合わせて介助方法の見直しを提案し予防改善に努めている。

大西メディカルクリニック協力の下、利用者健康診断を8/18、8/25に実施した。健診結果を参考に、嘱託医へ指示を仰ぎながら内服薬の調整や家族に対して受診の相談を行い、潜在的疾患の早期発見、早期対応に取り組んだ。

### 3. 職員の健康増進

医師会の協力の下、11/18に職員91名の一般健康診断を実施した。婦人科オプション希望者は9名、人間ドックについては14名であった。一般健診と婦人科オプション健診者計100名の内、産業医からの所見があった職員は70名と全体の7割に及んだ。海外職員の増加に伴い、宗教上の理由による食事制限が影響してか、栄養状態や貧血関係で基準値を下回る職員が増えていることが一因となっている。これらを踏まえ、受診や精査の指示がある職員に対しては個別に書類を作成・配布し、受診を勧めるべく働きかけ、場合によってはサプリメント摂取の提案を行った。今年度は法人内で職員の急変、急死が数件あったことから、次年度ではより一層自身の健康管理に向けて啓発していきたいと考えている。

腰痛検査、ストレスチェックにおいても例年通り実施し、健康診断同様に個別に書類を作成・配布し、安全な就労に向けて受診や検査の必要性を啓発した。

### 4. 各委員会活動

#### 看取り委員会

今年度看取り対応者は14名、新規看取り開始者15名だった。ここでも海外職員の増加が原因となって、看取り対応への理解度について職員間で大きな個人差が生まれているように感じている。そのため、書面だけでなくOJT形式での指導を行うよう心掛け、看



取り対応時では積極的に海外職員へエンゼルケアやデスカンファレンスへの参加を呼び掛けた。看取り対応時では特に家族とのコミュニケーションが大切となる為、外国人職員の日本語レベルの向上を施設全体で促し、サポートしていくことが今後の課題として挙げられる。

#### 褥瘡委員会

表.1 LIFE 上の規定での褥瘡人数

上半期	4月	5月	6月	7月	8月	9月	Ave
人数(人)	8	9	7	7	7	5	7.2

下半期	10月	11月	12月	1月	2月	3月	Ave
人数(人)	5	5	5	2	1	1	3.2

褥瘡人数については、上半期月平均の7.2人に対し、下半期では月平均3.2人と半分以下に改善した。委員会を通して介護職員へADL評価やリスク評価を徹底するよう啓発し、嘱託医の指示を仰ぎながら患部の状態に合わせて適宜塗布薬の評価・変更を行ったことが要因と考えている。今後とも更なる褥瘡件数の減少、及び悪化防止に向けて、早期発見・早期対応に努めていきたい。

#### 感染症委員会

前年度や今回のクラスターの反省から、平時からの感染対策の見直しに注力し、行政からの情報を踏まえながら随時マニュアルをアップデートしていった。今年度より他部署もZoomで参加できるようにし、感染対策の発信、共有を行った。

# 特別養護老人ホームサンライフ御立(厨房)

## 令和4年度 事業報告書

### 1. 人材の定着・育成

新しく入職された方も、厨房内では1人として業務を行えるようになり、おおよその仕事量は均一化されてきた。作業のマニュアル化も進めたことで、厨房内業務の引継ぎ時間は短縮できた。

今年度もコロナが発生した際は、出勤した職員の負担が大きくなってしまい、残業なども多くなった。2回目のコロナの発生であったため、食事の提供や洗浄などの厨房内業務に遅れが生じることは少なかった。

ショート入退所者の把握や、おやつレクの伝達がうまくできていないことが度々あった。書類の置き場所の徹底、伝言ノートの把握をし、同じようなミスを繰り返さないようにしていきたい。

### 2. 献立の充実

献立では、クリスマスや正月、節分、ひな祭りなどの行事食を積極的に行った。また、旬の食材を取り入れることで、季節感を感じられるだけでなく、食材料費の節約にも努めた。しかし、カレーや麺類、炊き込みご飯などのやや手の込んだ献立は入れることができなかった。これらを楽しみにされている方も多いため、今後、積極的に取り入れていきたい。

また、食材の値上がりも続いているため、無駄を減らすことや、旬の食材を多く取り入れる、調味料の業者の見直し等をし、材料費の値上げを極力抑えていきたい。

### 3. 衛生管理

今年度も異物の混入などの報告はなかった。これからも、1人1人が気を付け、防いでいきたい。

食器に関して、着色汚れが目立つものが多いとの指摘を受けた。定期的な食器の漂白や、汚れがひどい物は新しいものに交換するなどし、利用者に気持ちよく使ってもらえるよう努めたい。

### 4. 栄養ケアマネジメントの充実

今年度は厨房内業務の時間が多く、ミールラウンドを十分に行うことができなかった。新入職員も厨房業務を1人でも出来るようになってきたため、シフトの工夫をし、食事の時間は特養フロアに行けるようにしていきたい。

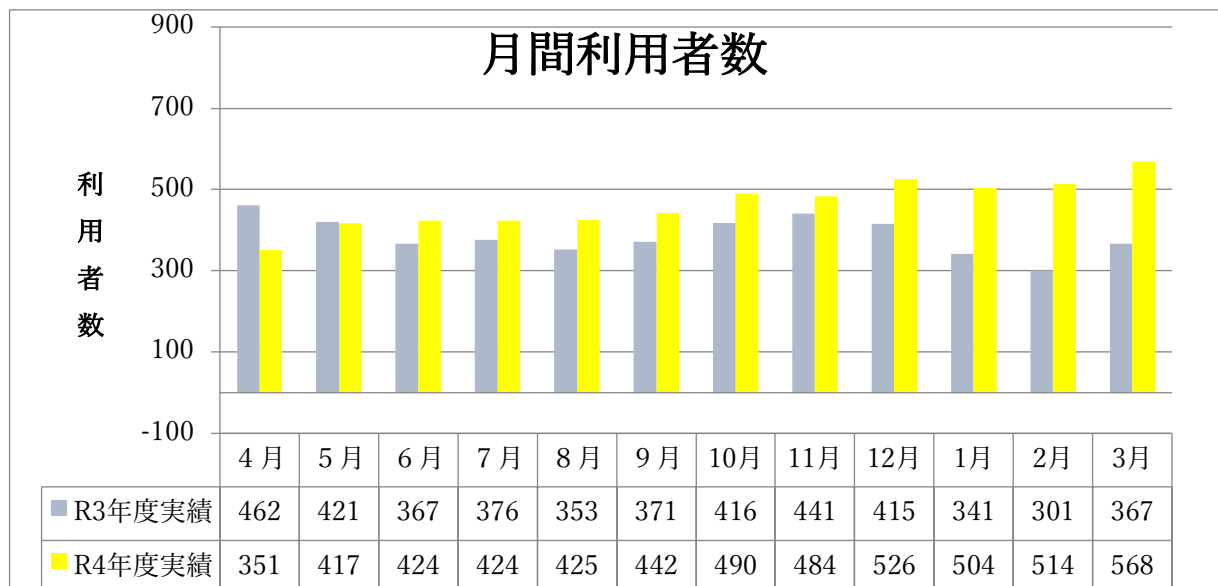
# デイサービスセンター サンライフ御立

## 令和4年度 事業報告書

令和4年度上半期は前年度に引き続きコロナ禍でのサービス付き高齢者向け住宅の感染対策による利用自粛、クラスターによる利用停止が相次ぎ安定した収入の確保が困難であったが、下半期はコロナ禍による影響も徐々に減少し、それと同時に新規利用者の定着もあり今年度の事業計画の目標でもあった黒字へと転換することができた。しかしながら令和4年度末時点での稼働率は60%と全国平均を大きく下回っており、依然として厳しい事業運営となっている。

今年度法人全体での研修で実施された「トヨタ生産方式による生産性の向上」により、様々な対利用者以外の業務の効率化を図り、大幅な業務改善を行うことができた。今後もこの研修での成果を継続し都度業務改善を行い、利用者の方との時間を増やしサービスの質の向上に努めたい。

### 1. 利用者数



## 2. 年間収支比較

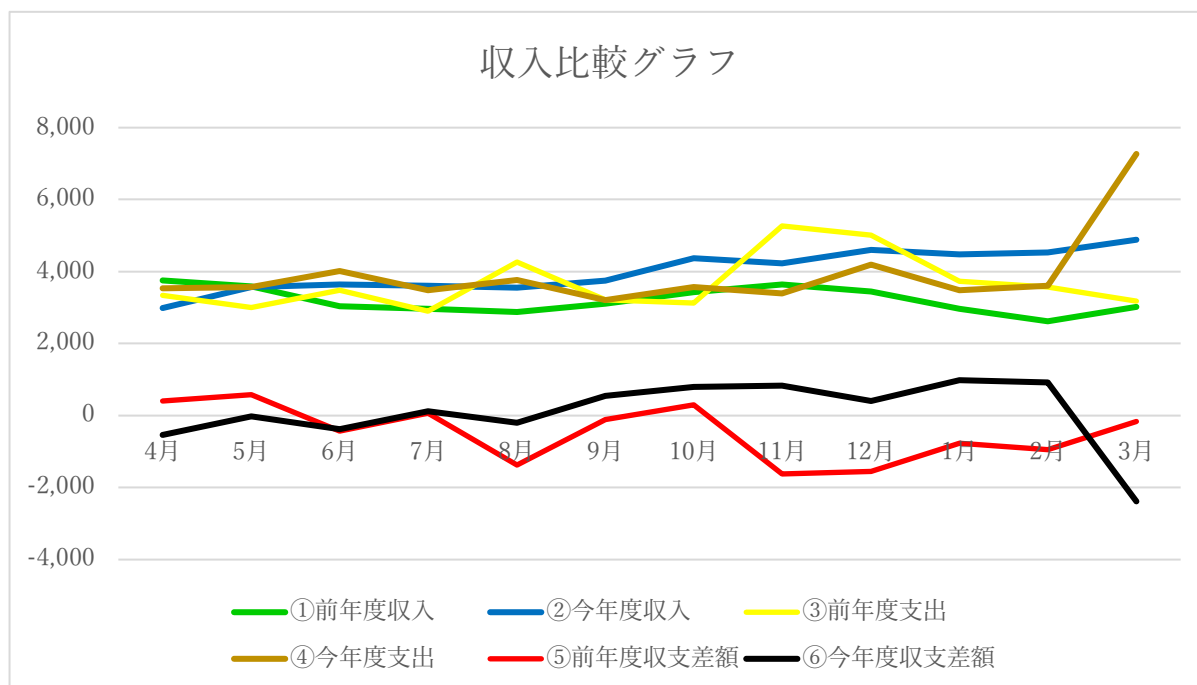
(千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
①前年度収入	3,755	3,585	3,037	2,969	2,884	3,105	19,335	-
②今年度収入	2,988	3,564	3,639	3,603	3,559	3,753	21,106	109%
③前年度支出	3,348	3,004	3,475	2,901	4,257	3,224	20,209	-
④今年度支出	3,528	3,580	4,010	3,484	3,763	3,209	21,574	106%
⑤前年度収支差額	407	581	-438	68	-1,373	-119	-874	-
⑥今年度収支差額	-540	-16	-371	119	-204	544	-468	

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計	比率
①前年度収入	3,427	3,648	3,452	2,966	2,620	3,015	38,463	-
②今年度収入	4,366	4,224	4,604	4,472	4,537	4,886	48,195	125%
③前年度支出	3,134	5,269	5,009	3,733	3,563	3,175	44,092	-
④今年度支出	3,576	3,391	4,191	3,488	3,616	7,269	47,105	106%
⑤前年度収支差額	293	-1,621	-1,557	-767	-943	-160	-5,629	-
⑥今年度収支差額	790	833	413	984	921	-2,383	1,090	

### 収入比較グラフ



### 3. 介護度別平均年齢及び利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均 (合計)
事業 対象者	93.17 (1)	93.25 (1)	93.33 (1)	93.42 (1)	93.50 (1)	93.58 (1)	93.67 (1)	93.75 (1)	93.83 (1)	93.92 (1)	94.00 (1)	94.08 (1)	93.63 (12)
要支援 1	84.08 (1)	84.17 (1)	90.00 (1)	84.75 (2)	84.83 (2)	90.25 (1)	87.04 (2)	87.13 (2)	87.21 (2)	83.08 (3)	87.38 (2)	87.46 (2)	86.16 (21)
要支援 2	84.70 (7)	86.29 (8)	86.29 (10)	86.22 (9)	86.31 (9)	86.39 (9)	86.47 (9)	87.11 (10)	86.78 (9)	86.46 (10)	86.54 (10)	86.63 (10)	86.39 (110)
要介護 1	85.51 (10)	84.19 (10)	84.46 (9)	86.89 (11)	86.50 (10)	86.73 (12)	85.73 (11)	85.44 (14)	86.25 (17)	86.04 (16)	85.03 (16)	84.77 (18)	85.63 (154)
要介護 2	85.42 (9)	86.47 (11)	86.67 (11)	86.76 (11)	86.63 (11)	86.36 (9)	86.31 (10)	85.17 (10)	86.26 (12)	85.89 (11)	85.42 (10)	85.50 (10)	86.09 (125)
要介護 3	86.22 (3)	82.75 (4)	86.04 (6)	84.76 (7)	83.78 (6)	84.09 (8)	83.66 (10)	84.17 (9)	85.74 (7)	85.82 (7)	85.89 (7)	84.42 (7)	84.71 (81)
要介護 4	75.08 (2)	74.13 (2)	62.25 (1)	78.44 (3)	78.53 (3)	80.89 (3)	80.97 (3)	82.77 (4)	82.85 (4)	90.42 (2)	88.77 (4)	90.65 (4)	82.23 (35)
要介護 5	67.50 (1)	67.58 (1)	67.67 (1)	67.75 (1)	67.83 (1)	67.92 (1)	68.00 (1)	68.08 (1)	71.75 (2)	75.42 (1)	74.00 (2)	69.29 (2)	69.86 (15)
合計	84.42 (34)	84.41 (38)	85.15 (40)	85.45 (45)	85.21 (43)	85.52 (44)	85.10 (47)	85.17 (51)	85.66 (54)	86.00 (51)	85.64 (52)	85.34 (54)	85.30 (553)

上段の数字は平均年齢、( )内の数字は実利用者人数を示しています。

### 4. 職員充足度(令和5年3月現在)

職員14名(正職員2名 非常勤看護師2名 非常勤介護職員10名)

個別機能指導員を  
含まない

	営業 日数	利用者/月	職員総時間数/月	利用者/日	職員 /日	職員 一人対	職員/日	職員一人対
4月	26	351	1066	13.5	6.3	2.1	5.3	2.5
5月	26	417	1054	16.0	6.3	2.6	5.3	3.0
6月	26	424	1086	16.3	6.5	2.5	5.5	3.0
7月	26	424	1087	16.3	6.5	2.6	5.5	3.0
8月	27	425	1082	15.7	6.4	2.4	5.4	2.9
9月	26	442	1157.5	17.0	6.9	2.5	5.9	2.9
10月	26	490	1207.5	18.8	7.2	2.6	6.2	3.0
11月	26	484	1186	18.6	7.1	2.6	6.1	3.1
12月	27	526	1216	19.5	7.2	2.7	6.2	3.1
1月	23	504	1209	21.9	7.2	3.0	6.2	3.5
2月	24	514	1292	21.4	7.7	2.8	6.7	3.2
3月	27	568	1247.5	21.0	7.4	2.8	6.4	3.3

# ケアハウスサンライフ御立

## 令和4年度 事業報告書

今年度のスローガンとして「コロナウイルスと共存していく社会で、新しい生活スタイルを考える」を掲げスタートした。しかし新しい生活スタイルを模索したが、方向性を見いだせずに時間が経過した。

### 1. コロナ禍における一年間の推移

未知のウイルスとの闘いから3年4ヶ月。今月8日、新型コロナの感染症法上の位置づけが、季節性インフルエンザなどと同じ「5類」に移行した。新たな日常へ・・・ではあるが、これでコロナウイルスが絶滅したわけでは決していない。一人ひとりが安易な判断をしないで、慎重な判断を続けなければならない。WHO＝世界保健機関も新型コロナの感染拡大を受けて出していた『国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態』の宣言を終了した。世界的に見てもコロナ対策は大きな節目を迎えた。しかし、ウイルスはまだ世界中に潜んでいて日々感染者は存在する。

この一年も、まさに見えないウイルスが敵であり、どこがピークでどこが終わりなのか、日々良くなるのか、さらに悪くなるのか全く見通せなかった。非常に不安な日々を過ごした。

ケアハウスにおいて、8月末入居者1名がコロナ陽性と判明。10日間の隔離とケアハウス内行事等を中止し、同フロア入居者の居室配膳等を実施した。

9月末入居者1名が利用中のヘルパーがコロナ陽性と判明し、4日間食事の配膳等を実施した。

1月半ば入居者1名がコロナ陽性と判明し、6日間の隔離、同フロア入居者居室配膳等を実施した。3症例において、何れも感染拡大はなかった。

### 2. 各種行事・クラブ活動

実施項目一覧

健康チェック	再開 但し8,12,1月は中止
バスハイク、外食の日	11/14 紅葉狩り
誕生会(年4回)	4,7,10,1月に実施 3密回避の為、居室毎に茶と菓子を提供
ふれあい喫茶	居室毎に茶と菓子を提供 2,3月食堂で実施(30分間の時間制限)
いきいき百歳体操	中止
ラジオ体操	週4回実施 (但し、8/27～9/4は中止)
新規 カラオケ教室	未実施
新規 体操教室	未実施 居室で実践できる体操を紙面にて紹介
フラワーアレンジメント	中止
学習療法	持ち帰りの形で継続(週1回)
手作り教室	居室でできるアイデアを紙面にて提供

入居者1人ひとりが、今現在の身体状況を把握してもらう為「骨密度測定」「フレイルチェック」「口腔内チェック」の定期実施を計画していたが未実施

### 3. 入居者状況

入居者の年齢は、90才以上が12名、全体の34.3%を占める。又、介護保険非認定者が全体の28.6%で、介護が必要・不必要の格差が大きくなった。生活する上で家族様等、訪問介護のサポートが必要となりコロナ禍においても許可を得て継続実施となった。

介護認定状況 (R5. 3. 31 現在)

単位：人

	非認定	支援1	支援2	介護1	介護2以上	合計
5階	4	2	4	5	1	16
6階	6	4	3	3	3	19
合計	10	6	7	8	4	35

サービス利用状況 (R5. 3. 31 現在)

単位：人

	ヘルパー	訪問看護	デイサービス	訪問リハビリ	福祉用具貸与
5階	9	1	10	2	8
6階	6	0	6	0	5
合計	15	1	16	2	13

入居者年齢・性別状況 (R5. 3. 31 現在)

単位：人

	～69才	～74才	～79才	～89才	～99才	合計	平均年齢
男性	2	1	1	5	1	10	80.5才
女性	1	4	0	9	11	25	86.6才
合計	3	5	1	14	12	35	84.9才

最高年齢：98才(女性)

最低年齢：65才(男性)

### 4. 空室ゼロの対策

この一年間で新規入居者は6名、退去者は5名だった。5, 1, 2, 3月の4か月間は、満室となった。入居者累計実績数は、前年度11,664名、今年度12,114名で450名の増加となった。

コロナ禍において見学者の対応は1階ホールのみの実施となった。入居に関しての問合せ及び見学は順調だったが、入居に至らないケースもあった。

如何に退去からその後の入居を短期間でやり遂げるかがポイントだったが、やはり退去者の荷物の搬出、リフォームに時間を要した。

年間収支比較

(千円)

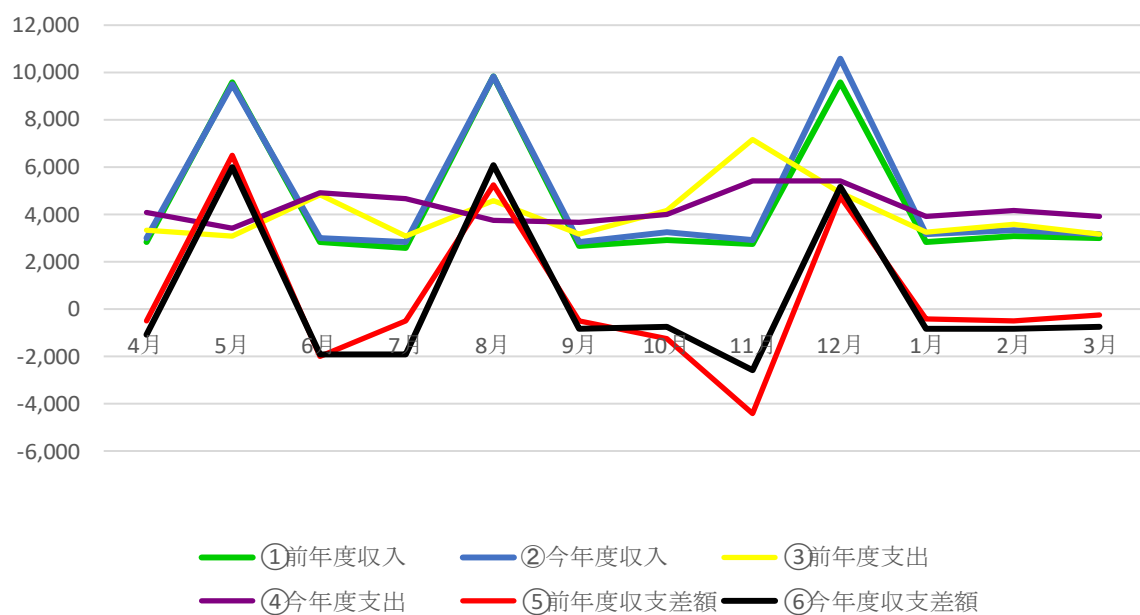
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
① 前年度収入	2,847	9,588	2,860	2,577	9,853	2,707	30,432	—
② 今年度収入	3,009	9,465	3,029	2,814	9,826	2,839	30,982	101.8
③ 前年度支出	3,354	3,114	4,878	3,089	4,561	3,185	22,181	—
④ 今年度支出	4,078	3,422	4,950	4,713	3,753	3,672	24,588	110.8
⑤前年度収支差額	-507	6,474	-2,018	-512	5,292	-478	8,251	—
⑥今年度収支差額	-1,069	6,043	-1,921	-1,899	6,073	-833	6,394	77.4

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
① 前年度収入	2,887	2,776	9,614	2,863	3,077	2,987	54,642	—
② 今年度収入	3,227	2,887	10,622	3,145	3,347	3,184	57,394	105.0
③ 前年度支出	4,151	7,185	4,887	3,273	3,572	3,195	48,879	—
④ 今年度支出	3,993	5,460	5,461	3,935	4,142	3,957	51,536	105.4
⑤前年度収支差額	-1,264	-4,409	4,727	-410	-495	-208	6,192	—
⑥今年度収支差額	-766	-2,573	5,161	-790	-795	-773	5,858	94.6

(千円)

収支比較グラフ





# ユニット型老人ホームサンライフひろみね 令和4年度 事業報告書

ささゆり会経営スローガンである事業計画の目標「足腰・頭を鍛え、いつまでも健康で楽しく暮らして頂く為の介護支援を目指す」を基に介護の原点に立ち返り ADL の維持又は向上を念頭におき、取り組んでいる。ユニット型施設のメリットを最大限に発揮できるように「個別ケア」に重点をおき入居様が快適に過ごせる施設を職員の共通目標としている。猛威を振っている新型コロナウイルスには最大限の注意を払い持ち込まないことと早期対応・対策を心掛けて安心して過ごせる場の提供に努め、コロナ感染入居者も1名に抑える事ができた。

## 1. 科学的介護の実践について

科学的根拠に基づきながら質の向上に努めている。

- I. ささゆり会で取り組んでいる日中おむつ外しを継続して取り組み日中おむつ率0%を目指しているが、3月末日で11%となった。トイレに行くことで生活リハビリにもなる為、立位保持や座位保持をして頂く機会も兼ねて行っている。また排便コントロールにも重点をおき健康管理を行えた。
- II. 常食率の向上については、入居者様の食べる能力の維持・向上を目指し3月末日で83%であった。
- III. 統計を毎月確認し数値化することによって職員の目標設定を具体化できた。

## 2. 看取り介護について

入居者様・ご家族が、満足のいく看取り介護となるように、日頃から親身に接しラポール形成に努め、精神的サポートを含め連絡を密に取りサンライフひろみねに入居できて良かったと思って頂けるようにケアを8名実施し希望された方は100パーセント実施できた。

## 3. 職員の労働環境の整備

慢性的な人員不足の介護業界だが、サンライフひろみねでは平均すると入居者様に対して介護・看護職員の割合が1.4：1と高い配置でケアを提供できた。マンネリ化している現在、行っている業務は適正か検証し無駄な業務は排除し労働環境の整備を図っていく必要があったが、今年度は対応できていない為、来年度は介護ロボットなどのシステム導入により適正な配置を整えたい。

- I. 連続リフレッシュ休暇が確実に取得できるように職員の希望を3月に聞き計画的に進めることができている。又、有給休暇も適正に消化できた。
- II. 働きがいのある職場づくりのため、ワーク・ライフ・バランスに配慮する。過重労働による健康障害を防止するため、労働時間の適正管理を行った。
- III. 労災事故のゼロを目指す。小規模特養に応じた適正な職員配置を心掛ける。介護ロボットの導入やICTの導入を進めており、介護ロボット補助金を申請している。

IV.特定技能実習生が1名5月、技能実習生が1名6月から勤務している。1日も早い戦力となるようマンツーマンでの指導を行い夜勤以外の一人勤務が実施できている。

#### 4. 職員教育・組織体制作りについて

新人職員の教育体制の随時、見直しと不安を軽減できるように配慮する。既存の職員においては、資格取得を含め介護技術の向上を目指す。

- I.外部研修（オンライン研修含む）への参加機会を増やし介護技術の向上及び職員の意識向上や施設サービスの活性化に努めている。
- II.人員募集を随時行い優れた人材を確保できるように努め、非常勤から採用し、3名の正職員を採用できた。
- III.新入職員に認知症基礎研修の受講できた。技能実習生、特定技能実習生は来年度に実施する。

#### 5. 地域貢献について

- I.新型コロナウイルス対策で書面での運営推進会議を実施した。
- II.コロナの影響もあり、地域の方と交流をもつため地域行事への参加を検討しているが、実施できていない。
- III.姫路市医師会看護専門学校の看護実習は実習を実施できたが、龍野北高等学校の介護実習を受け入れはできなかった。

#### 6. 介護統計について

令和4年度介護状況目標

項目		令和4年9月末状況	令和5年3月末目標
日中オムツ使用率		3名(11%)	11名(4%)
入浴統計	特浴	0名(0%)	2名(7%)
	リフト付個浴	22名(75%)	21名(72%)
	個浴	7名(25%)	6名(21%)
食事形態	普通食	24名(83%)	24名(83%)
	刻み食	0名	0名
	極刻み食	0名	0名
	ミキサー食	5名(17%)	5名(17%)
	経管栄養	0名	0名
褥瘡者		0名	1名
身体拘束		0名	0名
看取り介護実施 ※		3名(100%)	8名(100%)

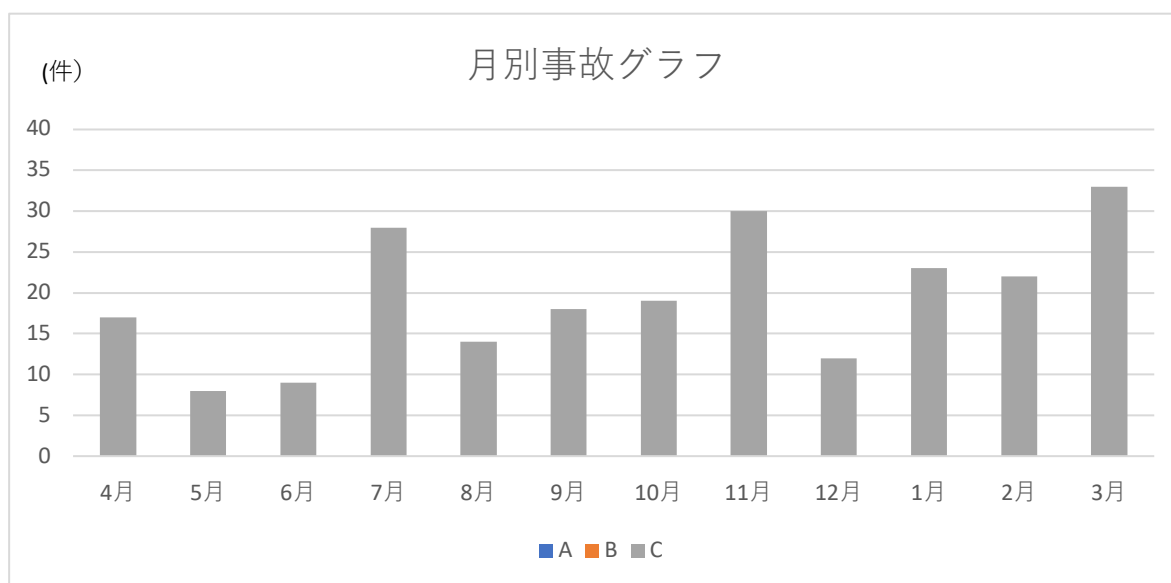
※看取り介護実施率=看取り介護実施者／全退所者（急死を除く）

事故件数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計（件）
A	0	0	0	0	0	0	0
B	0	0	0	0	0	2	2
C	17	8	9	28	14	18	92
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計（件）
A	0	0	0	0	0	0	
B	0	0	0	0	0	0	
C	19	30	12	23	22	33	

A：入院・加療を要する事故 B：受診・通院を要する事故 C：受診・通院を要しない事故

月別事故グラフ



(件)

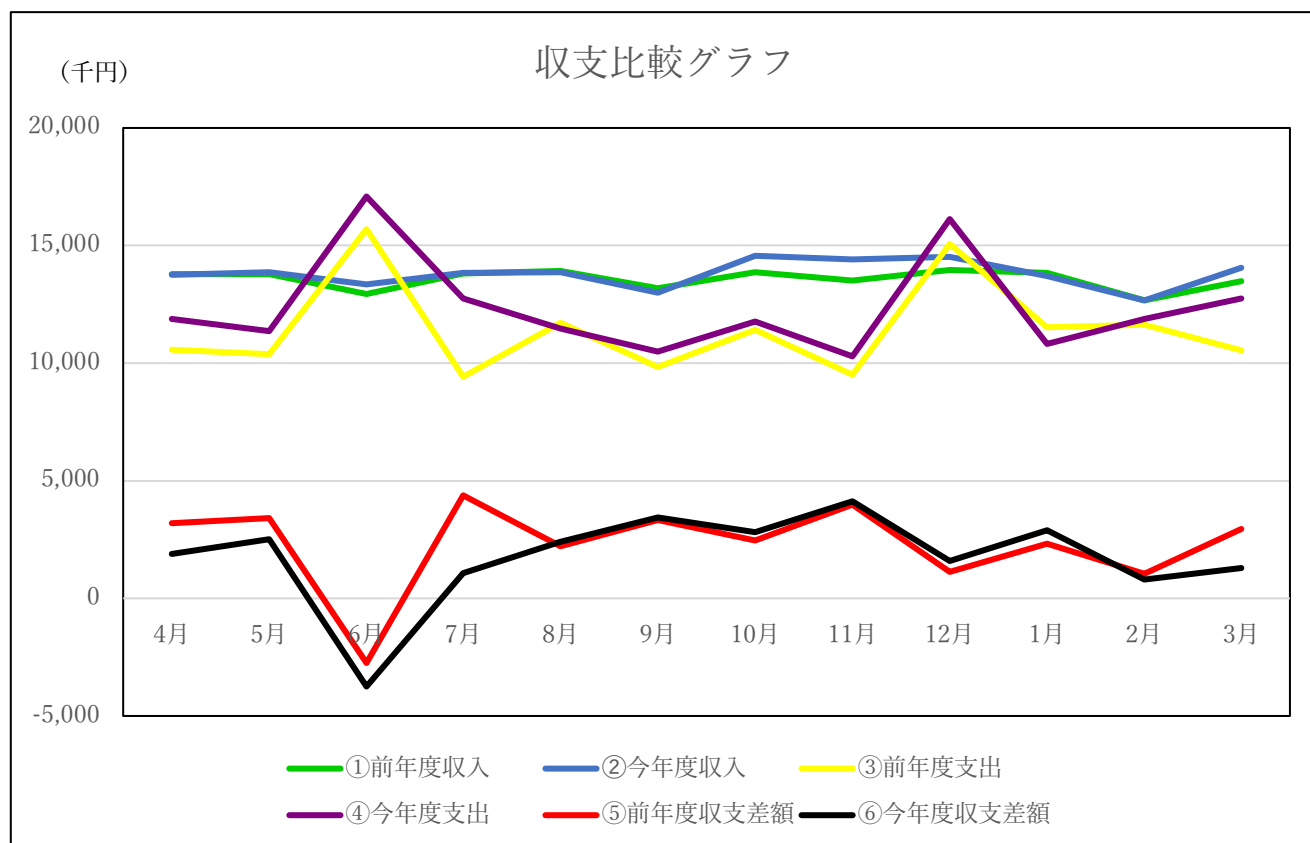
7. 事業運営について

- I. コロナ感染症が、2月に発生し利用者感染者1名で感染を抑える事ができた。
- II 稼働率は目標の98.9%と目標99%を下回った。収入は目標に達しているが、経年劣化による修繕費が165万円程度あった。人員確保の為、求人広告料と職員紹介料が約200万円かかっている。人件費が上半期で547万円（職員紹介料含む）増えている。その為、収支差額が714万円減っている。人件費率に着目し適正人員を心掛ける。
- III. 個人情報保護に留意しながらインスタグラムを活用し施設の情報発信に努め開かれた施設運営が行えた。

年間収入目標

(単位:千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
①前年度収入	13,772	13,786	12,949	13,801	13,916	13,184	81,411	—
②今年度収入	13,767	13,880	13,337	13,842	13,873	13,001	81,702	100.3%
③前年度支出	10,564	10,382	15,696	9,422	11,706	9,851	67,623	—
④今年度支出	11,884	11,368	17,087	12,763	11,470	10,486	75,060	111.7%
⑤前年度収支差額	3,208	3,404	▲2,747	4,379	2,210	3,333	13,788	—
⑥今年度収支差額	1,883	2,512	▲3,749	1,079	2,403	3,433	6,642	48.1%
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
① 前年度収入	13,880	13,507	13,962	13,834	12,671	13,493	81,347	—
② 今年度収入	14,565	14,417	14,524	13,716	12,667	14,046	83,935	103.2
③ 前年度支出	11,425	9,510	15,076	11,515	11,630	10,535	69,691	—
④ 今年度支出	11,759	10,290	16,115	10,828	11,877	12,751	73,620	105.6
⑤前年度収支差額	2,455	3,997	1,114	2,319	1,041	2,958	11,656	—
⑥今年度収支差額	2,806	4,127	1,591	2,888	790	1,295	10,315	88.5



# デイサービスサンライフ田寺

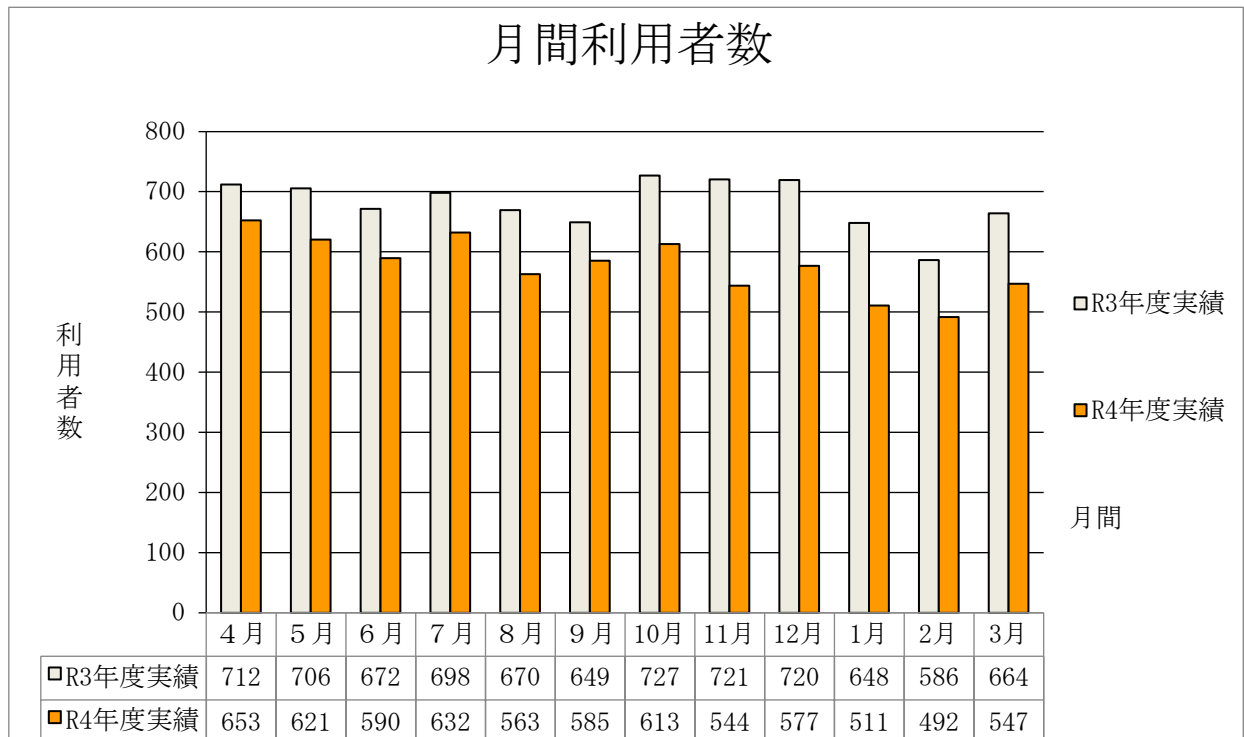
## 令和4年度 事業報告書

令和4年度の実績では、上半期末時点からの利用者様の減少が影響し、増加を図ることが出来なかった。昨年度平均利用人数は26.3人/日であったのに対し、本年度平均利用人数は22.4人/日となり、1日当たり約4人減少している。その為収入が776万円の減少となった。支出については、人件費や設備劣化による修理、光熱費の値上がりがあったため、239万円の増加となった。結果として1,015万円の利益の減少となった。

歯科衛生士による口腔ケアについては、実施している利用者様からは好評であり、新規利用者様の御家族様からも口腔ケアによる効果を期待されている。理学療法士による個別機能訓練加算も算定できており、今後の利用人数増を目指す。また、外出サービスのみでは新規利用者様の獲得が困難になっている現状から、新たな特徴を作るべく個別機能訓練加算取得に合わせてチェアヨガを導入し、リハビリにも力をいれたデイサービスとして打ち出して行くこととする。チェアヨガは利用者様にも好評である為、新しい強みにつながると考えている。

子ども食堂「レストランテヴェオーノ田寺」については、新型コロナウイルス感染拡大の影響により開催ができなかった。

### 1. 月間利用者数

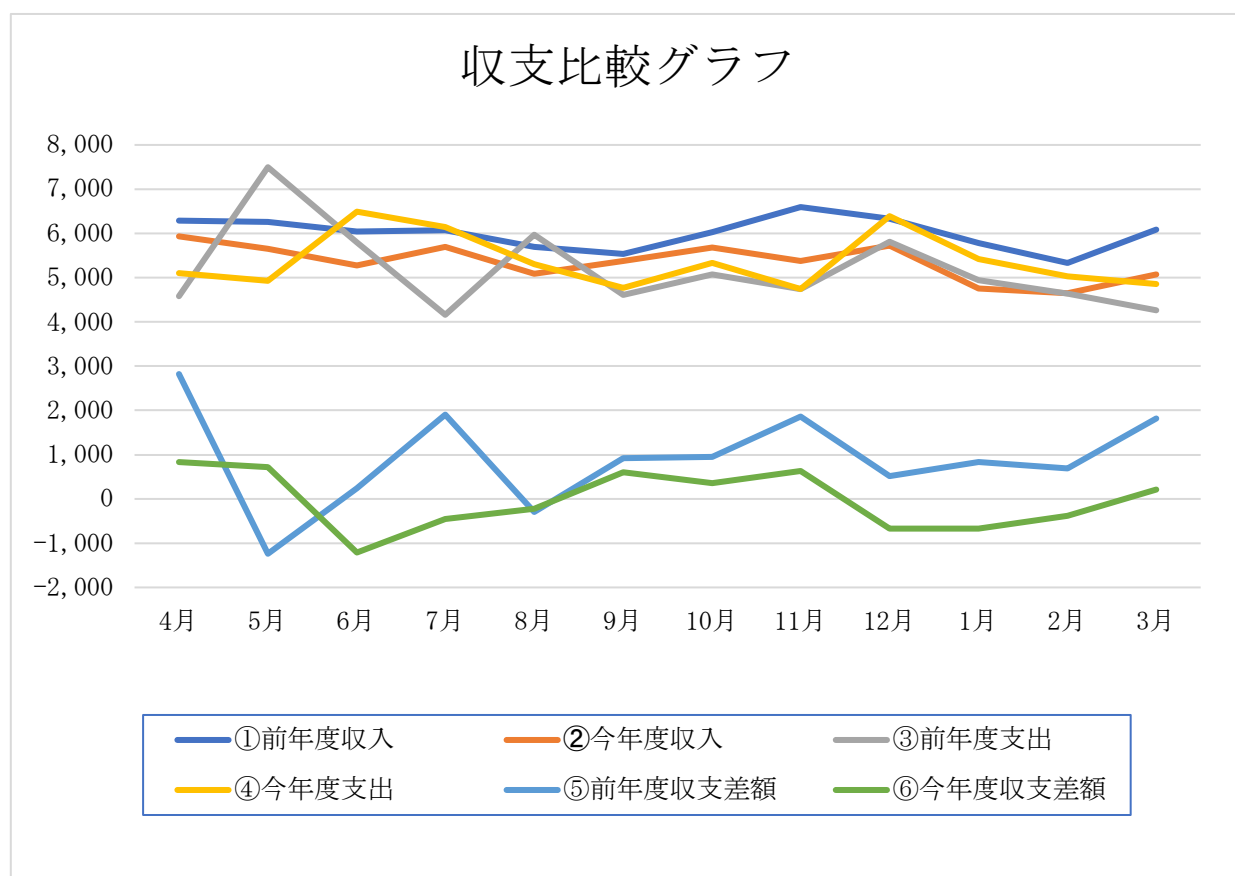


## 2. 前年度収支比較

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
① 前年度収入	6,291	6,258	6,043	6,069	5,689	5,539	35,889	—
② 今年度収入	5,934	5,647	5,280	5,694	5,083	5,372	33,010	91%
③ 前年度支出	4,580	7,497	5,804	4,161	5,977	4,614	32,633	—
④ 今年度支出	5,100	4,928	6,492	6,142	5,307	4,771	32,740	100%
⑤ 前年度収支額	1,711	-1,239	239	1,908	-288	925	3,256	—
⑥ 今年度収支額	833	719	-1211	-448	-224	601	270	8%

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
① 前年度収入	6,030	6,596	6,326	5,785	5,333	6,089	72,048	—
② 今年度収入	5,687	5,380	5,728	4,752	4,649	5,075	64,281	89%
③ 前年度支出	5,076	4,739	5,813	4,944	4,641	4,270	62,116	—
④ 今年度支出	5,328	4,744	6,395	5,417	5,029	4,861	64,514	104%
⑤ 前年度収支額	954	1,857	513	841	692	1819	9,932	—
⑥ 今年度収支額	359	636	-666	-664	-379	214	-230	%



### 3. 介護度別平均年齢及び利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均 (合計)
要支援 1	82.44 (3)	82.53 (3)	83.21 (2)	83.29 (2)	83.38 (2)	83.46 (2)	83.54 (2)	83.63 (2)	83.71 (2)	83.79 (4)	83.88 (3)	83.96 (3)	83.33 (26)
要支援 2	84.67 (7)	84.75 (7)	84.41 (8)	85.15 (8)	83.89 (7)	83.98 (9)	84.06 (9)	83.20 (7)	81.45 (8)	81.53 (8)	81.60 (8)	81.70 (8)	83.35 (94)
要介護 1	85.29 (30)	85.55 (30)	84.86 (30)	85.04 (32)	84.94 (29)	85.10 (32)	85.73 (29)	85.42 (31)	85.58 (30)	85.33 (28)	86.05 (27)	86.19 (29)	85.41 (357)
要介護 2	89.50 (17)	87.65 (15)	88.32 (18)	89.20 (19)	89.45 (17)	88.81 (19)	88.06 (22)	87.60 (20)	87.31 (21)	87.32 (18)	87.53 (19)	86.78 (18)	88.11 (223)
要介護 3	89.51 (9)	89.77 (8)	91.39 (7)	91.48 (7)	89.15 (5)	89.23 (5)	89.32 (5)	89.40 (5)	85.70 (7)	87.85 (6)	85.44 (4)	88.07 (6)	89.01 (74)
要介護 4	90.60 (5)	88.96 (4)	88.50 (5)	89.50 (5)	89.58 (5)	92.88 (4)	93.53 (3)	93.54 (2)	92.08 (1)	92.17 (1)	88.33 (2)	83.47 (3)	89.93 (40)
要介護 5	76.96 (2)	77.04 (2)	77.13 (2)	88.92 (1)	89.00 (1)	89.08 (1)	89.17 (1)	89.25 (1)	89.33 (1)	89.42 (1)	89.50 (1)	89.58 (1)	84.37 (23)
平均 (合計)	86.75 (85)	86.23 (84)	86.30 (85)	87.03 (82)	86.68 (80)	86.67 (80)	86.81 (82)	86.37 (87)	85.73 (82)	85.77 (78)	85.95 (75)	85.84 (76)	86.36 (976)

上段の数字は平均年齢、( )内の数字は実利用者人数を示しています。

### 4. 職員充足度 (R5年3月現在)

職員 21 名 (正職員 3 名 非常勤看護師 3 名 非常勤理学療法士 1 名  
非常勤歯科衛生士 1 名 非常勤介護職員 11 名)

個別機能指導員 (看護師) 1 名含まない

	営業 日数	利用者/ 月	職員実質時間数 /月	利用者/ 日	職員/ 日	職員 一人 対	職員/日	職員一人対
4月	26	653	1,896	25.12	11.06	2.2	10.75	2.3
5月	26	621	2,185	23.88	12.33	1.8	11.87	1.9
6月	25	590	1,931	23.60	11.26	2.0	10.97	2.1
7月	27	632	2,009	23.41	11.34	2.0	11.03	2.1
8月	26	563	1,785	21.65	10.08	2.3	9.50	2.2
9月	26	585	1,528	22.50	8.98	2.5	8.75	2.5
10月	27	613	1,883	22.70	10.62	2.1	9.66	2.3
11月	25	544	1,776	21.76	10.36	2.1	9.43	2.3
12月	27	577	1,941	21.37	10.96	1.9	10.18	2.0
1月	24	511	1,629	21.29	9.19	2.3	7.89	2.6
2月	23	492	1,726	21.39	10.78	1.9	9.4	2.2
3月	26	547	1,943	21.04	10.9	1.9	9.6	2.1

### 5. リストランテヴォーノ田寺

新型コロナウイルスの影響により開催できていない。

# ヘルパーステーションサンライフ御立

## 令和4年度 事業報告書

今年度目標に掲げた「足腰・頭を鍛え、いつまでも健康で楽しく暮らして頂く為の介護支援を目指す」を念頭に、職員・登録ヘルパーの方向性を統一し、日々の訪問に努めた。

昨年度に引き続き、介護従事者という職業柄、勤務中だけに限らず、プライベートな時間にまで、感染対策を徹底しながらの生活は、大きなストレスとプレッシャーであったことは間違いない。そのような中でも、利用者様の訪問に穴をあけることなくスムーズにサービス提供を行えたことは、徹底した対策を周知できていたからだと感じる一方、まだまだ気を緩める事ができない現状は、継続中である。

事業所内目標である「利用者様と一緒に行う」＝「自立支援」は在宅生活継続には欠かせない項目であり、何より個々の残存能力を維持する意味でも、重要である。単なる家事代行とのヘルパーへの概念が、利用者様・家族様への丁寧な説明により、少しずつではあるが理解して頂けていると感じる。訪問介護とは、「身辺のお世話をする」のではなく、「自立した生活の援助」である事を利用者様・家族様にもしっかり説明し積極的な参加型サービスである事への意識改善も図れたと感じる。出来ることは行う。出来ないことは手助けしてもらうことで出来るようになる。在宅で自分らしい自立した生活維持に繋がられるよう、引き続き支援に努めていきたい。その為には、利用者様・家族様・もちろんヘルパーとの関係性の構築・介護力の統一、昨年足りないと感じていた部分も多かった中、全員が共有できる場を多く持ったことにより、手ごたえを感じる。今後も継続に努め、利用者様への最大限のサービスに繋がれたらと思う。

積極的な有給休暇取得については、最低ラインの5日間の習得は全員行えた。「取れたら取ろう！」ではなく、「必ず取る」と計画的に取得できた。引き続きプライベートと仕事との線引きをし、しっかり休んだ活力を仕事へと向けられる様、引き続き努力していきたいと思う。

### 令和4年度 内部研修内容

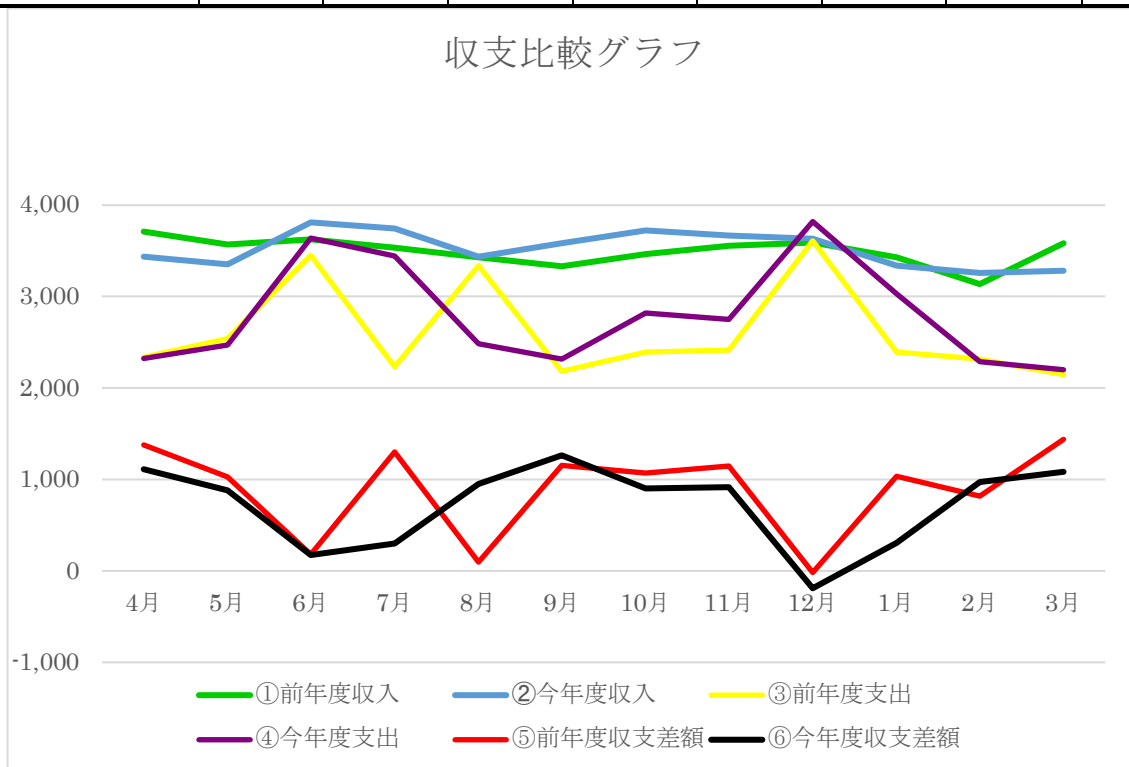
4月	個人面談・人事考課表作成（前年度を振り返って）
5月	心と体のもやもや&疲れ（自分の体と向き合おう）
6月	ホームヘルパーが出来る褥瘡ケアのポイント
7月	熱中症・食中毒を防ぐ
8月	ヘルパー濃厚接触者（家族）の為、中止
9月	おむつの当て方・アサーション（アサーティブな自己表現）
10月	栄養予防のポイント（低栄養の利用者様へのアドバイス）
11月	移動・移乗時の福祉用具を中心に事故再発防止を学ぶ
12月	高齢者の冬の健康管理（ヒートショック・感染症・低体温症）
5年1月	個人面談（今年度の健康診断結果返却）
2月	介護記録の書き方・何を記録すればよいのか？
3月	気持ちに寄り添う「認知症の人への配慮・対応法」



年間収支比較

(千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
①前年度収入	3,711	3,570	3,628	3,538	3,431	3,333	21,211	—
②今年度収入	3,435	3,355	3,812	3,744	3,438	3,582	21,366	101
③前年度支出	2,335	2,541	3,449	2,234	3,338	2,180	16,077	
④今年度支出	2,326	2,472	3,637	3,444	2,488	2,318	16,685	104
⑤前年度収支差額	1,376	1,029	179	1,304	93	1,153	5,134	—
⑥今年度収支差額	1,109	883	175	300	950	1,264	4,681	92
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
①前年度収入	3,466	3,559	3,592	3,432	3,137	3,586	41,983	
②今年度収入	3,721	3,665	3,631	3,339	3,259	3,281	42,262	101
③前年度支出	2,397	2,414	3,610	2,395	2,317	2,147	31,357	—
④今年度支出	2,818	2,749	3,824	3,029	2,285	2,200	33,590	107
⑤前年度収支差額	1,069	1,145	-18	1,037	820	1,439	10,626	—
⑥今年度収支差額	903	916	-190	310	974	1,081	8,675	82



収入面では、前年度に比べ、若干増ではある。

支出面では、大きな物の購入（事業所の電話工事・パソコン2台・アルコールチェッカー）に、124万円必要であったり、電気代高騰により水道光熱費増の為負担が増えており、収支差額では195万減となる。

現在、利用者様受入人数(120名)上限に達している為、特例以外はなかなか新規受け入れも難しい現状がある。それに加え登録ヘルパーの高齢化も少しずつ進み、世代交代する為にも、新規登録ヘルパーの採用に繋げ、若返りと収入増に繋げていけたらと思う。

# サンライフ御立居宅介護支援事業所

## 令和4年度 事業報告書

経営スローガン「足腰・頭を鍛え、いつまでも健康で楽しく暮らして頂く為の介護支援を目指す」に対し、新型コロナウイルスへの感染症対策を行いながら相談援助や適切なサービスを提案し、元気に在宅生活が継続できるよう支援を行った。

収入については、全体の利用者数は増加したが、要支援者が増え要介護者が減ったため、やや減少となった。支出については、人件費の増加やパソコンの購入により増加した。収支差額としては、収入がほぼ横ばい、支出が増加したため、昨年より大きく減少した。

地域包括ケアシステムの構築を目指し医療との連携を促進し在宅で利用者様に満足して頂けるように提供を行った。

### 1. 担当利用者・収入の確保

新規獲得件数は98件。特養や老健入所、長期入院、永眠などの終了ケースも多くある。総数は令和4年4月が要介護116件、要支援42件の158件、令和4年9月が要介護120件、要支援56件の176件となった。営業活動も毎月行っている。担当の利用者様からの紹介等も積極的に受け入れるようにし特に地域の方のご相談等も迅速に対応できるよう努めている。

担当人数の増減はあるが、収入については、ほぼ昨年度と同様の結果となった。

### 2. サービスの質の向上

主任ケアマネジャーの資格取得については、管理者交代や事業所を新たに増やす際に必要な資格であり、要件を満たした職員から順次取得する。

また、援助を進めていくにあたり困難なケースや問題点がでてきた時等、事業所内で一緒に考え、情報共有を行うことで精神面でのケアと援助がスムーズに行えるよう努めた。研修会等にも積極的に参加するよう心がけ最新情報等は事業所内で共有できるよう情報交換共有を行った。感染症対策に勤め自らが感染しないことはもちろんのこと、クラスターが発生しても支援が止まらないように、できる限りの支援を行った。

### 3. 有給休暇、連続リフレッシュ休暇の確実な取得状況

年次有給休暇の10日以上取得者の5日以上の取得ができていない。連続リフレッシュ休暇は、昨年に続き現状で取得している職員はいない。連続リフレッシュ休暇の支障として考えられることは、長期休暇を取得することで利用者様や家族様からの相談対応に支障が出てしまわないかとの不安がある。今後検討が必要。

#### 4. 特定事業所集中減算の回避

毎月、集計を行い減算にならないように注意した。他事業所の情報等を収集し、紹介を行った。

#### 5. 介護予防支援

令和4年度も、要支援者の地域包括支援センターからの依頼や、更新時に要支援になった方が多く、要支援者の利用者数は増加傾向となった。引き続き、多くの地域包括支援センターとの連携を行い新規獲得に努める。

#### 6. 利用者人数の推移

(人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援 1.2	R3	46	49	45	46	48	51	53	53	50	44	45	44	574
	R4	42	44	48	46	52	56	57	56	58	59	60	60	638
	差	-4	-5	+3	0	+4	+5	+4	+3	+8	+15	+15	+16	+64

(人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護 1~5	R3	130	127	123	123	126	126	123	127	134	110	107	111	1,467
	R4	122	123	123	121	120	121	124	121	122	121	115	123	1,456
	差	-8	-4	0	-2	-6	-5	+1	-6	-12	+11	+8	+12	-11

#### 7. 収入の確保

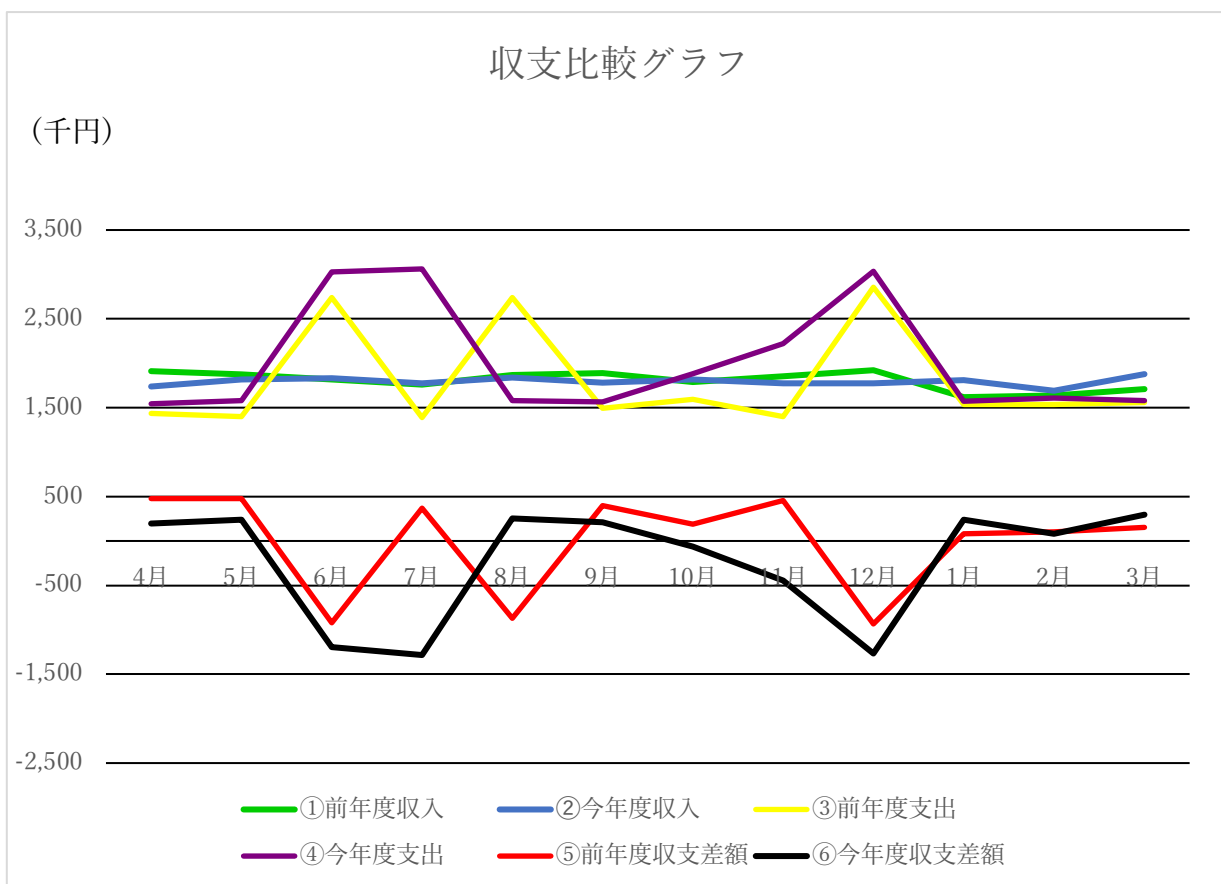
様々な理由で、増減があるため、定員を維持できるように営業活動を行った。R5.3末で利用者数は定員に達した。要介護者の人数増加より、要支援の利用者の増加が多かった。

#### 8. 年間収支比較

(千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
①前年度収入	1,913	1,875	1,818	1,761	1,870	1,889	11,126	
②今年度収入	1,740	1,819	1,833	1,778	1,838	1,783	10,791	97.0
③前年度支出	1,436	1,400	2,739	1,389	2,739	1,493	11,196	
④今年度支出	1,544	1,579	3,025	3,062	1,582	1,569	12,361	110.4
⑤前年度収支差額	477	475	-921	372	-869	396	-70	
⑥今年度収支差額	196	240	-1,192	-1,284	256	214	-1,570	

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
①前年度収入	1,787	1,855	1,922	1,619	1,640	1,713	21,662	
②今年度収入	1,821	1,778	1,774	1,812	1,691	1,878	21,545	99.5
③前年度支出	1,595	1,400	2,856	1,535	1,535	1,560	21,677	
④今年度支出	1,885	2,223	3,038	1,574	1,609	1,582	24,272	112.0
⑤前年度収支差額	192	455	-934	84	105	153	-15	
⑥今年度収支差額	-64	-445	-1,264	238	82	296	-2,727	



# デイサービスサンライフ安室

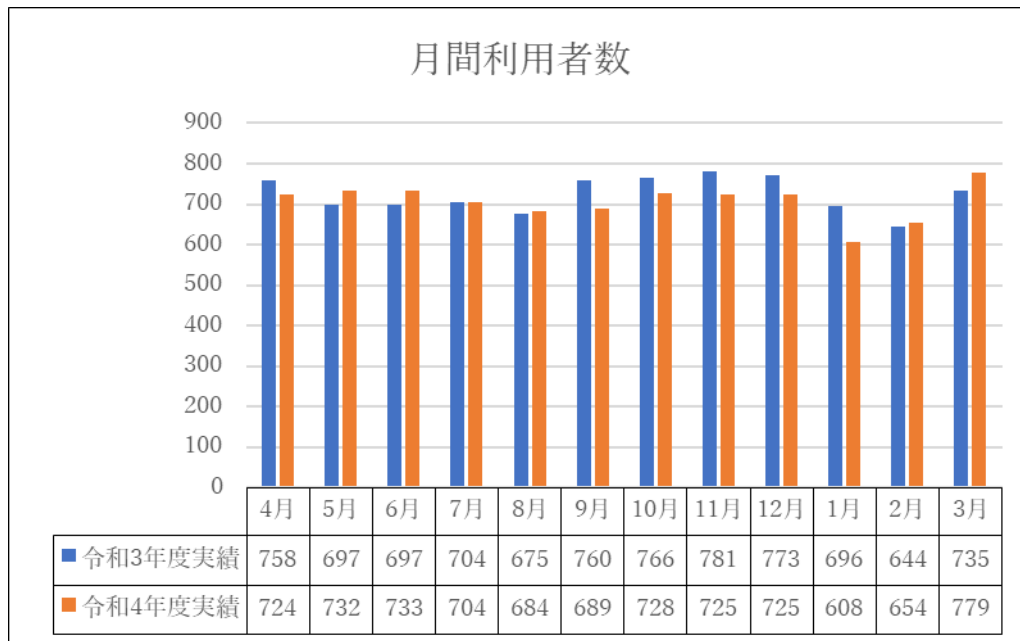
## 令和4年度 事業報告書

令和4年度は緊急事態宣言の発令がなく、1年を通して通常の営業が実施できた。しかし前年度以上に職員・職員家族が新型コロナウイルスに感染し、職員の長期入院などもあり、1年を通して職員不足が続いた。そのため利用者への安全を確保することが難しく、外出レクリエーションなど計画通りの活動が十分に実施できなかつた。また心肺蘇生・AEDを実施する事例が2件あり、「急変時の対応」「健康」を再考しなければいけない年度であった。

登録利用者の高齢化により、長期入院や短期入所が多く、利用者数減となった。また年間を通して職員の移動が多く、利用者家族・ケアマネージャーからの施設に対する信頼度が低下しており、そういった面も利用者数減を助長していると考えられ、収入減となった。支出においては作業療法士採用での紹介料や車両事故による修理費用、送迎車両の買い替えなど、まとまった金額の支出が続いており、支出増となった。そのため、収支差額は前年度に比べ大幅にマイナスとなった。

職員の高齢化が進んでいるため、計画的な有給休暇の取得や人間ドックなどを活用し、「長く健康に働くことができる職場環境」を整えていきたい。また外部研修や施設内研修などを行うことでサービスの質の向上を図り、利用者家族・ケアマネージャーからの信頼回復に努め、新規利用者の獲得・収入増に繋げていきたい。

### 1. 利用者数



令和3年度実績 8,698人      令和4年度実績 8,485人      前年度比 97.7%

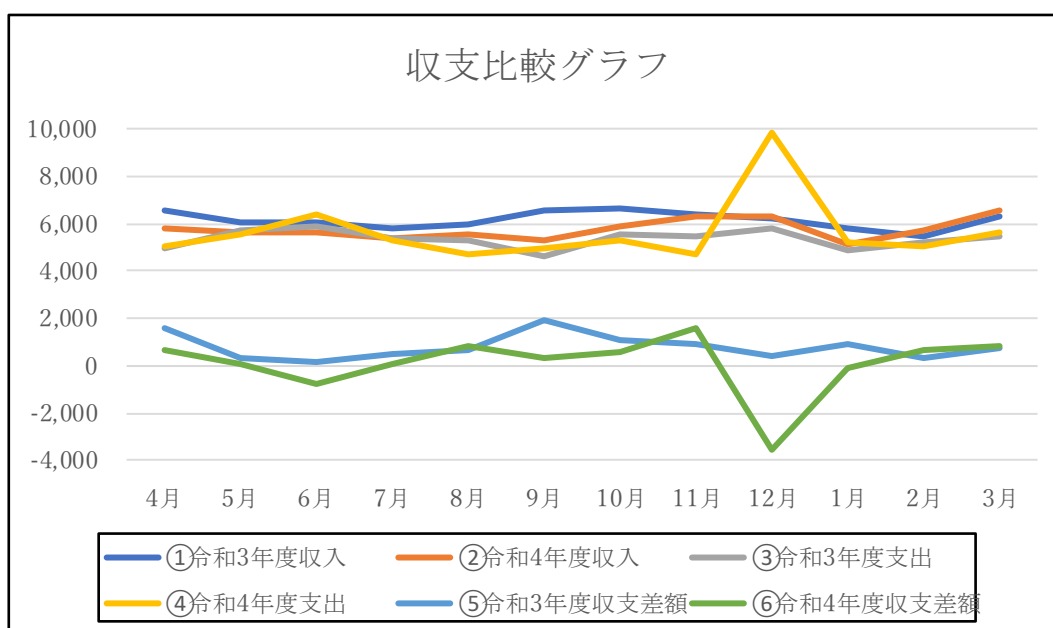
## 2. 年間収支比較

(千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
①令和3年度収入	6,571	6,039	6,049	5,841	5,963	6,606	37,069	—
②令和4年度収入	5,782	5,640	5,605	5,387	5,560	5,268	33,242	89.7%
③令和3年度支出	5,007	5,701	5,906	5,374	5,266	4,648	31,902	—
④令和4年度支出	5,082	5,554	6,392	5,285	4,719	4,972	32,004	100.3%
⑤令和3年度収支差額	1,564	338	143	467	697	1,958	5,167	—
⑥令和4年度収支差額	700	86	▲787	102	841	296	1,238	24.0%

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
①令和3年度収入	6,685	6,374	6,276	5,788	5,508	6,278	73,978	—
②令和4年度収入	5,887	6,295	6,347	5,155	5,703	6,556	69,185	93.5%
③令和3年度支出	5,595	5,452	5,833	4,865	5,200	5,500	64,347	—
④令和4年度支出	5,292	4,720	9,880	5,233	5,017	5,672	67,818	105.4%
⑤令和3年度収支差額	1,090	922	443	923	308	778	9,631	—
⑥令和4年度収支差額	595	1,575	▲3,533	▲78	685	794	1,276	13.2%



### 3. 介護度別平均年齢及び利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均 (合計)
要支援 1	83.95 (10)	83.73 (12)	83.54 (13)	82.69 (11)	82.77 (11)	82.86 (11)	82.94 (11)	93.19 (12)	82.86 (11)	81.57 (10)	81.95 (9)	82.60 (9)	83.72 (130)
要支援 2	87.04 (18)	87.66 (17)	87.92 (18)	88.00 (17)	87.53 (17)	87.62 (17)	87.50 (17)	87.90 (16)	87.69 (18)	87.92 (17)	87.90 (17)	87.99 (17)	87.72 (206)
要介護 1	85.01 (29)	85.29 (30)	84.47 (31)	84.71 (32)	85.50 (32)	85.67 (33)	84.86 (31)	85.79 (31)	85.24 (30)	85.30 (31)	85.59 (29)	85.30 (31)	85.23 (370)
要介護 2	90.60 (11)	90.85 (10)	90.39 (11)	92.03 (11)	91.10 (11)	90.49 (10)	90.42 (13)	90.73 (14)	89.96 (15)	90.79 (9)	91.50 (12)	91.35 (12)	90.85 (139)
要介護 3	85.94 (9)	85.86 (8)	88.25 (8)	87.49 (9)	87.21 (9)	85.51 (8)	87.94 (11)	86.75 (9)	87.73 (8)	87.58 (10)	87.64 (10)	87.74 (10)	87.14 (109)
要介護 4	92.75 (6)	92.25 (5)	91.65 (4)	91.73 (4)	91.81 (4)	91.90 (4)	92.22 (3)	89.94 (3)	87.44 (4)	84.44 (3)	84.53 (3)	83.77 (4)	83.77 (47)
要介護 5					88.42 (1)	88.50 (1)	88.58 (1)	83.25 (2)	83.33 (2)	85.92 (2)	83.50 (2)	78.17 (1)	84.96 (12)
平均 (合計)	86.72 (83)	86.69 (82)	86.52 (85)	86.70 (84)	86.73 (85)	86.52 (84)	86.65 (87)	86.80 (87)	86.53 (88)	86.25 (82)	86.69 (82)	86.55 (84)	86.61 (1013)

上段の数字は平均年齢、( )内の数字は実利用者人数を示しています。

### 4. 職員充足度 (令和5年3月現在)

職員 19 名 (正職員 3 名 非常勤看護師 3 名 非常勤介護職員 11 名)

機能訓練指導員を  
含まない

	営業 日数	利用者/ 月	職員総時間数/ 月	利用者/ 月	職員/ 月	職員 一人対	職員/ 月	職員 一人対
4月	26	724	2043.75	27.8	11.92	2.33	11.47	2.42
5月	26	732	2143.75	28.2	12.10	2.33	11.04	2.55
6月	26	733	1892.00	28.2	11.04	2.55	10.06	2.80
7月	26	704	1957.75	27.1	11.05	2.45	10.58	2.56
8月	27	684	1950.25	25.3	11.01	2.30	9.91	2.55
9月	26	689	2087.00	26.4	12.18	2.17	11.22	2.35
10月	26	766	2158.20	28.0	12.74	2.10	11.73	2.30
11月	26	781	2140.85	27.9	12.00	2.70	11.55	2.40
12月	27	773	2095.50	26.9	12.75	2.60	12.29	2.20
1月	25	696	1972.75	26.4	11.36	3.00	10.93	2.60
2月	24	675	2091.75	27.3	12.38	2.37	11.93	2.17
3月	27	716	1843.50	28.9	12.20	2.98	11.74	2.12





# 姫路市安室地域包括支援センター

## 令和4年度事業報告書

今年度においても、新型コロナウイルス感染症予防の影響で、地域活動は活発にはできなかったが、下半期において、少しずつ地域活動が再開してきており、コロナ禍前の状況に少しずつでも戻れるよう、状況に合わせ対応した。

高齢者虐待疑いについては、昨年に比べ件数は減ったものの、コロナ禍による外出自粛要請が長期化し、高齢者本人や家族等の負担が増すことにより、高齢者虐待が発生し深刻化するリスクが高まることも考えられ、姫路市高齢者虐待等マニュアルに基づき、市との協議を行い、中央保健福祉センター等関係機関とも連携をとり、対応した。

姫路市各地区で行われている生活支援体制検討会議については、今年度も安室校区で第4回を開催することができた。自治会ごとに話し合いを行い、各地区で今までに意見が出た困りごとから出来ることを話し合い、共有することができた。安室東校区には安室校区での報告を行い、連合自治会長への働きかけを継続していく。

事業所内連携については、毎朝ミーティングの実施を継続し、伝達事項や研修報告、地域役員からの情報、相談者対応の報告等を行うことで、事業所内での情報共有を確実に行った。また、職員会議については、毎月担当者を決め、主催してもらうことで、各職員のスキルアップを目指しており、予定通り開催することができた。

外部研修については、今年度も案内を事業所内で回覧し、受講したい研修があれば受けることができるようにし、オンライン研修を主として全職員が受講できており、今後も事業所全体でのスキルアップにつなげていきたい。

いきいき百歳体操については、サ高住で行っていたグループ1か所、老人会が解散となった地区が2グループ閉鎖となった。昨年度から各グループで介護予防ミニ講座とともにフレイルチェックを行っており、今年度は4グループ実施した。そのうち、2グループで運動指導士による再指導、1グループで歯科衛生士によるオーラルフレイル予防の講座を実施した。

認知症カフェについては、2グループが継続して姫路市に登録できている。ただ、コロナの影響で1グループは再開の目途が立っていない。大池台カフェについては、不定期開催となっているが、徐々に開催回数が増え、今年度は4回開催した。認知症カフェにおいてもフレイルチェックを実施することになっており、大池台カフェでもDASCとともに実施できた。認知症サポーター養成講座については、今年度は4回実施、内1回は校区内の商業施設で実施し、比較的若い世代に向けても啓発することができた。

介護予防については、昨年に引き続き、安室東公民館での介護予防講座を開催した。安室校区でも毎月開催協力している公民館講座「公民館の保健室」で、介護予防講座を開催した。他事業所にも協力してもらい、地域住民が関心を持てるテーマでの講演や体成分分析等で自身の健康チェックができることで喜んでもらった。

今年度も、センター便りを3ヶ月に1回、地域役員向け活動報告書を2ヶ月に1回発行し、

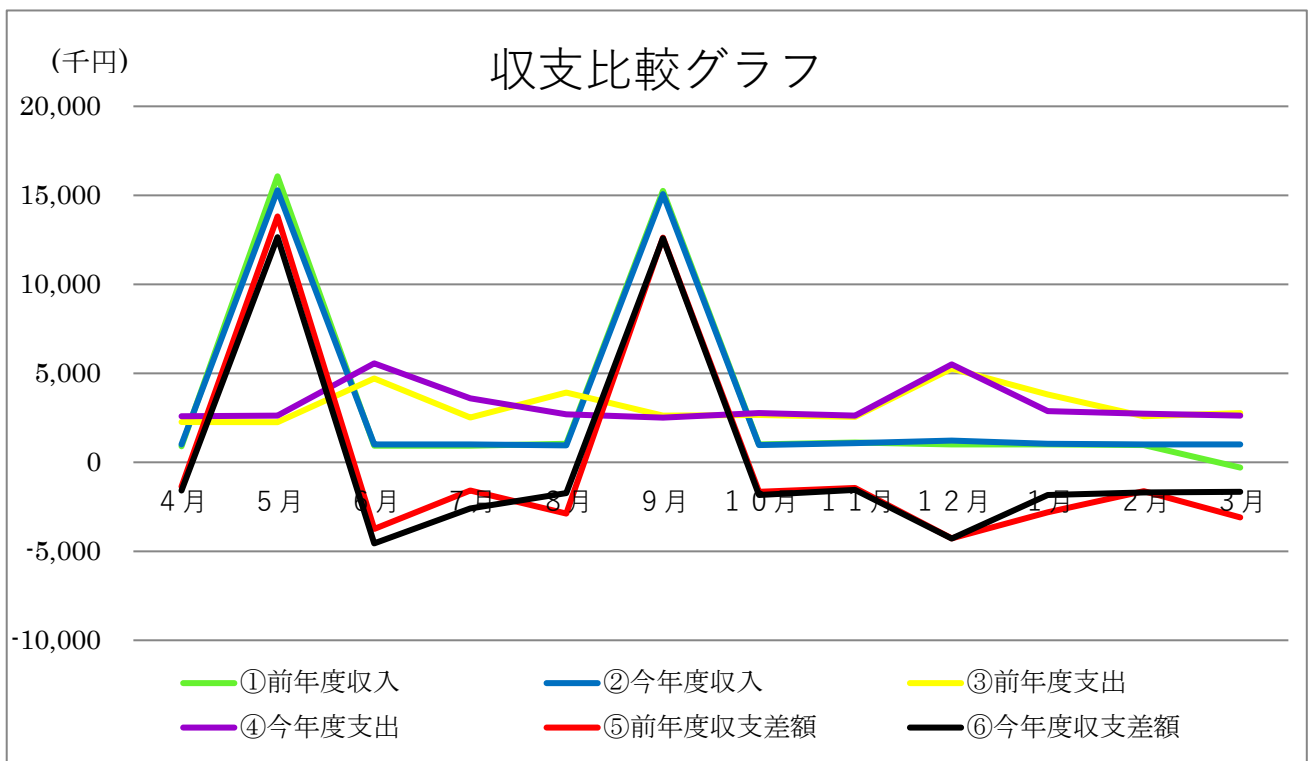
地域包括支援センターの啓発、地域の実情把握を行うとともに、地域との連携強化に取り組んでいる。また、認知症担当職員を中心に、地域の個人医院や商店に挨拶にまわり、地域包括紹介のリーフレットを置いてもらえるよう依頼しており、引き続き地域回りを継続し、地域との連携強化に努めていく。

年間収支比

(千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
①前年度収入	910	16,068	945	939	1,038	15,264	35,164	
②今年度収入	994	15,283	1,001	1,000	951	15,085	34,314	98
③前年度支出	2,280	2,254	4,702	2,531	3,930	2,624	18,321	
④今年度支出	2,591	2,636	5,557	3,594	2,678	2,510	19,566	107
⑤前年度収支差額	-1,370	13,814	-3,757	-1,592	-2,892	12,640	16,843	
⑥今年度収支差額	-1,597	12,647	-4,556	-2,594	-1,727	12,575	14,748	88
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
①前年度収入	998	1,109	991	1,008	959	-296	39,933	
②今年度収入	955	1,072	1,221	1,045	1,016	996	40,619	102
③前年度支出	2,658	2,557	5,264	3,820	2,595	2,784	37,999	
④今年度支出	2,784	2,632	5,504	2,884	2,723	2,639	38,732	102
⑤前年度収支差額	-1,660	-1,448	-4,273	-2,812	-1,636	-3,080	1,934	
⑥今年度収支差額	-1,829	-1,560	-4,283	-1,839	-1,707	-1,643	1,887	98

※5月・9月 姫路市より委託料収入あり



## 総合相談支援事業の相談者（重複あり）

（件）

区分	家族・本人	行政 (市役所)	行政 (警察等)	地域包括 支援セン ター	ケアマネ ジャー	介護保険 サービス事業者	医療機関	民生委員	地域 団体等	その他
4月	78	2	0	2	7	4	6	5	3	78
5月	83	7	0	22	5	9	6	2	4	83
6月	131	1	0	5	5	7	1	4	5	131
7月	118	8	0	7	15	17	6	0	2	118
8月	147	1	0	15	19	8	2	1	4	147
9月	144	5	0	14	7	7	2	1	0	144
10月	126	3	4	28	10	29	4	5	4	126
11月	107	10	0	29	19	8	5	0	5	107
12月	149	7	2	24	14	30	3	4	4	149
1月	190	1	4	23	25	19	7	7	1	190
2月	159	3	3	37	28	26	12	6	12	159
3月	215	1	0	36	52	29	8	6	11	215
合計	1,647	49	13	242	206	193	62	41	55	1,647

# 特別養護老人ホームサンライフ土山

## 令和4年度 事業報告書

行事については、ユニット単位で小規模の夏祭りや敬老会の実施を行ったが、職員の新型コロナウイルス感染や濃厚接触での欠勤による変更等のため、フロアの行き来が行なえなかった。

今年度に入り、ベトナムからのEPA候補生6名の退職が相次いだ。ミャンマーからの特定技能実習生3名とインドネシアからの特定技能実習生4名の入職があり、9月末には特定技能実習生がもう1名入職している。多数の介護職員が新規の職員に入れ替わったことにより、職務の指導や勤務の調整に力を入れることとなった。

利用者様については、施設内での新型コロナウイルス感染後、陰性になっても体調が戻らない方が、入院されそのまま退所に至ったケースが重なり、4月～6月の3カ月間で退所者数が14名となった。入所待機者の入所前面談を行なったが一般的にコロナが蔓延していることを理由に入所を断られたり、入所予定前日で救急搬送され、その後回復されなかった等の理由から、特養入所が滞ったことで収入減となった。

12月頃には、施設内において職員と利用者様共に新型コロナ陽性反応となった。昨年度の対応により職員の出入りや移動を出来る限り減らし、夜勤についても該当フロアは2ユニットで1名のところを、1ユニット1名で対応をおこない、ユニットを超えての感染拡大には至らなかった。

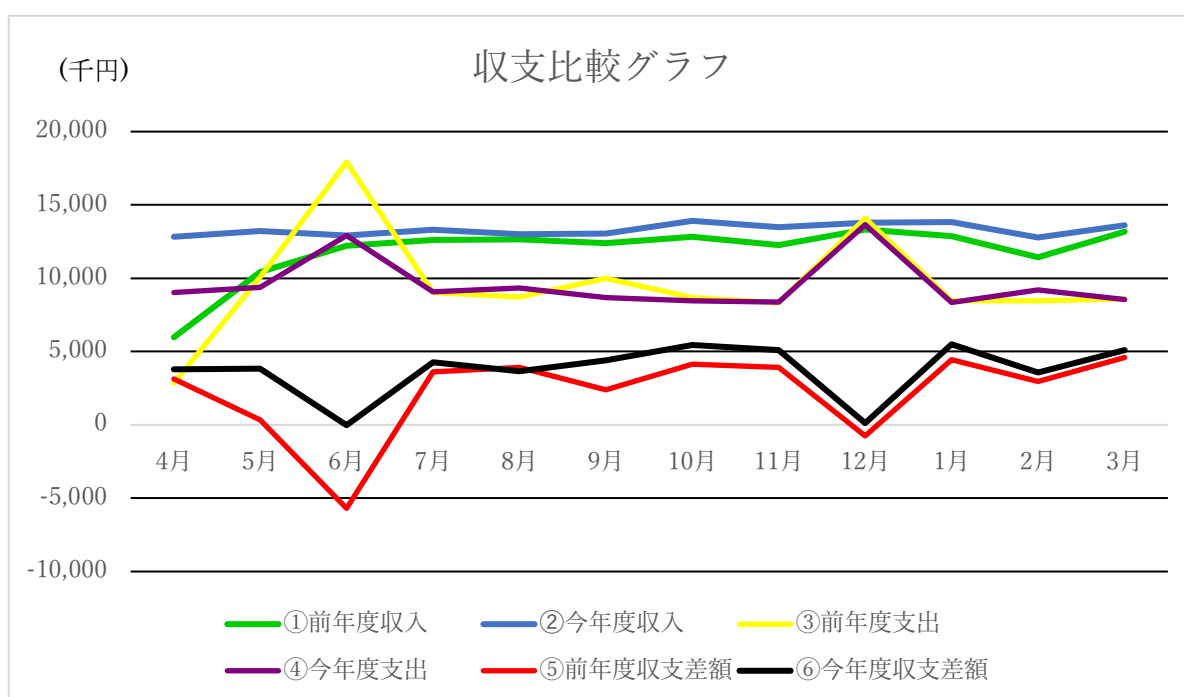
### 1. 年間収支比較

(千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
① 前年度収入	28,860	32,721	29,427	30,569	31,272	29,719	182,568	—
② 今年度収入	28,007	33,061	27,839	30,437	30,434	29,582	179,431	98.3
③ 前年度支出	23,683	22,511	35,117	21,025	27,526	21,560	151,423	—
④ 今年度支出	29,629	23,521	36,138	28,514	22,586	21,248	161,635	106.7
⑤ 前年度収支差額	5,177	10,210	-5,690	9,544	3,745	8,159	31,145	—
⑥今年度収支差額	-1,551	9,540	-8,299	1,924	7,848	8,334	17,796	57.1

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
① 前年度収入	31,003	29,490	29,251	27,143	29,288	29,486	354,674	—
② 今年度収入	30,129	31,210	32,791	30,110	27,869	31,517	363,057	102.4
③ 前年度支出	23,148	20,906	35,271	22,285	24,655	23,750	300,056	—
④ 今年度支出	23,570	21,448	33,947	22,263	23,012	21,497	307,754	102.6
⑤ 前年度収支差額	7,643	8,215	-4,514	4,881	4,803	6,937	55,556	—
⑥ 今年度収支差額	6,981	10,304	-2,479	7,825	4,858	10,019	55,303	99.5

3月に aams の支出は含んでいない。約 3100 万円



## 2. 利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
R3 年度実績	1,942	2,033	1,993	1,997	2,087	2,119	12,197
R4 年度実績	1,872	1,971	1,917	2,035	2,076	1,981	11,852
前年度との差異	-70	-62	-76	-52	-43	-42	-345
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R3 年度実績	2,123	2,038	2,050	2,108	1,912	1,992	24,420
R4 年度実績	2,009	1,945	2,016	2,010	1,861	2,115	23,808
前年度との差異	-114	-93	-34	-98	-51	123	-612

### 3. 入院者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
R3 年度実績	122	99	81	14	8	45	369
R4 年度実績	188	138	53	20	7	50	456
前年度との差異	66	39	-28	6	1	-5	87
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R3 年度実績	34	56	96	35	48	167	805
R4 年度実績	154	147	125	122	57	36	728
前年度との差異	-120	-91	29	87	9	-131	-77

### 4. 稼働率

(単位：%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
R3 年度実績	92.5	93.7	94.9	96.1	97.6	96.3	95.2
R4 年度実績	89.1	90.8	91.3	93.8	95.7	94.3	92.5
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R3 年度実績	97.8	97.0	94.4	97.4	97.5	91.8	95.6
R4 年度実績	92.6	92.6	92.9	92.6	95.0	97.5	93.7

### 5. 令和4年度別要介護度別利用者数

	要介護3	要介護4	要介護5	合計
65歳未満	0	0	0	0
65歳以上～75歳未満	577 (19)	705 (24)	47 (2)	1329 (45)
75歳以上～85歳未満	402 (14)	4018 (134)	1375 (46)	9113 (194)
85歳以上～95歳未満	3226 (108)	7300 (250)	3766 (126)	14292 (484)
95歳以上	16 (1)	548 (18)	1549 (53)	2113 (72)
100歳以上	275 (9)	789 (26)	312 (11)	1376 (46)
合計	4496 (151)	13360 (452)	7049 (238)	24905 (841)

前半の数字は延べ日数、()内の数字は実人数を示しています。

## 6. 令和4年度 事故分類別発生者数

	A	B	C	合計
合計	2	3	191	196

・A様 AM5:30 センサーマットがなったため訪室すると、左膝をついて床にうずくまっているご本人を発見。外傷なし。左足の痛みの訴えあり。車いすのブレーキは外れた状態であった。八家病院受診。左大腿骨頸部骨折の診断。

・Y様 AM7:00頃、「おーい」と居室より大きな声を出されていたため、訪室。ご本人が床に左側臥位になっている状態を発見する。左肘に0.7cm大の擦過傷一つあり。内出血、膨脹等なし。左臀部膨脹、熱感等なし。左下肢ほとんど自力で動かすこと出来ない。左下肢屈曲や外転時に疼痛あり。他両肩、両肘、右下肢等自動運動可能で疼痛なく動きもスムーズ。頭は打っていない。外傷なし、レベル低下なし。

姫路田中病院受診し、左大腿骨転子部骨折との診断。

## 7. 令和4年度 退所者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
看取り介護	2	0	0	0	0	0	2
病院	3	3	6	0	0	1	13
急死	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
合計	5	3	6	0	0	1	15
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
看取り介護	0	0	1	0	1	1	5
病院	1	2	0	0	3	0	19
急死	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	1	0	0	1
合計	1	2	1	1	4	1	25

# サンライフ土山ショートステイ

## 令和4年度 事業報告書

本年度は、昨年度同様に新型コロナウイルス感染予防対策として感染対策員会で決まったことを職員一人ひとりが徹底すること、手洗い・消毒・うがい・マスクの着用の徹底及び不要不急の外出を控え感染防止に努め責任ある行動をとっていくを目標に取り組んだ。フロア・ユニットスタッフで感染が発症したが、事前の連絡により休んで頂くことで感染拡大を防ぐことができた。

忘れ物に関しては、薬の袋・目薬や塗り薬といった小さな荷物の忘れ物が目立ったが、居室ごとに小物ケースを購入することで改善に繋がった。荷物の写真も撮影場所によっては、蛍光灯・電球によって色彩が変わってくるので統一した場所で徹底することで改善に繋がった。

今年度の事故件数は 25 件で昨年度の 32 件を減少した。皮膚の弱い利用者様の内出血や剥離、独歩の方が歩行時に転倒されるといったことに関して原因の追究と対策を部署で話し合い、再発防止に努めた。

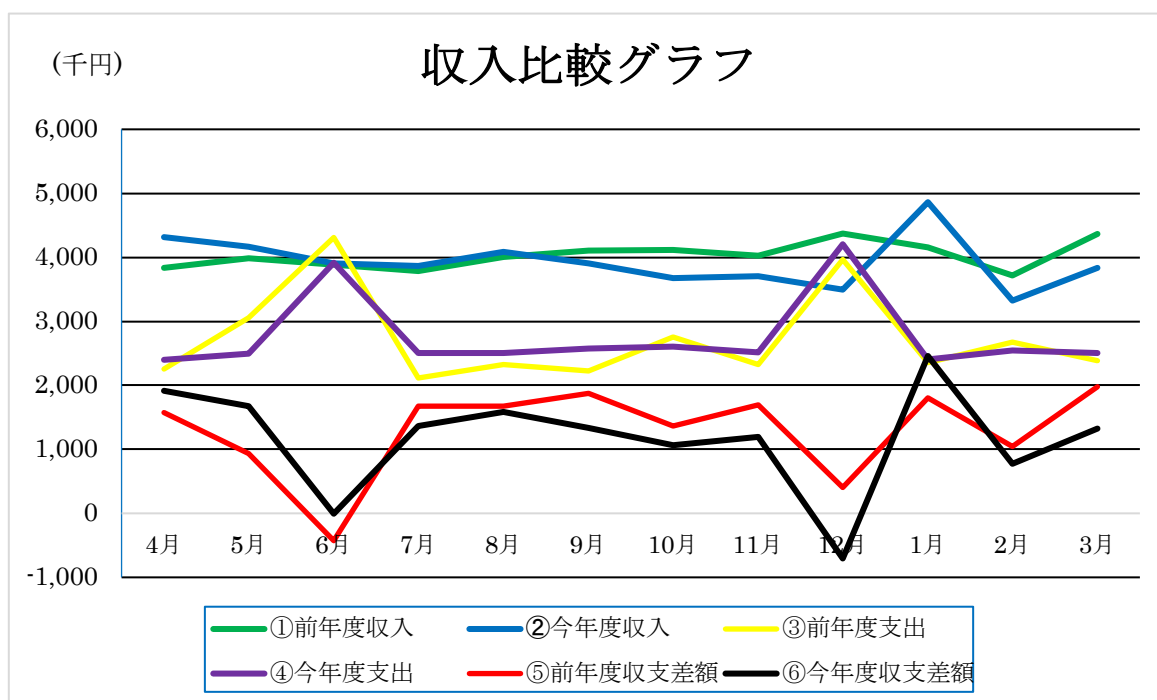
収入面では、目標である稼働率98.5%を達成が出来ず、今年度の平均稼働率は76.9%。利用人数・宿泊人数・収入すべてが前年度を下回る結果となった。今年度、ロングから土山特養入所者15名。年間通してロングショートの定着・特養へスムーズに移行することが出来ず反省点であり、空床が発生しないよう努めていく。

### 1. 年間収支比較

(千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
①前年度収入	3,185	4,255	4,513	4,215	3,914	3,683	23,765	—
②今年度収入	3,351	2,987	2,208	2,792	3,282	3,151	17,771	74.7
③前年度支出	2,845	2,753	4,669	2,677	3,299	3,219	19,462	—
④今年度支出	3,647	2,561	4,309	3,806	2,874	2,710	19,907	102.2
⑤前年度収支差額	340	1,502	-156	1,538	615	464	4,303	—
⑥今年度収支差額	-296	427	-2,101	-1,014	408	441	-2,136	49.63
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
①前年度収入	4,236	3,894	4,479	3,373	2,428	3,855	46,030	—
②今年度収入	3,349	3,106	3,519	4,187	2,762	2,955	21,649	47.03
③前年度支出	2,852	2,641	4,571	2,664	2,999	2,701	37,890	—
④今年度支出	2,740	2,576	4,206	2,867	3,068	2,806	38,170	100.7
⑤前年度収支差額	1,384	1,253	-92	709	-571	1,154	8,140	—
⑥今年度収支差額	609	530	-687	1,320	-306	149	-521	6.4





## 2. 令和3年度・令和4年度 利用人数比較 (人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
3年度実績	238	314	298	303	292	283	1,728
4年度実績	246	248	195	179	218	241	1,327
前年との差異	8	-66	-103	-124	-74	-42	-401
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
3年度実績	300	291	322	283	146	277	3,347
4年度実績	247	250	264	264	240	213	2,805
前年との差異	-53	-41	-58	-19	94	-64	-542

## 3. 令和3年度・令和4年度 宿泊人数比較 (人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
3年度実績	193	273	257	260	252	240	1,475
4年度実績	215	205	156	143	196	211	1,126
前年との差異	22	-68	-101	-117	-54	-29	-347
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
3年度実績	260	246	286	244	133	244	2,888
4年度実績	220	224	232	226	205	177	2,410
前年との差異	-40	-22	-4	-18	72	-67	-426

4. 令和3年度・令和4年度 月ごとの稼働率 (%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
稼働率 (3年)	79.3	101.2	99.3	97.3	94.1	94.3	
稼働率 (4年)	82.0	80.0	65.0	57.7	70.3	80.3	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
稼働率 (3年)	96.7	97.0	103.8	91.2	52.1	89.3	91.3
稼働率 (4年)	79.6	83.3	85.1	85.1	85.7	68.7	76.9

5. 令和4年度年齢別・介護度別利用者数

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
65歳未満								
65歳以上～ 75歳未満					9 (1)			9 (1)
75歳以上～ 85歳未満			40 (10)	97 (29)	303 (30)	146 (10)	106 (6)	692 (85)
85歳以上		62 (16)	652 (81)	331 (43)	613 (46)	386 (30)	57 (6)	2101 (222)
合計		62 (16)	692 (91)	428 (72)	926 (77)	532 (40)	163 (12)	2803 (308)

前半の数字は延べ日数、( )内の数字は実人数を示しています

6. 令和3年度・令和4年度 事故件数比較

	A	B	C	合計
事故件数 (3年)	1	1	30	32
事故件数 (4年)		1	24	25

A：入院加療を要する事故 B：受診・通院を要する事故 C：受診・通院を要さない事故

R4年度A

B 右上腕部に内出血

## 特別養護老人ホームサンライフ土山（医務）

### 令和4年度 事業報告書

令和4年度も新型コロナウイルス蔓延の中、医務・感染委員が中心となり、前回の施設内感染発症時の検証、感染症発症時のマニュアル・業務継続計画（BCP）の改善、外部研修に参加し施設内職員に対して内部研修の実施、コロナ感染症発症時に備えた訓練（シミュレーション）の実施、早期に入居者・職員がワクチン接種出来るよう提携病院への働きかけ、日頃から入居者・職員の健康状態把握し必要時受診や検査を受けられるよう働きかける等感染拡大防止に努めた。しかし、12月21日入居者1名のコロナ感染が判明した。迅速な感染対策等を行い入居者7名、職員2名の発症、1ユニット内の感染にとどめ、1月5日に終息した。詳細として、他職種と連携を密にし、日々入居者の状態を把握・判断し、協力病院や保健所に積極的に報告し指示を仰いだ。施設でコロナ治療薬の内服投与・酸素投与・点滴治療等を行った。尽力をつくしたが呼吸状態や意識レベルの悪化により救急車を2件要請しうち1名は搬送・入院することとなった。状態悪化により救急搬送した1名は、熱発・咳などの症状が出ているにも関わらずコロナ抗原検査を数日にかけて数回行うも陽性にならずコロナ治療薬の内服投与が遅くなったことが起因の1つと考えられる。救急搬送し入院とならなかった入居者に関しては意識レベルや呼吸状態悪化等みられたが、コロナ治療薬や他症状に関する薬剤の内服投与・酸素投与・点滴治療を行い徐々に回復しコロナ罹患前の状態に戻ることができた。他のコロナ感染入居者も罹患前の状態に戻り今回も死亡者数を0名に抑えることができた。介護保険課からも1ユニット内で感染を抑えることができたのは以前の経験が活かされ感染対策が行えていたからという意見も頂いた。看護師が感染フロアに1人は必ず入り入居者の身体状況の観察・判断・必要時検査を行い、介護士と共にケアを行った。また介護士へ感染指導等も行い、介護士の不安・負担の軽減にも努めた。前回のクラスター経験を活かし感染対策備品も必要量確保していたため、不足する事なく円滑に業務を行うことができた。今後感染症法上第5類相当になるがウイルスの感染力がなくなるわけではないので引き続き医務を中心とし感染対策を強化していく。

今年度は施設での看取り希望者に対し6名の方を看取った。コロナ流行後より長らく入居者と家族が面会できておらず家族が入居者の現状を把握できていない状況にあった。そこで家族・嘱託医・介護と連携を密にとり看取りに対しての入居者・家族の意向を十分確認、必要時には数回話し合いの場や面会のセッティング等を行い、チーム一丸となって看取りケアに臨むことができた。コロナ禍でも家族に防護服を着てもらうことで面会を可能とし、家族が最後まで付きそうことができる体制を整えた。数名の家族からここで看取ってもらえて良かったと言って頂き、他にも好意的な評価のみ頂くことができた。今後も入居者の尊厳を守り、看取り介護の充実と体制の構築に努めたい。

平均介護度 4.02（前年度 4.06）入居者の高齢化・重度化している状況の中、多職種と情報共有や、ケア・サービスの方向性の検討・統一する場を頻回に設け、介護度・病状が重度化しないよう取り組んだ。土日の看護師の勤務時間が 8 時から 17 時までであったが、夕食時中に誤嚥し状態が悪くなる利用者等の対応するため、勤務時間を 8 時から 18 時までに変更し急変等に臨んだ。吸引を必要とする利用者も増え、6 名の認定特定行為業務従事者の介護士と連携し必要な時期に家族・医師から吸引同意書を得、吸引を行い誤嚥や窒息、肺炎予防に努めた。リーダー会議や朝礼等でも施設内研修を行いスキルの向上を図った。しかし、今年度も入院者数が多く、入院者数 27 名、延べ入院日数 1097 日、稼働率 93.2 となった。入院内訳として、肺炎での入院 10 名、コロナ後の呼吸不全 2 名、心不全 1 名、尿路感染症 3 名、急性腎盂腎炎 1 名、骨折 2 名、癌直腸内感染 1 名、腎不全 1 名、急性心筋梗塞 1 名、イレウス 1 名、胆嚢炎 2 名、器質性精神障害 1 名、大脳皮質基底核末期による摂食障害 1 名であった。日頃から嘱託医に状態を報告、早期に受診・内服点滴治療の開始など施設内での対応に臨んだが結果入院となるケースが多かった。今後も入院者数を減らし、また入院となった場合でも早期に施設に戻る事ができるよう再度医療機関へも働きかけ、施設での安楽な生活を過ごせるよう連携を取っていききたい。以前より皮膚トラブルが多くこれに起因する入院もあったため、本年度から皮膚科往診開始に向けて取り組み、やまもと皮膚科・漢方クリニックの医師に往診に来て頂けるようになった。これにより皮膚の健康状態の促進に繋がり、蜂窩織炎等皮膚トラブルに関する入院はなくなった。褥瘡発生時にも適切な指示や処方を受けるようになり悪化を防ぐことができた。また入居者・家族から受診の負担が減ったと好意的な意見を多数頂いた。また骨折が 2 件、誤薬が 3 件あった。看護師も直接現場を検証し改善対策について数回にわたり介護士と話し合い必要時助言を行い、また医務で改善出来る所については業務の見直し・研修を実施し再発防止に向けて取り組んだ。

日頃から他職種とのコミュニケーションを大切にし、健康について等相談しやすい雰囲気の構築に努めた。結果職員から相談があり助言や必要時受診の付き添いも行った。外国人スタッフの増加もあり、今後も職員の健康保持に努められるよう引き続き日頃からの関わりを大切にしていきたい。

医務でも OJT に取り組み、物品配置等による動線の効率化、薬局・嘱託病院と連携し業務の簡略化、その空いた時間を入居者様への看護に繋げ、また残業の減少にも繋げた。

今後も多職種と連携し安心・安全な看護提供ができるよう努めていきたい。

## 1. 褥瘡

項目	R4 年 9 月末日	R5 年 3 月末日
褥瘡者	0 名	5 名（うち 1 名持ち込み）

## 2. 看取り

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
R4 年	2 名	0 名	0 名	0 名	2 名	0 名	0 名	0 名	0 名	0 名	1 名	1 名	6 名

3. 利用者数・稼働率・入院者数・延べ入院日数・退所者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用者数 (人)	1872	1971	1917	2035	2076	1981	2009	1945	2016	2010	1861	2115	23808
稼働率 (%)	89.1	90.8	91.2	93.8	95.6	94.3	92.6	92.6	92.9	92.6	95.0	97.4	93.2
入院者数 (人)	2	3	3	1	1	3	5	1	3	2	0	3	27
延べ入院 日数	188	138	53	20	7	50	154	147	125	122	57	36	1097
退所者 (人)	5	3	6	0	0	1	1	2	1	1	4	1	25

I. 肺炎予防の対策として、上野歯科と連携し、口腔内をいつも綺麗にしておくことや寝る姿勢等日常生活の工夫をし、誤嚥しないように唾液腺マッサージや嚥下体操を施行し肺炎予防に努めた。

4. R4年度 事故

	計
Aランク	2
Bランク	3
Cランク	179
合計	184

A：入院加療を要する事故 B：受診・通院を要する事故 C：受診・通院を要さない事故

Aランク：車椅子から転落され左大腿骨頸部骨折、歩行時転倒され左大腿骨転子部骨折

Bランク：移乗介助時に柵に左前額部強打し裂創、車椅子からの転落により右前額部裂創、上腕二頭筋断裂（経緯不明）

Cランク：誤薬3件 薬の飲み忘れ等15件

5. 研修

	研修項目	参加人数
6月	糖尿病について	15人
10月	感染対策について	10人
10月	AED、心肺蘇生	20人
11月	PPEの着脱方法	6人
3月	レビー小体型認知症	10人

# 特別養護老人ホームサンライフ土山(厨房)

## 令和4年度 事業報告書

令和4年度は、目標に挙げていた「異物混入をなくす」を達成することが出来た。異物混入ゼロは本来当たり前のことではあるが、就業前の厨房着のコロコロやラップの使い方、ネットのかぶり方等、少しずつ定着してきていることが結果につながったと思われる。引き続き、衛生管理を徹底していく。

また、昨年度木ベラの木片が混入してしまったことから、ヘラは全て欠けにくい素材の物に変更した。それと同時に調理器具の点検を行い、少し破損しているが「もったいないから」「まだ使えるから」と使用していた器具もケガや異物混入につながる恐れがあるため、破損している器具は買い替えを行った。

配膳ミスに関しては、献立表中のアレルギー食材にマーカーで色付けしていることと、アレルギー食材に対する職員の認識も上がってきており、昨年度のようにアレルギーの方に間違えて提供してしまうことはなかったが、厨房内で各ユニットのカートに分ける段階での置き間違いが何度も起きてしまった。カートに置く際には、きっちりユニットを確認し、最終の確認を徹底する。

適正人数で厨房運営を行うことに関しては、常に人員不足で非常に厳しい厨房運営を行っていたが、年度末に新しく非常勤職員2名が加わった。それにより、令和5年度は制限していたメニューを献立に組み込むことや今まで手が回っていなかった掃除等も定期的に行える予定である。

また、人員不足のため今まで調理を担当していなかった職員が調理を担うようになり、職員個々のスキルはアップした。

その他に、人員不足時に完全調理済み食品を使用していたが、封を切るだけで使用可能であるため、非常食として活用できないか検討中である。

昨年度コロナ陽性となった職員が2名いたが、幸い厨房内で拡がることなく時期もバラバラであったため、他の職員でカバーすることができた。しかし、職員が同時になった場合や管理栄養士が休まなければならなくなった場合も想定して、対応を検討しておく必要がある。

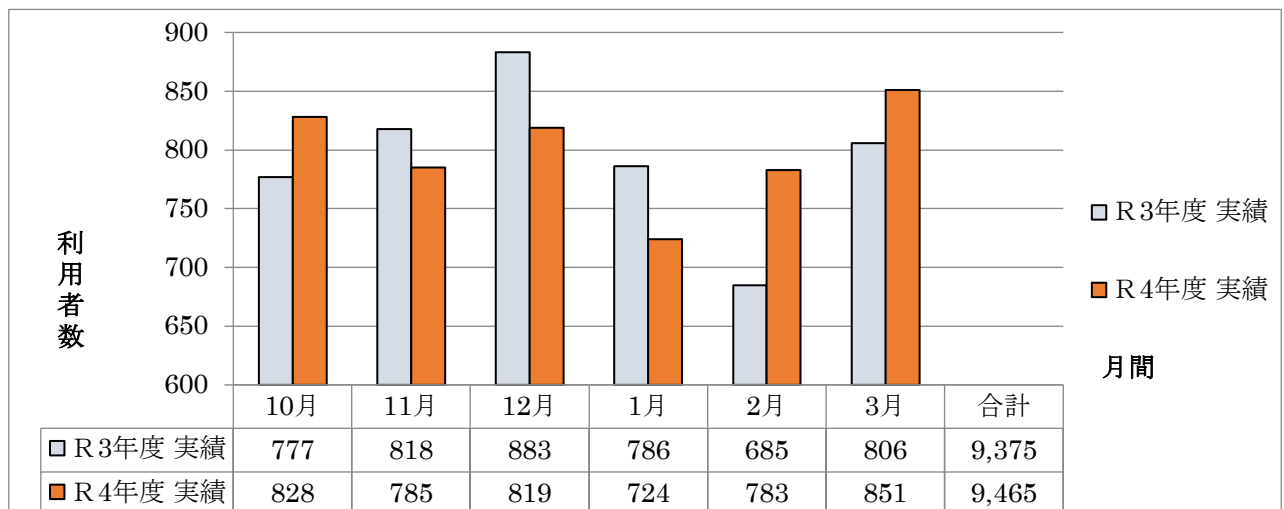
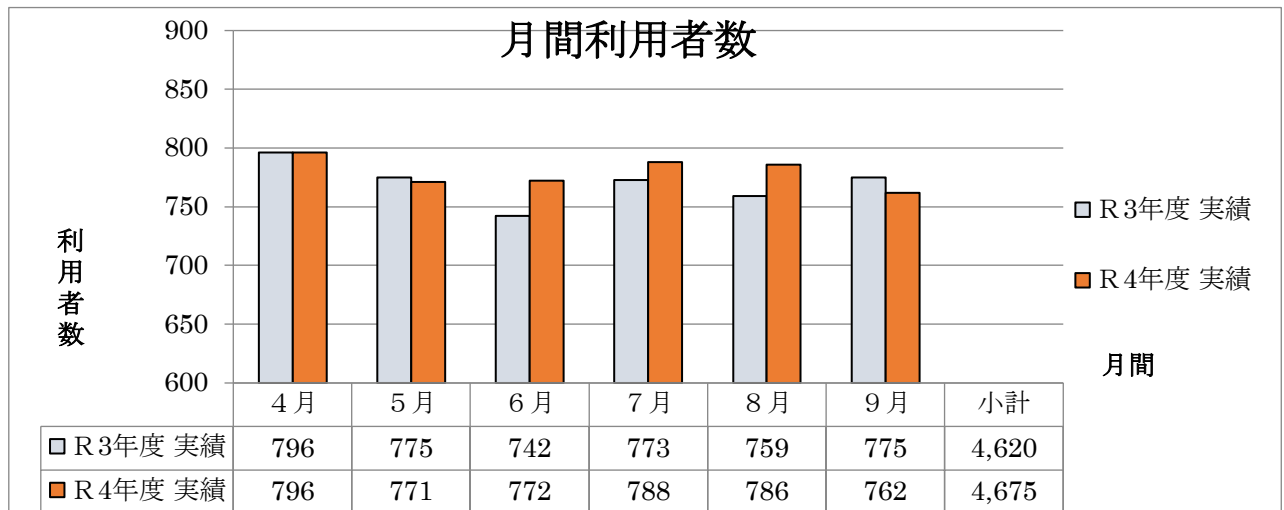
引き続き、コロナウイルス感染症を厨房に持ち込まないよう、手洗い・消毒を徹底し、体調が悪い時は遠慮せず言える職場環境に努める。

# デイサービスサンライフ土山

## 令和4年度 事業報告書

感染対策を講じて事業を継続させることを最重要課題として、感染リスクを考慮しながら、コロナ禍でも安心してデイサービスをご利用いただけるよう努めた。これまで定期的に行っていた行事・イベントの実施やボランティアの受け入れには至っておらず、密を避け、感染予防に努めながらのサービス提供となった。収入面は月平均利用者数30.6名となり、目標の31.0名を達成出来ず、わずかな収入増となった。支出面では人件費等経費増大により大幅な支出増となった。結果収支差額は約6%減となっている。引き続き、介護支援専門員・他事業所との連携を図り、新規顧客の獲得に繋げていきたい。既存の利用者様においては、今後も必要な感染対策を継続し、安心・安全に過ごしていただくことが出来るよう努めていきたい。

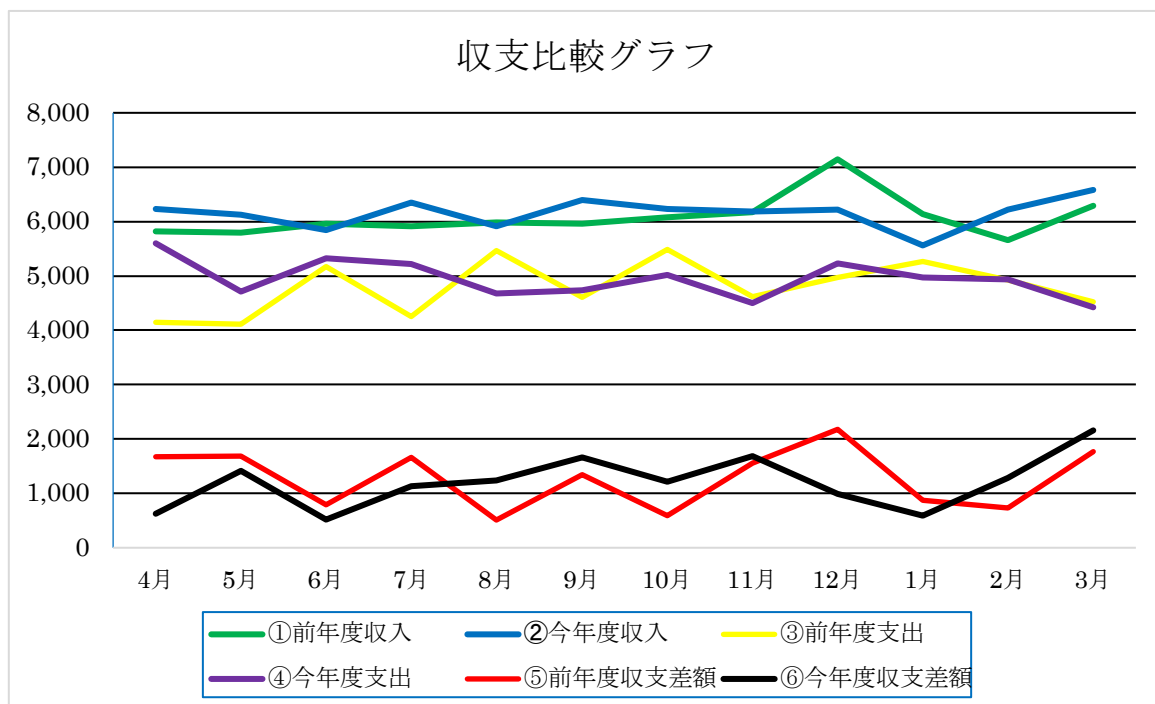
### 1. 利用者数



## 2. 年間収支比較

(千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
① 前年度収入	5,821	5,800	5,960	5,916	5,981	5,955	35,433	—
② 今年度収入	6,226	6,125	5,844	6,346	5,913	6,397	36,851	104
③ 前年度支出	4,144	4,112	5,174	4,251	5,471	4,606	27,758	—
④ 今年度支出	5,600	4,707	5,326	5,216	4,679	4,739	30,267	109
⑤ 前年度収支差額	1,677	1,688	786	1,665	510	1,349	7,675	—
⑥ 今年度収支差額	626	1,418	518	1,130	1,234	1,658	6,584	86
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
① 前年度収入	6,081	6,173	7,145	6,138	5,658	6,292	72,920	—
② 今年度収入	6,230	6,187	6,220	5,561	6,216	6,582	73,847	101
③ 前年度支出	5,487	4,614	4,967	5,264	4,927	4,525	57,542	—
④ 今年度支出	5,021	4,498	5,229	4,968	4,936	4,423	59,342	103
⑤ 前年度収支差額	594	1,559	2,178	874	731	1,767	15,378	—
⑥ 今年度収支差額	1,209	1,689	991	593	1,280	2,159	14,505	94





### 3. 年齢別・介護度別利用者数

	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
65歳以上 75歳未満	53 (12)	78 (11)	549 (68)	164 (14)	2 (1)	95 (12)		941 (118)
75歳以上 85歳未満	223 (51)	400 (46)	533 (42)	1040 (68)	233 (21)	134 (13)	60 (8)	2623 (249)
85歳以上	357 (66)	968 (131)	2079 (198)	1595 (136)	684 (60)	208 (34)	10 (2)	5901 (627)
合計	633 (129)	1446 (188)	3161 (308)	2799 (218)	919 (82)	437 (59)	70 (10)	9465 (994)

前半の数字は延べ回数、( )内の数字は実人数を示しています

### 4. 職員充足度 (R5年3月現在)

職員 16 名 (正職員 3 名 非常勤看護師 3 名 非常勤介護職員 10 名)

個別機能指導員 (看護師) 1 名含まない

	営業 日数	利用者/ 月	職員総時間数/ 月	利用者/ 日	職員 /日	職員 一人 対	職員/日	職員一人対
4月	26	796	2316.5	30.6	13.5	2.26	12.8	2.40
5月	26	771	2299.5	29.7	13.0	2.29	12.3	2.42
6月	26	772	2358.5	29.7	13.8	2.16	13.1	2.27
7月	26	788	2176.8	30.3	12.3	2.47	11.6	2.61
8月	27	786	2135.0	29.1	12.1	2.41	11.4	2.56
9月	26	762	2222.5	29.3	13.0	2.26	12.2	2.41
10月	26	828	2293.5	31.8	13.0	2.46	12.2	2.61
11月	26	785	2270.5	30.2	13.2	2.28	12.6	2.40
12月	27	819	2454.5	30.3	13.9	2.19	13.1	2.32
1月	23	724	2198.8	31.5	12.4	2.54	11.8	2.67
2月	24	783	2059.0	32.6	12.9	2.53	12.1	2.69
3月	27	851	2047.0	31.5	11.6	2.73	10.8	2.92

# サンライフ土山居宅介護支援事業所

## 令和4年度 事業報告書

1年間通して総収入に関しては大きく増減はなかったが、要介護者の新規依頼も介護1～2の方が多く収入増に繋がることなく、居宅介護支援費は前年の収入実績に届かなかった。事業所全体で要介護者の74%が介護1～2の方で、上半期の収入も増えなかった事も影響していると思われる。事業所開設から5年目に入り、事業所の名前も覚えて頂けるようになり「予防」「介護」の新規依頼件数は、年間通して安定しており、地域の方からの直接の相談も増えてきている。今後も担当利用者の身体状態や生活環境をしっかりと把握し、満足して頂けるプラン作成が行えるように、身体状態に応じて区分変更申請や介護サービス内容の見直しがスムーズに行うことが出来るように努めたい。

### 1. 介護度別利用者推移

(単位：人)

介護度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
1～2	57	54	57	56	56	61	341
3～5	17	16	13	17	12	13	88
介護度	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1～2	59	62	65	65	65	64	721
3～5	14	19	18	17	17	16	189

### 2. 居宅介護料収入

(単位：千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和3年度	916	930	955	1,029	1,009	947	5,786
令和4年度	881	852	813	897	779	933	5,115
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和3年度	1,013	1,013	1,022	909	952	927	11,622
令和4年度	856	956	957	989	967	1,000	10,880

### 3. 予防委託料収入

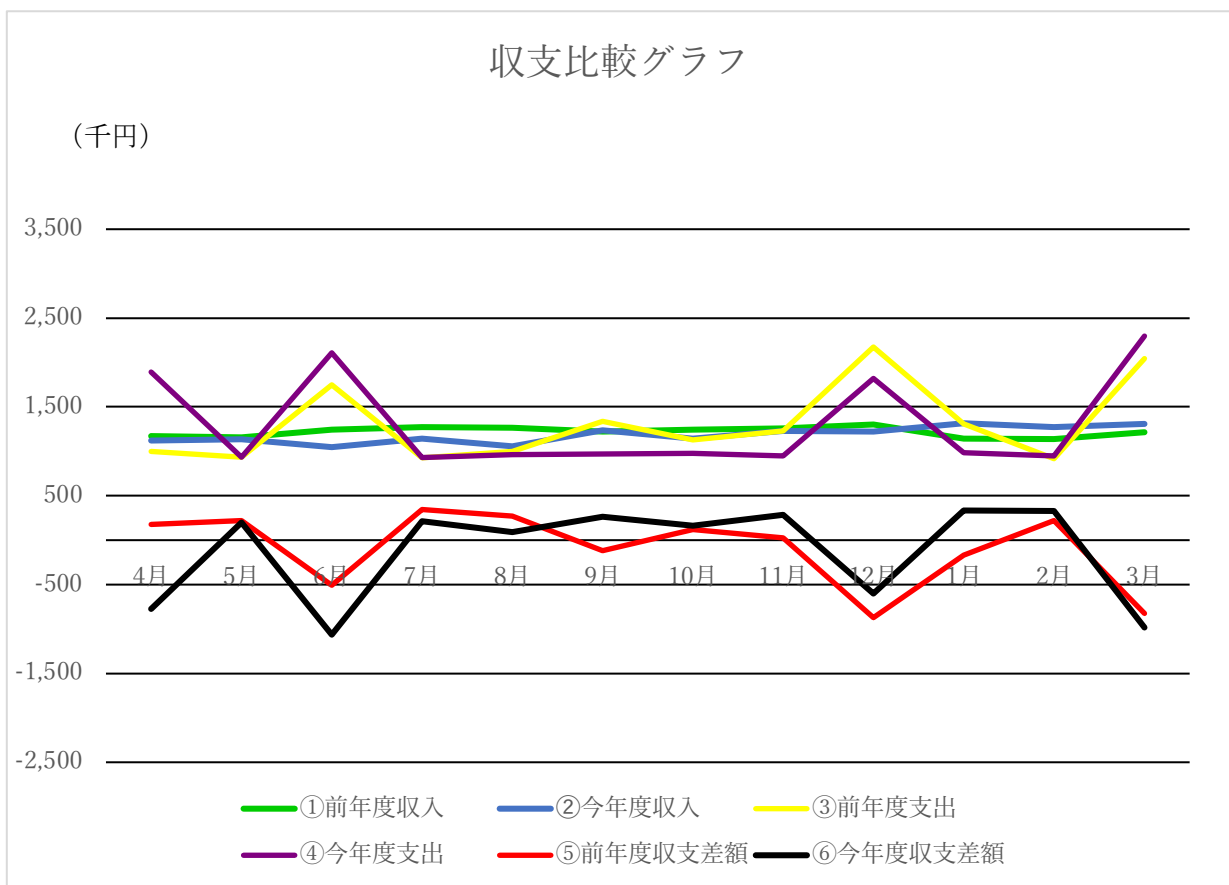
(単位：千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和3年度	163	147	144	136	132	136	858
令和4年度	136	132	117	157	177	184	903
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和3年度	145	135	153	124	142	137	1,694
令和4年度	215	174	170	175	192	187	2,016

#### 4. 年間収支比較

(千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
①前年度収入	1,174	1,154	1,242	1,270	1,267	1,219	7,326	—
②今年度収入	1,118	1,137	1,047	1,142	1,059	1,239	6,742	92
③前年度支出	999	931	1,749	925	997	1,336	6,937	—
④今年度支出	1,894	935	2,111	930	966	973	7,809	112.6
⑤前年度収支差額	175	223	-507	345	270	-117	389	—
⑥今年度収支差額	-776	202	-1,064	212	93	266	-1,067	—
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
①前年度収入	1,244	1,255	1,302	1,142	1,138	1,217	14,624	—
②今年度収入	1,143	1,230	1,224	1,316	1,273	1,311	14,222	97.4
③前年度支出	1,125	1,227	2,174	1,311	917	2,044	15,735	—
④今年度支出	977	947	1,823	982	945	2,297	15,780	100.3
⑤前年度収支差額	119	28	-872	-169	221	-827	-1,111	—
⑥今年度収支差額	166	283	-599	334	328	-986	-1,541	—

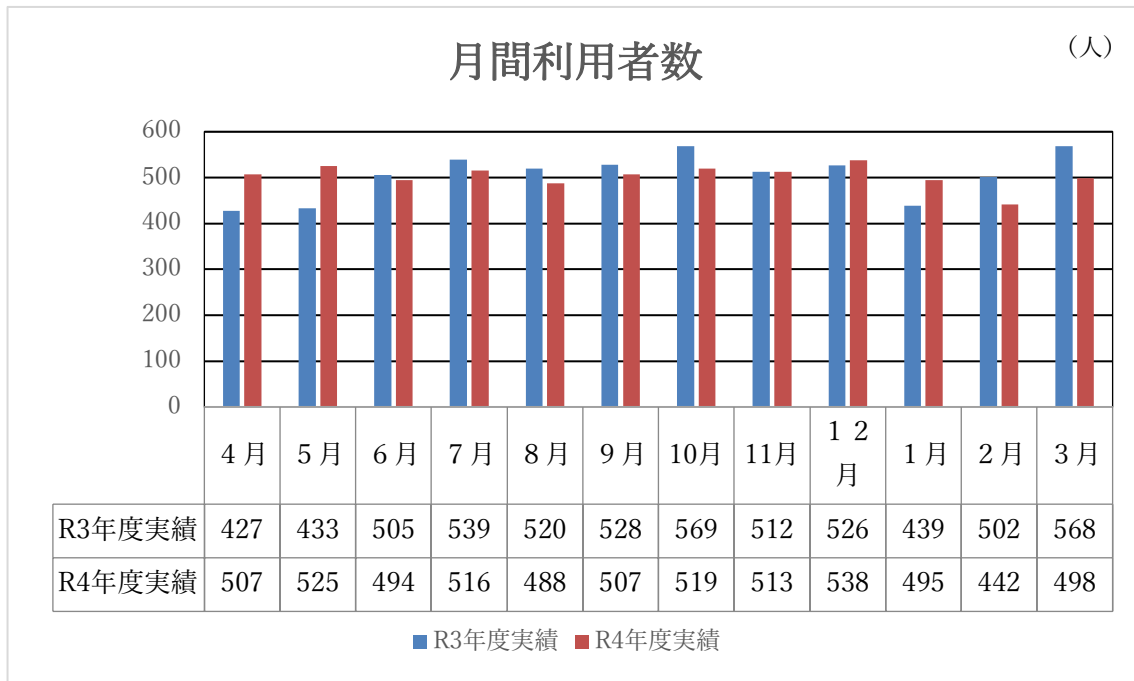


# リハビリデイサービス サンライフ御立西

## 令和4年度 事業報告書

令和4年度ささゆり会経営スローガンである「足腰・頭を鍛え、いつまでも健康で楽しく暮らして頂く為の介護支援を目指す」に基づき、御立西での人気であるレッドコードを活かして利用者様の身体機能の維持・向上を目指し退院後も在宅生活を継続できるよう支援を行った。前年度よりも新型コロナの影響で施設内でも利用者・職員ともに感染者が発生してしまい、平均20人を目標としていたが感染・感染疑いによる休みの追加、週の利用回数が多いご利用者の利用中止が重なったこと、新規獲得するも週回数が増えない状況であることもあり、平均18.1名と目標には届かない結果となった。そのため収入面も前年度に比べ約130万減収となってしまった。支出面では修繕費・人件費が重なり大幅に増加となっている。引き続き新規利用者獲得の営業活動を継続するとともに、現在利用されているご利用者の利用回数が増やしていけるよう利用者満足度向上に努めていきたい。

### 1. 利用者数



令和3年度実績 6042人

令和4年度実績 5627人

前年度比 93.1%

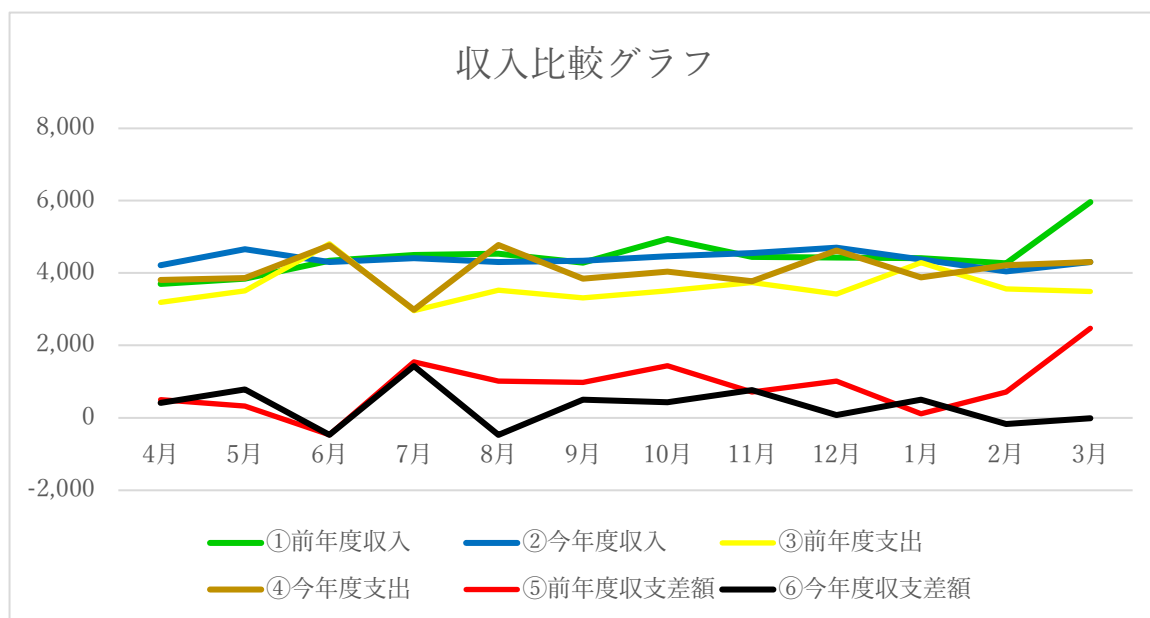
## 2. 年間収支比較

(千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
① 前年度収入	4,223	4,657	4,306	4,421	4,312	4,347	26,266	—
② 今年度収入	4,622	4,296	4,479	4,205	4,126	3,955	25,683	97.7%
③ 前年度支出	3,804	3,872	4,774	2,988	4,778	3,852	24,068	—
④ 今年度支出	4,624	3,961	5,003	4,472	4,444	3,728	26,232	108.9%
⑤ 前年度収支額	419	785	-468	1,433	-446	495	2,198	—
⑥ 今年度収支差額	-2	335	-524	-267	-318	227	-549	—

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
① 前年度収入	4,475	4,549	4,704	4,376	4,048	4,306	52,724	—
② 今年度収入	4,124	4,143	4,589	4,004	4,256	4,646	51,445	97.5%
③ 前年度支出	4,037	3,777	4,622	3,874	4,213	4,315	48,906	—
④ 今年度支出	3,806	3,538	5,172	4,123	4,440	4,214	51,525	105.3%
⑤ 前年度収支差額	438	772	82	502	-165	-9	4,117	—
⑥ 今年度収支差額	318	605	-583	-119	-184	432	-80	—



### 3. 年齢別・介護度別利用者数

	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
65歳未満			95 (13)		126 (12)			221 (25)
65歳以上 75歳未満			138 (14)	92 (12)	336 (26)	171 (14)	17 (2)	754 (68)
75歳以上 85歳未満	162 (42)	396 (60)	1044 (107)	370 (45)	179 (17)	130 (12)		2281 (283)
85歳以上	130 (32)	680 (87)	893 (106)	553 (64)	99 (17)		37 (10)	2392 (316)
合計	292 (74)	1076 (147)	2170 (240)	1015 (121)	740 (72)	301 (26)	54 (12)	5648 (692)

前半の数字は延べ回数、( )内の数字は実人数を示しています

### 4. 職員充足度 (R5年3月末現在)

職員名：20名【内訳】正職員3名、非常勤職員17名

	営業 日数	利用者/月	職員総時間数 /月	利用者/日	職員/月	職員一人 対	個別機能指導員 1名含まない	
							職員/月	職員一人 対
4月	26	500	1,441	19.15	8.6	2.2	7.6	2.5
5月	26	495	1,477	19.04	8.8	2.2	7.8	2.4
6月	26	484	1,523	18.58	9.1	2.0	8.1	2.3
7月	26	464	1,417	17.85	8.4	2.1	7.4	2.4
8月	27	427	1,481	15.78	8.8	1.8	7.8	2.0
9月	26	442	1,530	16.96	9.1	1.9	8.1	2.1
10月	26	455	1,476	17.50	8.8	2.0	7.8	2.2
11月	26	455	1,497	17.42	8.9	2.0	7.9	2.2
12月	27	505	1,620	18.70	9.6	1.9	8.6	2.2
1月	23	434	1,477	18.87	8.8	2.1	7.8	2.4
2月	24	468	1,279	19.46	7.6	2.6	6.6	2.9
3月	27	498	1,498	18.41	8.9	2.1	7.9	2.3

# 特別養護老人ホームサンライフ西庄

## 令和4年度 事業報告書

令和4年度経営スローガンである「足腰・頭を鍛え、いつまでも健康で楽しく暮らして頂く為の介護支援を目指す。」をもとに、レクリエーション・リハビリの強化を目指し生産性の向上や研修の拡充・外国人労働者の教育など職員の資質向上に努めている。

### 1. レクリエーション・リハビリの強化

全ユニットでラジオ体操や月行事などを実施し、日々のレクリエーションが実施出来るように取組んだが1つのユニットに関しては徹底出来ていない為、レクリエーション実施記録を作成し、毎日レクリエーションを実施することが出来た。また、コロナ禍ではあったが施設内で運動会や初詣等をも実施した。厚生病院PTと連携し個別リハビリも実行できている。

### 2. 外国人労働者の教育

#### I. 介護技術の習得

外国人労働者に限らず、リーダー及びチューターが利用者毎、介助毎に「やって見せ」次に「やらせてみて」最後に両者からのチェックで合格を貰えれば、初めて、その入居者様の介助項目が一人で出来るよう指導し、夜勤以外の勤務に一人に対応出来るようになったが、緊急時や感染対策面、家族対応などの課題は残っている。

#### II. 生活支援の習得と外国人労働者の不安解消

介護技術以外に係る業務については、1ヶ月毎に習得して貰う項目をチェックリストとしてリーダーや外国人労働者に渡し、1～2週間毎にそれぞれが評価し何が出来ていて何が出来ていないかを擦り合わせを行い通常業務は対応ができるようになった。

### 3. 生産性向上の取組み

トヨタ生産方式による生産性の向上の取組みの研修を受け、QCサークル活動を通し、業務のムダ・ムラを無くしていく為、施設長よりリーダーへの研修会2回、QC委員会での研修1回を実施した。食後の人員が足りないとの声がある為、QC活動では食事準備の時間について見直しをしているが、コロナの発生もあり現状把握でとどまっている為、来年度も引き続き継続していきたい。ただ、宿題や課題を出すも、何もしてこない職員もいた為、仕事としての責任感を持たせる必要が出てきている。

### 4. 研修機会の拡充

職員の資質向上の為、オンライン研修を中心に外部研修の参加を実施し、研修報告の内容を施設長が確認したが、施設全体の資質の向上にむけた施設内研修は実施出来ていない。

## 5. 地域貢献

新型コロナの影響によりレストランテ・ヴォーノを中止することが多かったが、子どもの感染、地域推進会議などでも再開時期を検討し12月クリスマス時期にテイクアウト方式での実施に留まった。

## 6. 収入の確保と支出

営業により入所待機者の確保及び空室を減らし入所率98%以上を目指したが、新型コロナ発生による影響もあり97.4%（3月末時点）となり目標には届かなかった。しかし、新型コロナ発生時以外は緊急受入や待機者などからショートステイの空床利用を活用することができた。

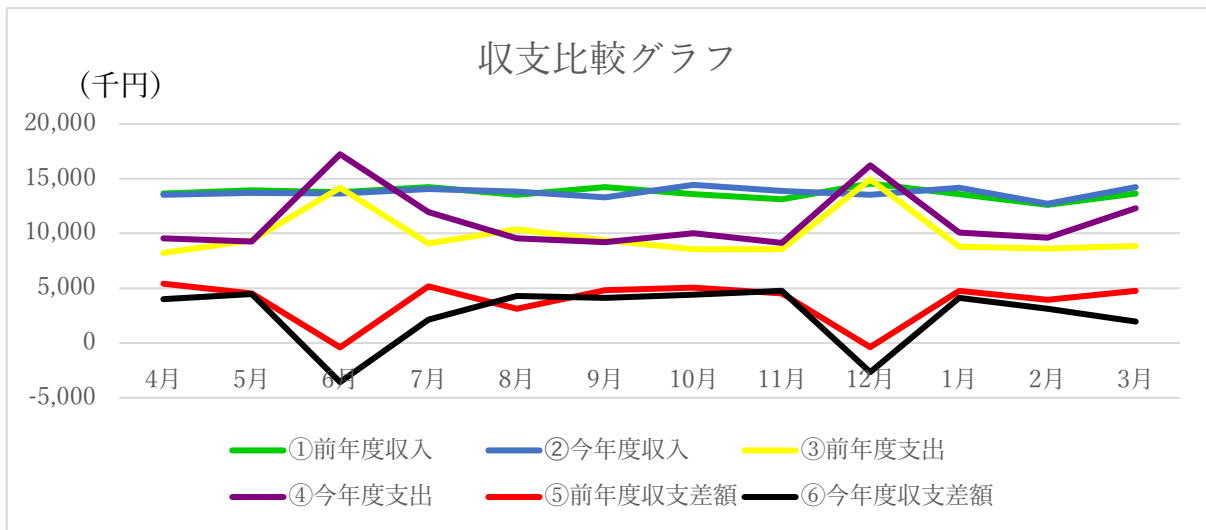
加算についてはADL維持加算を算定し、10月からは看護師の人員確保ができたため看護体制加算Ⅱを算定し約85万円の収入増となった。支出面として、光熱費や食材費等の高騰で約140万円の支出の増加、特定技能実習生（2名）技能実習生（1名）、の日本語講座、家賃、自転車、パソコン等の必要経費、業務委託費や管理費で約370万円増加及び人員増加等による人件費の増加で約610万円、ほのぼのソフト更新費用に239万円、シフト君の更新費用19万円、感染症対策用品（プラスチックガウン・抗原検査キット）42万円等の計1420万円の増額となった。その為、前年より収支差額が約1,400万円の減収となった。

年間収入目標

(単位:千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
①前年度収入	13,635	13,915	13,745	14,210	13,507	14,204	83,216	—
②今年度収入	13,538	13,727	13,663	14,077	13,819	13,308	82,132	98.7
③前年度支出	8,222	9,379	14,145	9,061	10,361	9,408	60,576	—
④今年度支出	9,559	9,256	17,234	11,956	9,532	9,188	66,725	110.2
⑤前年度収支差額	5,413	4,536	-400	5,149	3,146	4,796	22,640	—
⑥今年度収支差額	3,979	4,471	-3,571	2,121	4,287	4,120	15,407	68.1
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
①前年度収入	13,611	13,110	14,553	13,571	12,610	13,626	164,297	—
②今年度収入	14,437	13,902	13,532	14,188	12,713	14,236	165,141	99.9
③前年度支出	8,563	8,590	14,933	8,790	8,641	8,856	118,949	—
④今年度支出	10,051	9,138	16,193	10,070	9,591	12,275	134,044	112.6
⑤前年度収支差額	5,048	4,520	-380	4,781	3,969	4,770	45,348	—
⑥今年度収支差額	4,386	4,764	-2,661	4,118	3,122	1,961	31,097	68.5

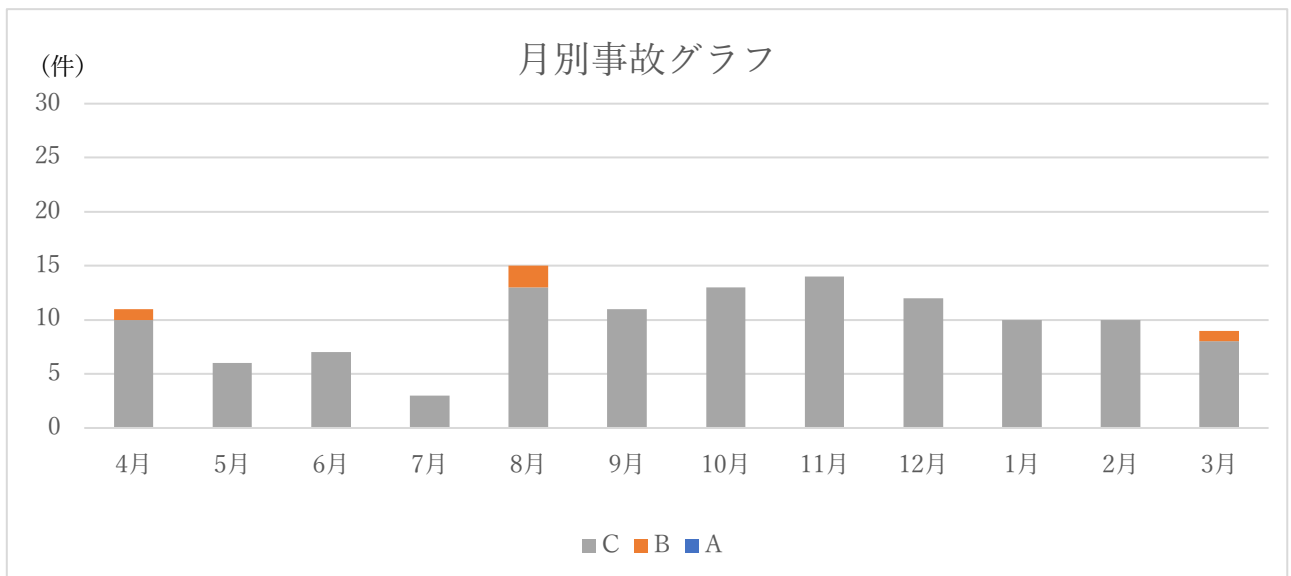




### 令和4年度事故件数

(件)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
総数	10	6	7	3	13	11	50
A	0	0	0	0	0	0	0
B	1	0	0	0	2	0	3
C	9	6	7	3	11	11	47
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総数	13	14	12	10	10	8	117
A	0	0	0	0	0	0	0
B	0	0	0	0	0	1	4
C	13	14	12	10	10	7	113



A の事故は入院を要する事故

B の事故は通院を要する事故

C の事故は通院を要しない事故

令和 4 年度入院者数

(単位：人)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	合計
令和 4 年度 理由	1 肺炎	0	0	2 肺炎	1 肺炎	1 肺炎	5
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
令和 4 年度 理由	0	1 肺炎	1 ・ 新型コ ロナ肺炎	0	1 検査入院	0	8

リストランテ・ヴォーノ参加状況

(人)

開催日	12 月 23 日
子ども人数	26
大人参加人数	1
ボランティア	3

※お弁当・プレゼントの配布のみ

# サンライフ西庄ショートステイ

## 令和4年度 事業報告書

令和4年度経営スローガンである「足腰・頭を鍛え、いつまでも健康で楽しく暮らして頂く為の介護支援を目指す。」をもとに、レクリエーション・リハビリの強化を目指し生産性の向上や研修の拡充・外国人労働者の教育など職員の資質向上に努めている。

### 1. レクリエーション・リハビリの強化

ラジオ体操や誕生会などの月行事などを実施し、日々のレクリエーションが実施できている。また、コロナで大きな行事が出来なかったが下半期では運動会などの合同レクが実施できた。厚生病院PT等と連携し個別のリハビリも実施できている。

### 2. 外国人労働者の教育

#### I. 介護技術の習得

外国人労働者に限らず、リーダー及びチューターが利用者毎、介助毎に「やって見せ」次に「やらせてみて」最後に両者からのチェックで合格を貰えれば、初めて、その入居者様の介助項目が一人で出来るよう指導し、安全で安心な介護提供が出来るようにした。夜勤以外の勤務は一人に対応できるようになっているが、緊急時や感染対策、家族対応や電話対応が課題として残っている。

#### II. 生活支援の習得と外国人労働者の不安解消

介護技術以外に係る業務については、1ヶ月毎に習得して貰う項目をチェックリストとしてリーダーや外国人労働者に渡し、1～2週間毎にそれぞれが評価し何が出来ていて何が出来ていないかの擦り合わせを行い通常業務は対応できている。

### 3. 生産性向上の取組み

トヨタ生産方式による生産性の向上の取組みの研修を受け、QCサークル活動を通し、業務のムダ・ムラを無くしていく為、施設長よりリーダーへの研修会2回、QC委員会での研修1回を実施した。食後の人員が足りないとの声がある為、QC活動では食事準備の時間について見直しをしているが、コロナの発生もあり現状把握でとどまっている為、来年度も引き続き継続していきたい。ただ、宿題や課題を出すも、何もしてこない職員もいた為、仕事としての責任感を持たせる必要が出てきている。

### 4. 研修機会の拡充

職員の資質向上の為、オンライン研修を中心に外部研修の参加を実施し、研修報告の内容を施設長が確認したが、施設全体の資質の向上にむけた施設内研修は実施できていない。

## 5. 収入の確保と支出

入所率 98%以上を目指し、平均稼働率が 98.9%と目標は達成できた。

電話やFAXでの営業を行い、次のロングショート待機者の確保及び空床を減らすことができた。また、入院があった場合などに待機者へのお試しの声かけを行い、実際に利用され、そこからロングショートへと繋がることもあった。

支出面では昨年度と比較すると常勤職員が1名減り、特定技能生が1名増えた。それにより常勤職員1名分の人件費として100万円程減っている。

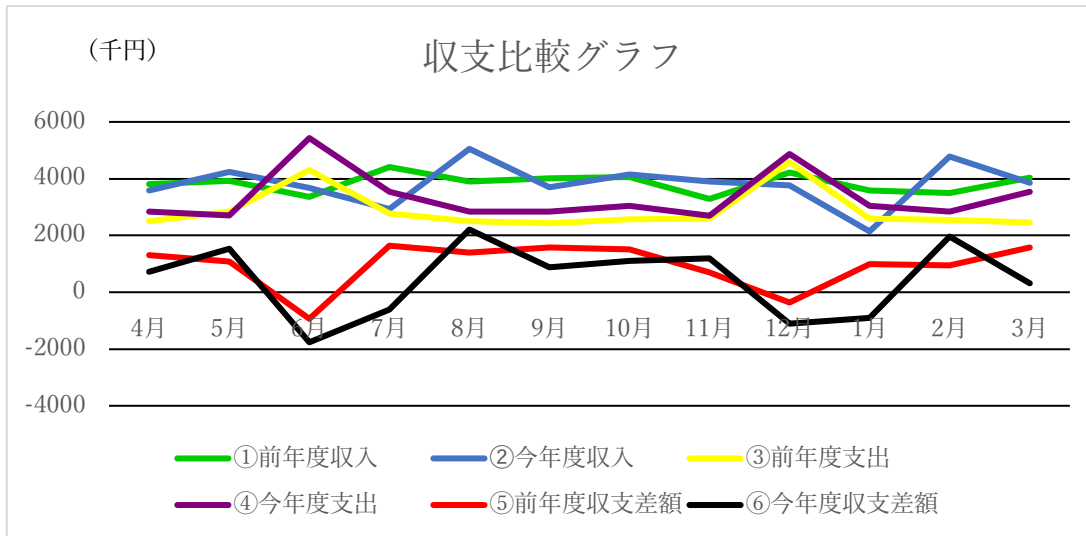
光熱水費や食材費、ガソリン代等に約50万円、特定技能実習生(1名)の紹介料、常勤職員(1名)の紹介料、日本語講座、家賃、電動自転車、パソコン等の必要経費、業務委託費やくすのき管理費、常勤職員の諸手当、退職金掛金、処遇改善支援補助金、特定処遇、健康保険、厚生年金等に約300万円、非常勤職員の給与やその他諸手当に約200万円、ほのぼのソフト更新費用に約75万円かかり、合計525万円程増えている。

今後も物価の高騰により光熱水費や食材費の増加が見込まれる為、ムダを省けるように取り組んでいきたい。

### 年間収支比較

(単位:千円)

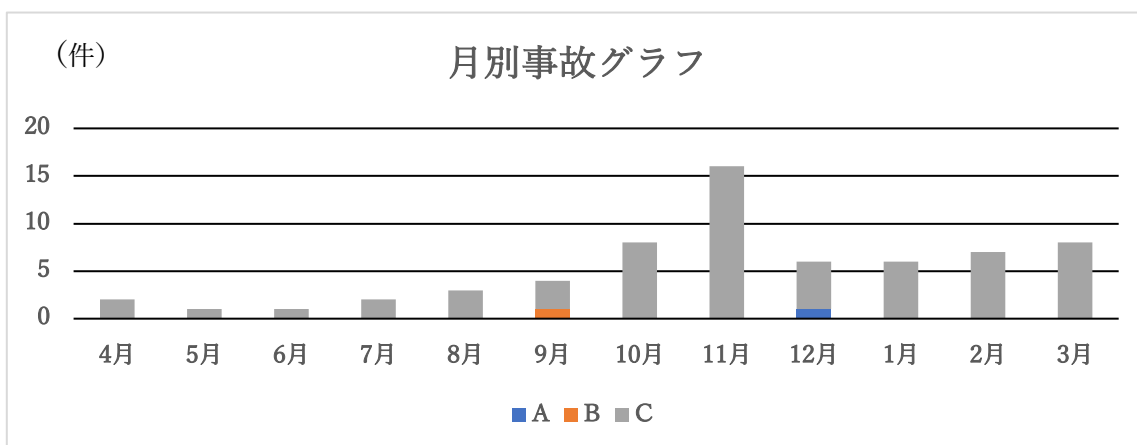
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率(%)
①前年度収入	3,812	3,921	3,361	4,410	3,900	4,008	23,412	—
②今年度収入	3,578	4,236	3,668	2,923	5,051	3,705	23,161	98.9
③前年度支出	2,509	2,851	4,297	2,771	2,502	2,431	17,361	—
④今年度支出	2,849	2,708	5,431	3,534	2,842	2,832	20,196	116.3
⑤前年度収支差額	1,303	1,070	-936	1,639	1,398	1,577	6,051	—
⑥今年度収支差額	729	1,528	-1763	-611	2,209	873	2,965	49.0
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率(%)
①前年度収入	4,063	3,286	4,213	3,588	3,499	4,037	46,098	—
②今年度収入	4,141	3,892	3,759	2,143	4,790	3,847	45,733	99.2
③前年度支出	2,561	2,592	4,584	2,603	2,548	2,463	34,712	—
④今年度支出	3,046	2,695	4,864	3,036	2,839	3,529	40,205	115.8
⑤前年度収支差額	1,502	694	-371	985	951	1,574	11,386	—
⑥今年度収支差額	1,095	1,197	-1,105	-893	1,951	318	5,528	48.5



#### 令和4年度事故件数

(件)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
総数	2	1	1	2	3	4	12
A	0	0	0	0	0	0	0
B	0	0	0	0	0	1	1
C	2	1	1	2	3	3	11
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総数	8	16	6	6	7	8	63
A	0	0	1	0	0	0	1
B	0	0	0	0	0	0	1
C	8	16	5	6	7	8	61



Aの事故は入院を要する事故

Bの事故は通院を要する事故

Cの事故は通院を要しない事故

# グループホームサンライフ西庄

## 令和4年度 事業報告書

令和4年度ささゆり会経営スローガンである「足腰・頭を鍛え、いつまでも健康で楽しく暮らして頂く為の介護支援を目指す」をもとに、認知症状の緩和を図るため、体操やレクリエーション、家事での役割を持つなど生活リハビリの中で脳の活性化や心身機能を維持し、その人らしく楽しくかつ心地よい生活を支援するよう努めた。

### 1. 入居者様や家族様の思いを知る

コロナ禍により外出や対面での機会が減り、身体能力の低下や認知症の進行を心配されている家族様に年4回発行している『ハッピースマイル通信』でグループホームでの様子を知って頂いた。『なじみの関係』の継続のため、電話や手作りはがきの活用や入居者様同士の顔馴染みの関係づくりに努めた。感染症対策により流行期には外出の機会が減ったが、施設内でのレクリエーション活動によりユニット間での交流の機会が増えた。コロナ流行期以外は、散歩や調理レクリエーションをするなどして臨機応変に活動内容を変更するなどの対応ができた。また、洗濯物干しや食器洗いなど個々の能力に合った「家事」の役割も定着し、日課に取り入れ行うことができている。

### 2. 感染症対策の強化

手洗い・アルコール消毒・換気を徹底して、感染予防に繋げた。感染症対策により明らかになった備品不足や業務の見直しを行い、非常時に備えている。外部の感染症研修の参加後は職員へ情報の共有を行い、職員個々の感染症対策の意識付けを行った。「施設に持ち込まない」を徹底して感染症対策を続ける。

### 3. 外国人実習生の受け入れ

5月からミャンマー職員を2名受け入れた。ユニットリーダーを中心に、月々のチェックリストを見て、介護技術や認知症ケアがスムーズに行えるように評価・指導した。日誌を書いてもらう事により、業務の中で出来ること出来ないこと、難しいことや日々の出来事などの確認をした。夜勤以外の業務は1人で出来るようになったが、引き続き不安軽減のため職員間でのコミュニケーションを活発にしていく。

### 4. サービスの質の向上と人財育成

7月にQCサークル活動の全国大会に参加をした。『グループホーム入居者様の家事支援の増加』をテーマとして全国大会という場で発表することができ、職員のモチベーションが上がった。また、法人全体で年間を通して5S活動「職場の活性化」に取り組ん

だ。5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）+安全活動などの問題の見える化を実現し、職場のムリ・ムラ・ムダを見つけだしPDCAを実践した。テーマを『入居者様の楽しみのためのレクリエーション時間の確保』として問題を明確化し目標を達成できた。各職員が役割分担を行うことで改善の意識付けや責任感が生まれた。

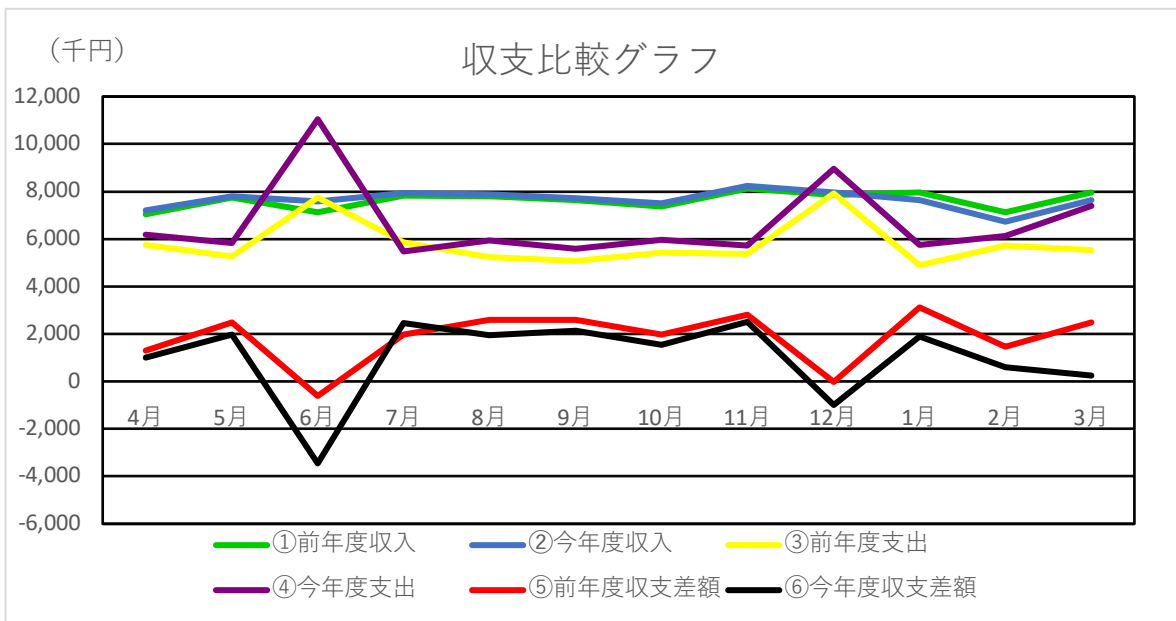
## 5. 収入の確保と支出

今年度は稼働率97.7%であった。事故件数が前年度より33件減の72件であり入院数も1件であったが、待機者がすぐに入居とならず新規の申し込みから入居までの日数がかかった。収入は前年より58万円増であったが、支出は1016万円と多く収支差額は957万円減である。支出の大半は人件費であり、特定技能生(2名)の受け入れ132万円や派遣職員の採用200万円、業務委託費、くすのき管理費などにより前年より711万円増えている。また経費として物価や光熱費なども上がっており、食費は38万円、光熱費は87万円の支出増である。抗原検査キット費や特定技能生の生活準備金(家賃・自転車・日本語講座)86万円、ほのぼのソフトやシフト君の更新で160万円。支出を減らしていくために、派遣や紹介に頼らないように長く働いて貰える環境作りや光熱費の上昇を抑えるために出来る節約を取り入れて積極的に支出を減らしていきたい。

年間収入目標

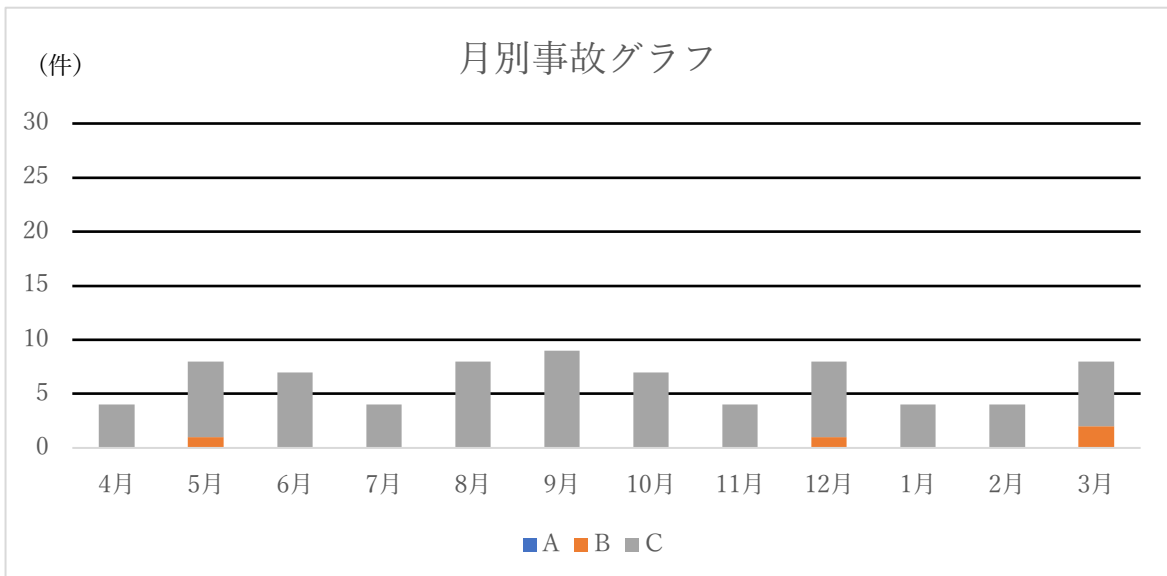
(千円)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率 (%)
① 前年度収入	7,041	7,747	7,134	7,831	7,813	7,648	45,214	—
② 今年度収入	7,195	7,787	7,592	7,936	7,875	7,710	46,097	101.9
③ 前年度支出	5,755	5,266	7,747	5,847	5,231	5,065	34,911	—
④ 今年度支出	6,184	5,818	11,046	5,475	5,933	5,586	40,042	114.7
⑤ 前年度収支差額	1,286	2,481	-613	1,984	2,582	2,583	10,303	—
⑥ 今年度収支差額	1,011	1,969	-3,454	2,461	1,942	2,124	6,055	58.8
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
① 前年度収入	7,368	8,125	7,845	7,965	7,133	7,971	7,368	—
② 今年度収入	7,508	8,237	7,965	7,638	6,728	7,644	7,508	101.9
③ 前年度支出	5,430	5,364	7,918	4,895	5,726	5,529	5,430	—
④ 今年度支出	5,964	5,729	8,953	5,748	6,121	7,384	5,964	109.8
⑤ 前年度収支差額	1,986	2,810	-24	3,119	1,452	2,484	1,986	—
⑥ 今年度収支差額	1,544	2,508	-988	1,890	607	260	1,544	77.7



事故件数 (件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
A	0	0	0	0	0	0	0
B	0	1	0	0	0	0	1
C	4	7	7	4	8	9	39
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
A	0	0	0	0	0	0	0
B	0	0	1	0	0	2	4
C	7	4	7	4	4	6	71



A:入院を要する事故    B:受診・通院を要する事故    C:受診・通院を要しない事故



入院者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和4年度理由	0	0	0	0	0	0	0
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和4年度理由	0	0	0	0	1 腎盂腎炎	0	1

施設内研修

実施月	研修内容	参加人数	実施月	研修内容	参加人数
4月	ケアプラン	9名	10月	虐待	6名
5月	認知症とレクリエーション	10名	11月	認知症と薬	5名
6月	身体拘束	9名	12月	認知症ケア	5名
7月	救急対応	8名	1月	不適切ケア	9名
8月	感染症対策により中止	名	2月	看取り	5名
9月	感染症対策	11名	3月	排泄ケアの考え方	3名

# 特別養護老人ホームサンライフ西庄 医務

## 令和4年度 事業報告書

依然として終息の目処が立っていない新型コロナ感染症で多くの高齢者施設で集団感染が起こっている。当施設でもクラスターが発生し対応に追われる1年であった。

施設では利用者様の重症化を考え、引き続き感染を持ち込まない、広げない事をモットーに職員一人一人が正しい知識・対応で感染対策を行うことが大切である。また、発生時に備えた準備を十分行い非常時にもBCPの活用できるようマニュアルの作成ができた。

施設が5年目となり、利用者様のADLが低下し看取りの時期になっていく方が増えている。一人でも多くの利用者様、家族様が「ここで過ごせて良かった」と思ってもらえるよう看取りケアの充実を図り、健康管理やケアを行っている

### 1. 感染症対策に関する研修の実施、訓練（シュミレーション）、ガイ

#### ドラインの作成

今年度、当施設でも新型コロナ感染症のクラスターが発生した。利用者様19名（うち1名入院）、職員8名が感染した。保健所、協力病院と連携を密にし経口抗ウイルス薬（ラゲブリオ）を早期に投与し、状態悪化が考えられる利用者様には点滴、酸素投与の指示をもらった。職員一丸となり、感染対策を行い20日程で終息することができた。しかし、今回クラスター発生に伴い感染対策（ゾーニング、ガウンテクニック等）の理解、手技ができていない職員がいることがわかり、この反省点を踏まえ、来年度は感染症委員、ユニットリーダーを中心に感染症対策についての理解、手技の習得 できるような研修の実施等を進めていく。

### 2. 心療内科 往診の充実

現在7名の利用者様が往診を受けられている。認知症の悪化による問題行動、不眠等により精神科医の助言、診察を受け、薬調整を行っている。利用者様が穏やかに過ごせるよう介護職と連携を図りながら認知症ケアに取り組むことができた。

### 3. 看取りへの対応

今年度5名の利用者様を看取った。うち2名の方はコロナ感染後遺症によるものであった。今後も家族様の思いに寄り添いながら、介護職と連携を密にし、その人らしく最期

を迎えられるよう援助していきたい。

#### 4. 事故防止への取り組み

内服薬の誤薬による事故防止のため、看護師一人一人が責任をもって、薬剤を扱うことができた。また、薬の変更、追加等がある場合は分かりやすく掲示し事故防止ができるよう引き続き取り組んでいく

#### 5. 日常生活機能訓練の強化

利用者様の残存機能の維持や生活機能の向上を図るため、外部理学療法士と情報を共有し、具体的な方法や助言をもらいながら機能訓練に取り組むことができた。

褥瘡形成は10名（病院からの持込3名）であった。栄養状態の低下、失禁、拘縮等が発生の要因となっている。栄養士、介護職と情報を共有し、リスクの高い人は予防ケアを徹底することで、早期に治癒することができた。

#### 6. 職員の健康管理への取り組み

定期的な健康診断、ワクチン接種（インフルエンザ、コロナ）を受けることによって、全職員の健康管理に取り組むことができた。

# 特別養護老人ホームサンライフ西庄(厨房)

## 令和4年度 事業報告書

昨年度入居者様の入退院等の連絡もれを防ぐ為の食事伝票の提出は、その都度提出を促すよう声掛けを行うことで提出もれを防止出来ている。

### I 人材の定着・育成

業務に関する変更事項を職員が忘れないよう連絡ノートに記入後、定着するまで目の届く場所に付箋で貼っておく等の工夫を行った。職員同士コミュニケーションをとり、声掛けしやすい雰囲気づくりを行い確認不足による間違いを未然に防ぐなど心掛けた。

### II 献立の充実

令和4年度は計10回の行事食を取り入れた。食事から季節を味わって頂けるように、また普段の食事の様子を聞き取り献立に反映させた。食材費に関して今年度も値上げされる食材が多く予想されるので、引き続き各業者から随時相見積もりを取り、良い品をより安い業者から仕入れる等の工夫を行い無駄のないよう管理する。

### III 衛生管理

虫・髪の毛・石などの混入の報告はなかったが、魚に骨が混入していることがあった。業者にはその都度報告し、注意を促した。魚を並べる時や盛り付けの際、骨が残っていないか意識して作業を行うようにする。

### IV 栄養ケアマネジメントの充実

厨房業務と事務業務に追われアセスメントやモニタリングに十分時間を割くことができなかった。入居者様の食事状況を把握し、計画書の充実に努めたい。

### V 食事形態

退院後は食形態が落ちている方が多かったことや義歯の調整等もあり、極刻み食の利用者が増えていた。すべての食事の形態アップは難しくても、「おやつだけ普通食」「寿司の日だけ普通食」「魚は極刻み→刻み」というように食べられるものだけでも形態をアップする対応を行った。

そして、食思の低い方には必要に応じ栄養補助食品を提供し必要栄養量の確保に努めた。

### VI 子供食堂の充実

令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響で実施が難しかったが、12月のクリスマスにテイクアウト方式で実施した。令和5年度に開催する際は手指消毒を徹底し、感染防止対策を行いたい。

# 小規模多機能ホームサンライフ岡田

## 令和4年度 事業報告書

今年度の「足腰・頭を鍛え、いつまでも健康で楽しく暮らして頂く為の介護支援を目指す」という法人目標に沿い、利用者様が住み慣れた自宅や地域で健康に生活が継続できるよう、通い・宿泊・訪問を柔軟に組み合わせたサービスが提供できたと感じる。10月に、開設以来初めてとなる監査を受けたが、特に大きな指摘事項もなく無事終了した。コロナ禍ということもあり感染予防対策はしていたが、下半期に利用者様、家族様、職員それぞれ感染者が出てしまい、利用変更や勤務変更などに追われた。

### 1. 個人に応じた利用計画作成

利用者様が在宅での生活が継続できるよう、個々の特性に応じた小規模多機能型居宅介護計画を作成し、支援の提供を行った。今年度は利用者様の希望に応えながらも、希望に添えない場合などは訪問に行くなどサービスの調整を行い、通い・宿泊・訪問3つのサービスのバランスの取れたプランを立てることに力を入れた。

### 2. 人材育成

I. 通い・宿泊・訪問とサービス提供内容が幅広く、柔軟な対応が求められる機会も多いため、施設内部で研修を行い、自分たちが知りたい知識や技術を学んだ。またサービス提供体制加算を取るにあたって、小規模多機能ホームは職員それぞれに個別の研修計画を立て、実行していく必要があった為、興味のある研修項目を自分で選び、動画を見ることで対応を行った。

II. 業務において基礎である報告・連絡・相談がうまく機能せず、全職員に伝わらないことがあった為、出勤したら職員連絡ノートや利用者様ノート、日誌に必ず目を通すこととしていた。しかしすべてに目を通すことは難しいとの意見が多かったため、日誌に一本化し、10:00、14:00の申し送り時に日誌を読むことで、情報の共有が出来るように対応した。

### 3. 事故の防止

事故件数は前年度25件、今年度23件とわずかに減少した。前年に多かった服薬に関する事故は減少したが、剥離や内出血、転倒、ずり落ちといった事故はほぼ変わっていない。剥離や内出血は自宅から来るときに出来ている場合もあるが、転倒、ずり落ちに関しては防げた可能性が高い事故もあった為、事故報告書をリスク対策委員会で見直し、再発防止に努めていく。

#### 4. 忘れ物防止

今年度は義歯が無くなってフロアを探すようなことが2度あった。入所時チェックで義歯の確認を忘れていたことが発覚したため、再度荷物チェック時の義歯を含めた貴重品等のチェックについての指導を行った。

#### 5. 感染症予防

感染症対策として、うがい・手洗い・更衣・マスクの着用、消毒を継続して行なった。また、送迎時の体温測定や、毎日10時の検温を行ない、異常の早期発見に繋げた。今年度は初めて利用者様や家族様にコロナウイルス陽性者が出て対応に追われた。家族様と相談し、宿泊や通いの予定を、自宅への訪問に切り替え、他利用者様への感染防止を行うとともに、感染した利用者様や家族様へのフォローも訪問を通して同時に行なった。

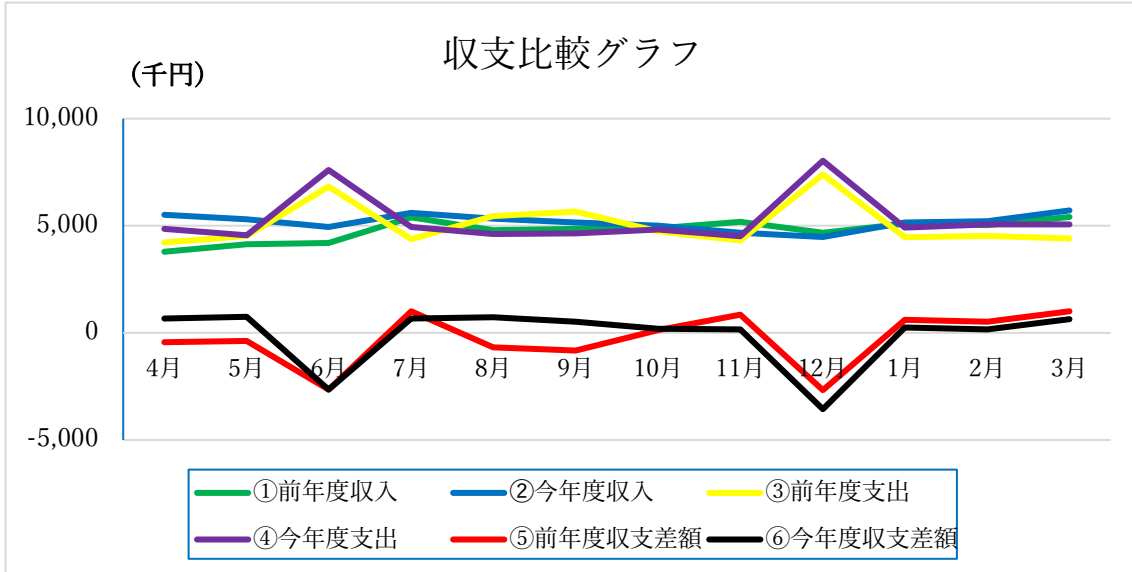
#### 6. 収入・利用者様の確保

今年度は登録定員25名を目標としていたが、最高で23名と目標に届かなかった。コロナウイルス感染による受け入れ制限や利用のキャンセル、肺炎などで入院されてしまったり、特養入所が決まったりと、変更の多い1年となった。また、要介護度の高い方が抜け、代わりの新規の利用者様の介護度が低いということが多く、収入が伸び悩んだ。予定していたサービス提供体制加算Ⅲは資格条件を満たし取得することが出来、収入の増加に繋がったが、光熱水費や人件費などの支出も増加し、差額はマイナスとなった。

##### 1. 年間収支比較

(千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
①前年度収入	3,787	4,137	4,183	5,387	4,785	4,854	27,133	—
②今年度収入	5,519	5,301	4,940	5,602	5,340	5,168	31,870	117%
③前年度支出	4,220	4,520	6,840	4,380	5,463	5,674	31,097	—
④今年度支出	4,855	4,551	7,594	4,942	4,620	4,648	31,210	100%
⑤前年度収支差額	-433	-383	-2,657	1,007	-678	-820	-3,964	—
⑥今年度収支差額	664	750	-2,654	660	720	520	660	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
①前年度収入	4,889	5,179	4,676	5,084	5,031	5,411	57,403	—
②今年度収入	4,996	4,672	4,476	5,160	5,219	5,716	62,109	108%
③前年度支出	4,749	4,325	7,394	4,472	4,511	4,404	60,952	—
④今年度支出	4,816	4,511	8,038	4,907	5,071	5,077	63,632	104%
⑤前年度収支差額	140	854	-2,673	612	520	1,007	-3,549	—
⑥今年度収支差額	180	161	-3,562	253	148	639	-1,521	



2. 令和3年度・4年度登録者数 (MAX29名) (名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
R3登録者	16	17	18	18	18	19
R4登録者	22	21	22	22	23	23
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
R3登録者	19	21	20	19	22	22
R4登録者	22	22	21	22	23	23

3. 令和3年度・4年度延べ利用人数 (通い・訪問・宿泊) (名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
R3通い	326	379	420	443	443	420	2,431
R3宿泊	178	202	229	263	252	243	1,367
R3訪問	50	50	64	65	61	77	367
R4通い	467	442	403	458	457	431	2,658
R4宿泊	227	235	197	229	218	182	1,288
R4訪問	197	188	153	192	183	158	1,071
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R3通い	418	427	416	401	394	460	4,947
R3宿泊	234	235	210	209	200	245	2,700
R3訪問	89	86	126	127	143	143	1,081
R4通い	437	378	394	424	415	500	5,206
R4宿泊	195	134	140	174	169	210	2,310
R4訪問	157	161	151	154	157	174	2,025

# デイサービスサンライフ岡田

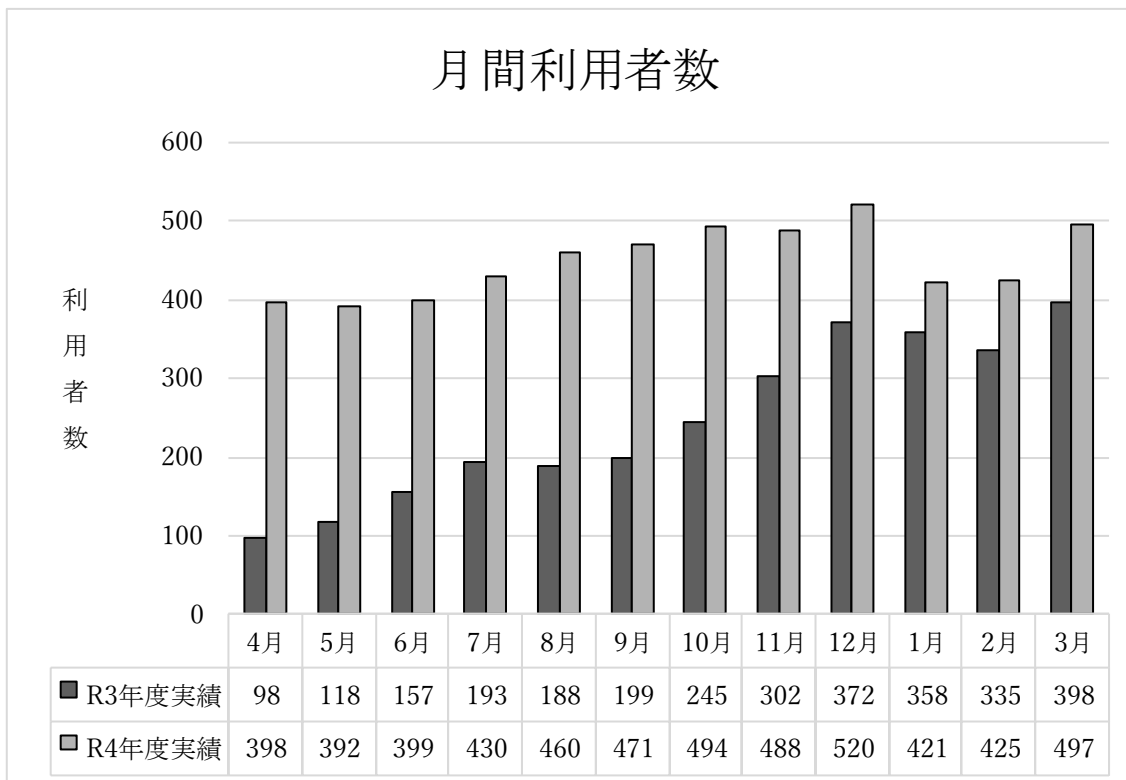
## 令和4年度 事業報告書

令和4年度は、利用定員を20名から25名に変更し、登録利用人数が増え、平均利用人数も前年に比べ増加した。コロナ禍において利用者様は家に閉じこもりがちとなり、運動不足が懸念される中、午前、午後ともに体操を行うことで、運動不足の解消に努めた。また、一人暮らしの方への買い物支援に繋げるため、近隣スーパーへの買物外出を継続し、楽しみを持っていただけるよう景色を観る外出や施設見学の外出も企画・実施した。

利用者人数の増加により、業務の流れや職員の動きにも改善が必要となり、利用者様が過ごしやすい環境や職員の働きやすさを考えながら現状の把握に努め、フロアでの利用者様の座席の配置や職員の一日の流れ、業務分担を定期的に見直した。

令和5年度は利用定員を25名から30名に変更し、利用人数の更なる増加が図れるよう、営業活動やサービスの質の向上に努めていきたい。

### 1. 利用者数





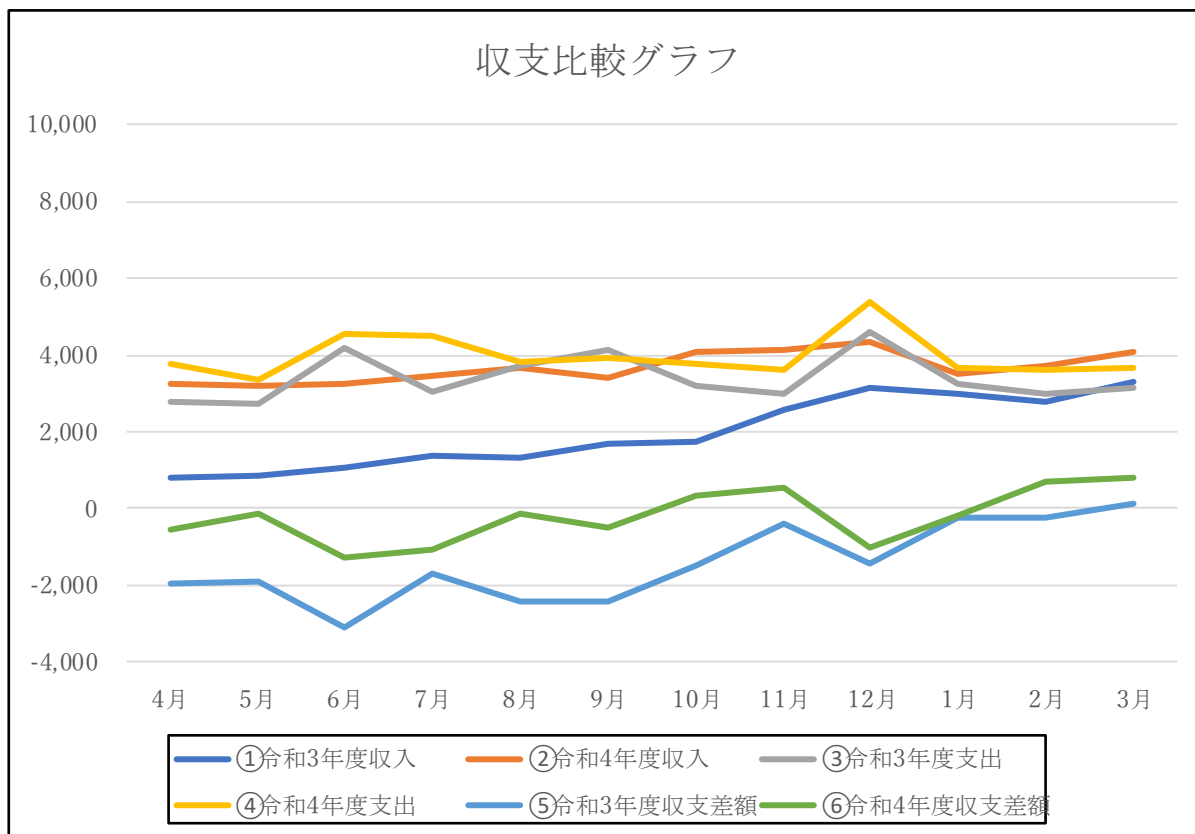
2. 年間収支比較

(千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
①前年度収入	792	861	1,055	1,380	1,303	1,705	7,096	—
②今年度収入	3,240	3,211	3,257	3,451	3,656	3,410	20,225	285.0
③前年度支出	2,763	2,749	4,163	3,062	3,704	4,147	20,588	—
④今年度支出	3,769	3,338	4,563	4,503	3,817	3,904	23,894	116.1
⑤前年度収支差額	-1971	-1,888	-3,108	-1,682	-2,401	-2,442	-13,492	—
⑥今年度収支差額	-529	-127	-1,306	-1,052	-161	-494	-3,669	

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
①前年度収入	1,751	2,595	3,138	3,000	2,783	3,287	23,650	—
②今年度収入	4,076	4,156	4,350	3,490	3,698	4,094	44,089	186.4
③前年度支出	3,218	2,980	4,591	3,261	3,010	3,170	40,818	—
④今年度支出	3,765	3,593	5,361	3,690	3,630	3,645	47,578	116.6
⑤前年度収支差額	-1,467	-385	-1,453	-261	-227	117	-17,168	—
⑥今年度収支差額	311	563	-1,011	-200	68	449	-3,489	



### 3. 介護度別平均年齢及び利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均 (合計)
要支援 1	81.08 (8)	81.17 (7)	82.32 (7)	84.02 (6)	84.10 (7)	82.94 (6)	83.94 (6)	84.02 (6)	84.10 (6)	83.69 (6)	84.03 (8)	83.44 (10)	83.15 (83)
要支援 2	80.38 (6)	80.47 (6)	80.55 (7)	80.80 (8)	80.88 (6)	83.06 (7)	83.14 (7)	82.90 (6)	82.94 (5)	79.42 (5)	79.50 (4)	82.92 (8)	81.63 (75)
要介護 1	86.34 (16)	86.28 (16)	86.69 (16)	85.72 (19)	86.68 (20)	86.50 (20)	85.88 (18)	86.29 (19)	86.18 (19)	86.25 (22)	87.23 (20)	87.45 (20)	86.46 (225)
要介護 2	86.01 (15)	86.10 (15)	86.53 (15)	85.42 (16)	85.80 (15)	86.53 (15)	86.10 (15)	87.06 (14)	86.88 (14)	85.71 (13)	86.15 (10)	86.71 (11)	86.24 (168)
要介護 3	84.33 (2)	84.42 (2)	80.75 (3)	80.83 (3)	80.92 (3)	82.85 (6)	80.82 (7)	82.13 (6)	82.45 (5)	82.53 (5)	82.62 (5)	82.70 (5)	82.14 (29)
要介護 4	75.78 (3)	73.18 (3)	73.25 (2)	73.33 (2)	73.42 (1)	73.50 (1)	73.58 (1)	73.67 (1)	73.75 (1)	83.04 (2)	82.69 (3)	82.78 (3)	77.53 (23)
要介護 5								84.08 (1)	84.17 (1)	84.25 (1)	84.33 (1)	84.42 (1)	84.25 (5)
合計	84.11 (50)	84.26 (49)	84.59 (50)	84.39 (54)	84.95 (52)	85.15 (55)	84.50 (54)	85.15 (53)	85.18 (51)	84.89 (54)	85.29 (51)	85.43 (58)	84.83 (631)

上段の数字は平均年齢、( )内の数字は実利用者人数を示しています

### 4. 職員充足度 (令和5年3月現在)

職員 13名 (正職員 3名 非常勤看護師 2名 非常勤介護職員 8名)

機能訓練指導員を  
含まない

	営業 日数	利用者/ 月	職員総時間数/ 月	利用者/ 月	職員/ 月	職員 一人対	職員/ 月	職員 一人対
4月	26	398	1150.8	15.31	6.9	2.2	5.9	2.6
5月	26	392	1141.8	15.08	6.8	2.2	5.8	2.6
6月	26	399	1165.5	15.35	6.9	2.2	5.9	2.6
7月	27	430	1278	15.93	7.6	2.1	6.6	2.4
8月	27	460	1356	17.04	8.1	2.1	7.1	2.4
9月	26	471	1237	18.12	7.4	2.5	6.4	2.8
10月	26	494	1188	19.00	7.1	2.7	6.1	3.1
11月	26	488	1194	18.77	7.1	2.6	6.1	3.1
12月	27	520	1200	19.26	7.1	2.7	6.1	3.1
1月	23	421	1063	18.30	6.3	2.9	5.3	3.4
2月	24	425	1162	17.71	6.9	2.6	5.9	3.0
3月	27	497	1110	18.41	6.6	2.8	5.6	3.3

# サンライフ岡田居宅介護支援事業所

## 令和4年度 事業報告書

経営スローガン「足腰・頭を鍛え、いつまでも健康で楽しく暮らして頂く為の介護支援を目指す」に対し、新型コロナウイルスへの感染症対策を行いながら相談援助や適切なサービスを提案し、元気に在宅生活が継続できるよう支援を行った。

R4年1月に事業所を開設し、利用者数は少しずつ増加した。要介護者より要支援者の増加が多く、収入は伸び悩んだ。支出については、常勤の2名体制であり、人件費が多くを占めている。収支差額としては、R4.8～R4.11まではプラスとなっていたが要支援者が増えたことで以降はマイナスとなった。全体を見ると、昨年度に続き大きくマイナスとなった。

地域包括ケアシステムの構築を目指し医療との連携を促進し在宅で利用者様に満足して頂けるように提供を行った。

### 1. 担当利用者・収入の確保

新規獲得件数は91件。特養や長期入院、永眠、居宅変更などの終了ケースがあった。総数は令和4年4月が要介護37件、要支援21件の58件、令和4年9月が要介護54件、要支援33件の87件となった。営業活動も毎月行っている。担当の利用者様からの紹介等も積極的に受け入れるようにし特に地域の方のご相談等も迅速に対応できるよう努めている。担当人数は徐々に増加したが、収入については、伸び悩んだ。

### 2. サービスの質の向上

主任ケアマネジャーの資格取得については、管理者交代や事業所を新たに増やす際に必要な資格であり、要件を満たした職員から順次取得する。

また、援助を進めていくにあたり困難なケースや問題点がでてきた時等、事業所内で一緒に考え、情報共有を行うことで精神面でのケアと援助がスムーズに行えるよう努めた。研修会等にも積極的に参加するよう心がけ最新情報等は事業所内で共有できるよう情報交換共有を行った。感染症対策に勤め自らが感染しないことはもちろんのこと、クラスターが発生しても支援が止まらないように、できる限りの支援を行った。

### 3. 有給休暇、連続リフレッシュ休暇の確実な取得状況

年次有給休暇の10日以上取得者の5日以上の取得ができていない。連続リフレッシュ休暇を取得している職員はいない。連続リフレッシュ休暇の支障として考えられることは、長期休暇を取得することで利用者様や家族様からの相談対応に支障が出てしまわないかとの不安がある。今後検討が必要。

#### 4. 特定事業所集中減算の回避

毎月、集計を行い減算にならないように注意した。他事業所の情報等を収集し、紹介を行った。

#### 5. 介護予防支援

令和4年度は、要支援者の地域包括支援センターからの依頼や、更新時に要支援になった方が多く、要支援者の利用者数は増加傾向となった。引き続き、多くの地域包括支援センターとの連携を行い新規獲得に努める。

#### 6. 利用者人数の推移

(人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援	R3										15	17	22	54
1.2	R4	21	24	26	32	35	33	37	41	42	41	38	44	414
	差	+21	+24	+26	+32	+35	+33	+37	+41	+42	+26	+21	+22	+360

(人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護	R3										29	28	32	89
1~5	R4	39	40	42	52	60	59	57	56	54	51	53	40	603
	差	+39	+40	+42	+52	+60	+59	+57	+56	+54	+22	+25	+8	+514

#### 7. 収入の確保

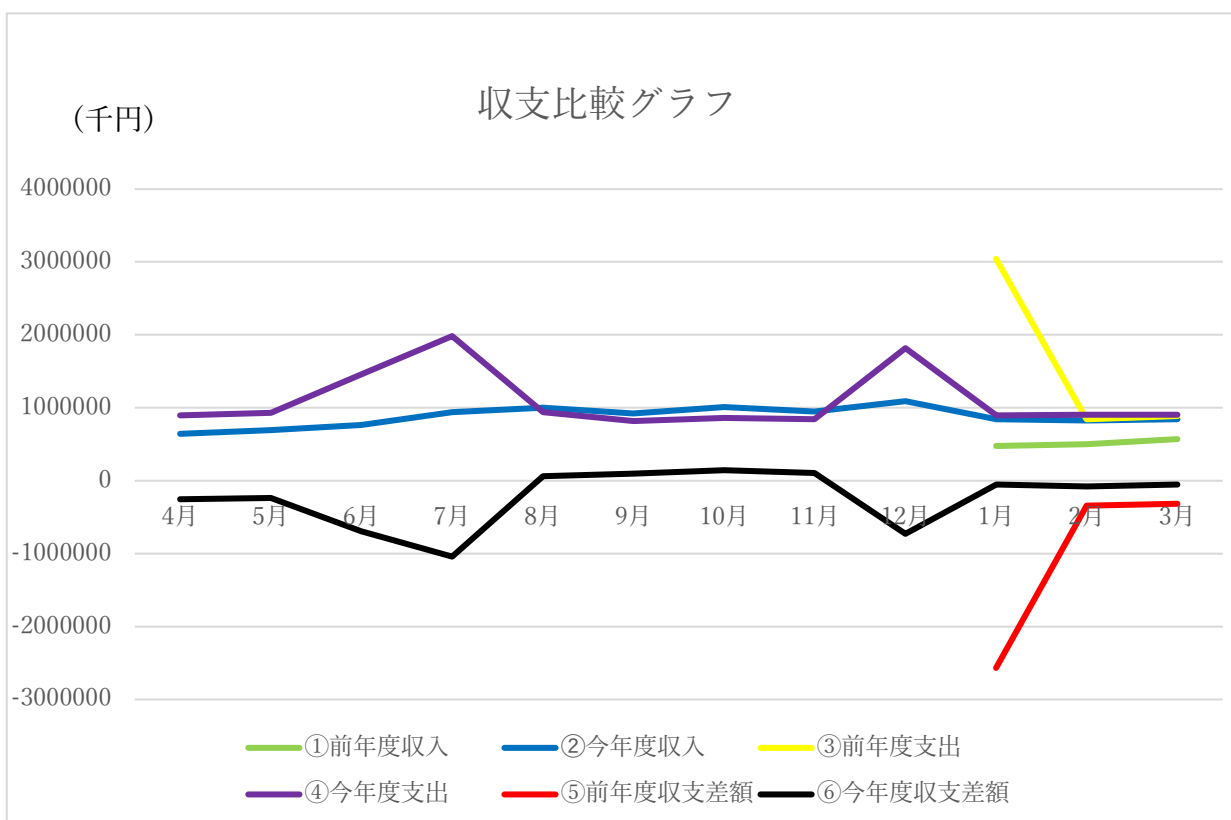
様々な理由で、増減があるため、利用人数を維持できるように営業活動を行った。要介護者の人数増加より、要支援の利用者の増加が多かったため、収入の増加につながっていない。

#### 8. 年間収支比較

(千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
①前年度収入							0	
②今年度収入	643	696	761	943	1,002	919	4,965	97.0
③前年度支出							0	
④今年度支出	898	929	1,456	1,984	940	819	7,026	110.4
⑤前年度収支差額							0	
⑥今年度収支差額	-255	-233	-695	-1,041	62	100	-2,061	

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
①前年度収入				477	498	571	1,545	
②今年度収入	1,009	953	1,091	842	827	847	10,534	681.7
③前年度支出				3,044	842	887	4,773	
④今年度支出	864	848	1,823	894	905	902	13,262	277.9
⑤前年度収支差額				-2,567	-345	-316	-3,228	
⑥今年度収支差額	145	105	-732	-53	-78	-55	-2,728	



# 特別養護老人ホームサンライフ魚崎

## 令和4年度 事業報告書

今年度は「足腰頭を鍛えて、いつまでも元気に楽しく過ごそう！」を経営スローガンに掲げ、ラジオ体操・ストレッチ体操・日光浴・軽作業等を日課に取り入れ、入居者様の拘縮予防、健康維持を実践して行き、入居者様の活動を増やす取り組みを行う事ができた。特養1階フロアで生活区域設定を行いながら対応していたが、閉鎖的な環境から、開放された環境に移行する準備を行い、2階フロアで食事の提供を行う等の試作的な対応を実践する事ができた。新型コロナウイルス感染症の発生状況において、初動対応の必要性を改めて認識した為、初動マニュアルを適宜更新し対応した結果、新型コロナウイルス感染症が12月に発生したが、1部屋（4人部屋）のみの発症に留まらせることができ、大きなクラスターが発症せず対応する事ができた。感染された入居者様4名においても、一時的に状態が悪くなっていたが、現在は状態が回復し、施設にて過ごして頂いている。入居者様の日々の健康チェックを継続した結果、状態変化（発熱や感冒症状等）に応じて、速やかに感染症対策を実施することができた。

### 1. 足腰頭を鍛えて、元気に楽しく生活ができる取組

#### I. 入居者様が楽しく元気に生活が送れる環境を作る

- ①入居者様の ADL 状態に応じた運動を実践し、午前（10：00）ラジオ体操を日課として定着させる事ができた。午後の入浴後（15:30～16:00）には軽作業（洗濯物たたみや袋作り等）を提供し、身体を動かす機会を増やすことができた。
- ②入居者様一人ひとりの身体状況に応じた介護方法の見直しを行い、拘縮を予防する為、基本的な介護方法（声掛け、ポジショニング、ボディメカニクス）の実践を進めたが、技術の向上において、職員一人ひとりの技術の差が著明になり、標準化されていなかった。次年度は介護技術の標準化が課題になった為、介護技術の標準化の取り組みを考えて実施していきたい。
- ③特養 B ユニットにおいて、感染症対策の為、一部生活区域を設定し、過ごして頂いていたが、日光浴又は散歩を企画し、外気に触れる機会を増やす事ができた。また、2階フロアを有効活用する為、昼食時及びおやつ時において、特養 B ユニットの入居者様を2階フロアへ誘導し、開放的な空間で食事を提供し、気分転換が図れる機会を設ける事ができた。
- ④感染状況に応じ、対面での面会を実施する事ができた。対面での面会を行う事で入居者様と家族様のコミュニケーションが図れる機会も増え、入居者様、家族様の楽しみに繋げる事ができた。

## II. 職員の意識改革

- ①「できることから少しずつ始める」という意識を目標に掲げ、入居者様の活動を増やす事に取り組みを行った。業務進行において、ラジオ体操、日光浴、軽作業等を実践する事ができた。拘縮の取り組みにおいてはポジショニングを重点的に実施する事ができたが、職員の意見として、拘縮を未然に予防する事の必要性が、多く意見として上がっており、次年度も入居者様の身体を動かす機会を多く設けて、拘縮予防を実践していきたい。
- ②入居者様、家族様、職員間で生じるハラスメントケースを想定し、職員がハラスメントについて正しく理解する為、全体会議や個人面談等で研修を実施する事ができた。

## III. 残存能力を活かした介護の実践

- ①必要以上の介助にならないように担当入居者様のケア方法の発信を行うが、業務に追われる状況において、車いすを使用する場面が多く見られた。その為、午前及び午後の申し送り時にケア方法等の発信を強化して行い、適切な介助方法で対応するよう伝達する。また、個人面談等を通して、職員個々の意見を聞き取り、業務進行やケアの方法等について、職員の意見を抽出し、業務改善及びケア方法の見直しに結び繋げる事ができた。次年度は業務進行の見直しを定期（3ヶ月に1回程度）に行い、ゆとりのあるスケジュールを作成して進めて行きたい。

## IV. 他職種との連携強化

- ①看護師・介護リーダー・相談員が口腔ケアカンファレンス終了後【奇数月の第2週の木曜日】、話し合いの場を設け、現在の介護・看護の状態を意見交換する事ができた。特に入居者様の身体的状況の情報を共有し、入居者様一人ひとりのケア方法の確認を行う事ができた。

## 2. 感染症予防対策及び災害発生時における事業継続の取り組み

- ①コロナウィルスが施設内で発生した場合を想定した、感染症対策訓練を実施し、実際に発熱の入居者様を対応する際には訓練を兼ねながら、ゾーニングや防護服の着脱を実践する事ができた。12月にコロナウィルス感染症4名、発症したが、1居室のみの発症で留まらせる事ができ、日々の感染症対策訓練（特に初動対応を強化）の効果を発揮する事ができた。
- ②入居者様の健康観察（毎日の検温）を継続し、体調変化の早期発見に努める事ができた。発熱者が出れば直ぐに感染症対策を行い、感染症の感染拡大を防ぐ事ができた。

- ③災害時の避難訓練（火災、水害又は地震等）、基幹福祉避難所開設訓練を行い、初動対応、備蓄品管理場所の確認、避難所の設営等、災害時のシミュレーションを確認する事ができた。

### 3. 経営の安定化への取り組み

#### I. 年間稼働率目標値 99%以上への取り組み

(稼働率%)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期
令和4年度	利用者数(人)	900	909	883	884	918	900	5,394
	稼働率(%)	100	97.7	98.1	95.1	98.7	100	98.3
	入院者数(人)	0	18(1名)	1(1名)	42(2名)	6(1名)	0	67(3名)
	空室数(人)	0	3	16	4	6	0	29
	入所者数(人)	0	0	2	1	1	0	4
	退所者数(人)	0	1	1	1	1	0	4
	看取り人数(人)	0	1	1	0	0	0	2
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	利用者数(人)	924	893	880	906	828	914	10,739
	稼働率(%)	99	99	95	97	99	98	98
	入院者数(人)	0	0	30(3名)	10(2名)	12(2名)	16(1名)	134(10名)
	空室数(人)	6	7	20	14	0	0	76
	入所者数(人)	1	1	2	2	0	0	10
	退所者数(人)	1	1	2	2	0	0	10
	看取り人数(人)	1	1	2	2	0	0	8

- ①ショートステイと連携し、ロングショート利用者数10名を定数として、(特養入所待機者4名程度)退所後、直ぐに特養へのスライド入所へ移行できる体制を整える事ができた。
- ②特養へのスライド入所後にショートステイの空室がでた為、ショートステイの空室数が増加した。その為、ロングショートを利用できる対象者を確保する事が今後の課題となる。随時特養への入所の問い合わせがあった際、ロングショートへの利用を含めて待機者として確保を勧めていきたい。
- ③7月に長期入院からの退所となる入居者様が2名、12月には新型コロナウイルス感染症が発症し、1居室4名が発症する。3名が入院加療となり、複数名が入院した為、稼働率が低くなった。

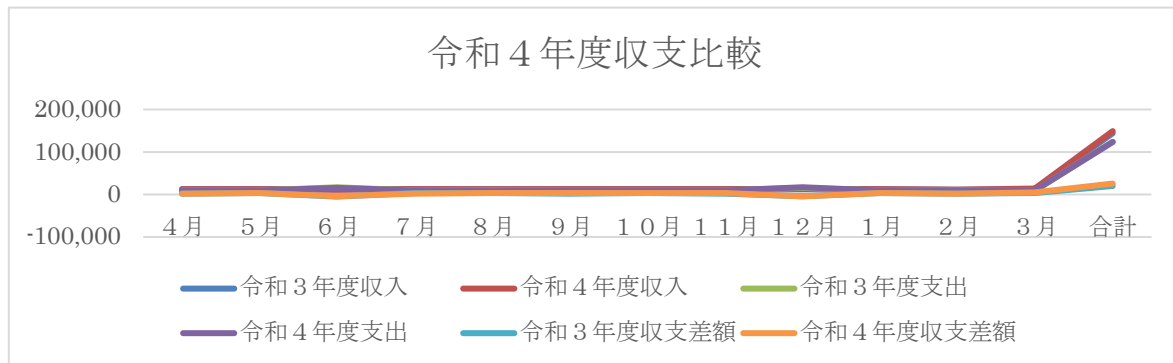


単位 千円

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計	前年度比
令和3年度収入	11,921	12,456	11,804	12,165	12,066	11,989	72,401	
令和4年度収入	11,892	12,109	11,612	11,828	12,778	12,446	72,665	4%
令和3年度支出	9,439	8,895	16,784	8,875	8,820	9,892	62,705	
令和4年度支出	9,261	8,797	15,874	9,440	8,661	8,812	60,845	97%
令和3年度収支差額	2,482	3,561	-4,980	3,290	3,246	2,097	9,696	
令和4年度収支差額	2,631	3,312	-4,262	2,388	4,117	3,634	11,820	122%
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度比
令和3年度収入	12,181	11,798	12,311	12,284	11,022	12,205	144,202	
令和4年度収入	12,550	13,071	12,376	12,397	11,367	14,647	149,073	103%
令和3年度支出	9,210	9,247	15,680	9,517	8,983	8,817	124,159	
令和4年度支出	8,744	9,209	16,878	9,359	9,126	9,204	123,365	99%
令和3年度収支差額	2,971	2,551	-3,369	2,767	2,039	3,388	20,043	
令和4年度収支差額	3,806	3,862	-4,502	3,038	2,241	5,443	25,708	128%

※令和3年度及び令和4年度、6月分基幹福祉避難所補助金を除く

※令和3年度（約700万円）令和4年度（約1,490万円）、減価償却費等を除く



以上

# 魚崎高齢者介護支援センター(短期入所生活介護)

## 令和4年度 事業報告

令和4年度経営スローガン「足腰を鍛え、いつまでも元気に楽しく過ごそう」に基づき、感染予防対策を継続しつつ、フロア内での歩行リハビリや屋外への散歩を行い身体を動かす機会を増やした。また、YouTubeを用いての体操はほぼ毎日実施し、午後からの職員による体操も不定期ではあるが行う事が出来た。掲示板の飾りつけの手作業や脳トレにも取り組んで頂き、職員も利用者様と関わる機会を増やす意識を持つことが出来た。

12月10日にショートのご利用者様よりコロナ感染者が発症し、そこからロングショートの利用者様3名が感染し入院となった。3名のうち2名は1週間の入院後戻ってこられたが、1名は在宅酸素が必要となり、そのまま退所となってしまった。その後の感染者は発症せず食い止める事が出来たが、その間の利用制限を行った事で大幅な利用者・収入減となってしまった。

### 1. 楽しく快適で安全な生活を提供

- I. 朝のラジオ体操の他に、午前中と午後に体操の時間を設け実施した。職員が行えない場合でも、YouTubeを活用し体操の機会を増やした。日曜日にロングの方を中心に天気の良い日には散歩を行い、気分転換を図った。
- II. 月ごとの掲示板の作業や色塗り、脳トレをその方に応じて提供し、取り組んで頂いた。洗濯たたみやその他の軽作業を積極的に手伝って頂き、役割を持って頂いた。
- III. 各居室、フロアの整理整頓の意識づけが、まだ根付いていないのが現状。管理者がフロア内や居室を回り、物が置きっぱなしになっていたり、物品が整っていない等受けられた際、環境整備についてその都度指導を行った。物品の管理も含め環境整備が次年度の課題となった。

### 2. 災害や感染症対策にかかわる体制整

- I. ロングショートご利用の利用者様でコロナ感染症が発症し、これ以上の感染者を出さないよう、全居室を感染対応とし、全利用者様に対して防護服での対応を行う事で、感染者を最小限に抑える事が出来、入所制限も週間で終息させることが出来た。また、医務との連携を密にし、速やかに保健所へ報告する事ができ、感染者の入院の手配ができた。
- II. 感染対応セットをあらかじめセットして置く事と、使用後に補充する事で次使用する際に物品不足が発生する事なく対応する事ができた。

### 3. 安定した利用者確保

単位 (人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和2年度	416	480	514	546	572	549	539	523	513	511	468	528	6,154
令和3年度	509	515	513	531	528	504	555	572	594	595	523	533	6,472
令和4年度	577	594	524	588	577	540	512	493	465	517	511	563	6,461

### 稼働率

単位 (%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
令和2年度	69%	77%	86%	88%	92%	92%	87%	87%	82%	82%	83%	85%	84%
令和3年度	69%	77%	86%	86%	85%	84%	90%	95%	99%	96%	93%	86%	87%
令和4年度	84%	84%	76%	82%	79%	74%	70%	70%	65%	70%	78%	78%	83%

- I. 前年度に比べ総人数は11名減、稼働率低下が見られた。主な原因は、ロングショートは10名前後は確保できていたが、8月末から月に平均1名ずつロングショートから施設入所へと移行し、次期ロングショートのスムーズな確保がうまくできなかった。新たなロングショートの候補を見つけても入所に時間を要してしまった。また、ロングの方の大腿骨頸部骨折による入院や、12月にはコロナ感染症が発症しロングの方の入院や退所、ショートステイの2週間の利用制限を行った為、大幅な人数減少となってしまった。次年度は新規利用を受けながら、ロングの次期候補も常に引き受ける体制作り、ベットコントロールが必要である。

### 4. 収支金額

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	前年度比
令和3年度収入実績	6,027	6,572	6,135	6,409	5,521	6,969	37,633	
令和4年度収入実績	6,980	6,808	6,381	6,747	7,341	6,651	40,908	108%
令和3年度支出実績	6,175	5,194	10,327	5,140	5,346	5,317	37,499	
令和4年度支出実績	5,871	5,173	9,439	5,725	5,448	4,896	36,552	97%
令和3年度収支差額	-148	1,378	-4,192	1,269	175	1,652	134	
令和4年度収支差額	1,109	1,635	-3,058	1,022	1,893	1,755	4,356	

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度比
令和3年度収入実績	6,881	6,675	7,289	6,816	6,452	6,375	78,094	
令和4年度収入実績	6,537	6,557	5,700	6,354	5,865	8,060	79,981	102%
令和3年度支出実績	6,184	5,614	10,007	6,044	5,222	6,893	77,463	
令和4年度支出実績	5,601	4,993	11,016	5,492	5,344	7,062	76,060	95%
令和3年度収支差額	697	1,061	-2,718	772	1,230	-518	631	
令和4年度収支差額	936	1,564	-5,316	862	521	998	3,921	

## 5. 人員構成力の強化

- I. 管理者による営業強化研修や、職員の ZOOM での研修に前年度よりは参加する事ができたが、まだ全職員ではない為、次年度も外部研修への積極的に参加し、その内容を発信し現場に生かせる職員育成に努めたい。
- II. 介護福祉士国家資格に今年度1名合格。介護支援専門員資格取得受験講座に3名参加し、資格取得に向けシフト調整を行った。

以上。

# 特別養護老人ホームサンライフ魚崎特養・短期入所 医務

## 令和4年度 事業報告書

「おいしい物を食べる」「きれいな所で清潔に生活する」「足腰頭を鍛えいつまでも元気に楽しく過ごす」をスローガンとして1年を通し足元のケアを重点的に行ってきた。コロナ禍3年にして特養ショートの利用者様の感染を経験し乗り越えた年度であった。

### 1. 感染症対策について

コロナ感染は12月にショート利用者様からショートロングの方1名と特養1名の方に感染、その後それぞれの同室者特養3名ショート2名計7名とショート職員2名が発症、本館2階フロアごと感染対応し待機待ちで順々に入院されたが、1名は入院することなく健康観察期間終了、以降の感染拡大無く鎮静化できた。

その後1月に特養3名が带状疱疹発症している。

コロナ以外の感染症は尿路感染(疑い)年間通して6名、下半期では感染対応時のプラン表の利用により水分提供減少予防でき効を奏した。

### 2. 排便コントロールについて

自然排便困難な方に麻子仁丸の効あり、それ以外でも個々に応じた排便コントロールが一定にできるようになりある程度ルーティン化できている。次年度より嘱託医が変わる事で、処方の変更の可能性もあり今後の課題となる。

### 3. 事故について

前期に頻発した爪剥がれの事故は対策を講じ、軽減したが3月に1件発生した。ある程度は予防できるものとして足爪事故はゼロを目指したい。

抱きかかえによるものと考えられる肋骨骨折が3件発生、いずれも入院はなく安静治療であったが、スライディングボードの活用をされに進める必要があると考える。褥瘡は延べ37件、発症後1カ月以内に治癒出来ている症例がほとんどであった。

スキンテアの件数は月によっては毎日起こっており、同一者同一部位の繰り返しが続いている。漫然とした対応で予防対策がなかなか実行されていなかったのが実情な為、事故報告、その後の対策検討した結果が周知されているかの確認と介護職と共に処置を行い現状の把握ができるよう今後も根気よく啓発していきたい。

### 4. 職員の休息について

1名の生活支援休暇は4日とも消化出来ずであったが、年休消化率は平均80%取れている。

看護職の特性上、日中の休憩時間の確保が困難な日が続く事もあり、その日の担当

業務を朝から確認し、昼食時間も計画するよう声かけと各部署の介護職へも申し送りで協力、理解を得ていきたい。

5. 令和5年度 特養・ショートステイ看護及び研修状況

	上半期	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年比 (%)
発熱・嘔吐等 感染対応者数	12	1	0	5	0	1	3	22	95
尿路感染(疑い) の発熱	5	0	0	0	1	0	0	6	66
加療を要する外傷 (下段褥瘡)	115	26	12	14	21	11	12	211	79
	7	2	2	0	1	1	1	14	37
Ns付き添い 受診回数	4	0	3	0	3	1	0	11	220
(3) 特変緊急対応の回数									
	上半期	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年比
特養	4	0	1	2	0	1	0	8	133
ショート ステイ	5	0	0	2	0	0	2	9	180
(2) 入院 ・ 退院 ・ 入退所者数									
	上半期	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年比
入院者数	4	0	0	3	2	1	0	10	166
退院者数	2	0	0	3	0	2	1	8	160
退所・死亡者数	3	1	1	2	2	0	0	9	100
入所者数	3	1	1	2	2	0	0	9	100
(4) 医療診療件数(受診・往診)・診療人数									
	上半期	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年比
特養ショート 件数	241	37	48	35	41	31	39	472	113
特養ショート 人数	772	112	170	117	132	102	109	1514	99
(5) 研修受講状況									
	上半期	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年比
外部件数	1	0	0	0	0	0	0	1	100
外部人数	3	0	0	0	0	0	0	3	300
内部件数	5	0	1	1	0	0	2	9	45
内部人数	15	0	3	3	0	0	6	27	47

以上

# 魚崎高齢者介護支援センター（通所介護）

## 令和4年度 事業報告書

経営スローガン「足腰頭を鍛えて、いつまでも元気に楽しく過ごそう」

今年度の経営スローガンである「足腰頭を鍛えて、いつまでも元気に楽しく過ごそう」の元、楽しく元気になるデイサービスを目指し、新型コロナ対策と活気のあるサービス提供のバランスを考え、出来るだけ制限はせず、感染しない対策へと変更。ケアマネージャーや利用を検討している方々へアプローチを行った。ただ、新規獲得等の利用者増加へは中々繋がらず。既存の利用者様も入院や施設入所など多く見られた事で、利用者数減少に歯止めがかからない状況となってしまった。ただ、1～3月において、次年度の新規利用者数、居宅事業所獲得を目標に、新型コロナ対策によって出来てしまった利用者や職員の距離感を見直し、かつては盛んであった会話や交流楽しみを取り戻す為のフロア模様替えに着手し、ニーズが多い本格的なリハビリの導入検討、営業方法の見直し等を行った。

### 1. 楽しく元気になるデイサービスを目指して

- I. 「体操」については、午前・午後における体操や棒、チューブ等を使用した体操も充実させ、リズム体操等楽しく取り組めるような工夫も職員がアイデアを出しつつ、継続的に取り組む事が出来た。ただ、体験利用や問い合わせにおいて、本格的なリハビリを望む声も少なからずあり。下半期は本格的なリハビリ導入に向けて理学療法士を募集。11～12月にかけて、機能訓練を導入しているデイを視察。来年度に向けて準備を行った。
- II. 「活動」「楽しみ」については、毎月工夫を凝らした季節毎の飾り作りや雑誌類の購入、職員と一緒に編み物を楽しんだり、囲碁や将棋、麻雀等継続的な提供。音楽療法やその他演目ボランティアの復活等、提供する事が出来た。ただ、神戸シニアポイントの導入やボランティア獲得等、本格的に動いていくまでには至らず。
- III. 「食事」については、新しい試みだけではなく、松花堂弁当や選択食等これまでの試みの復活、想像し楽しめるご当地銘菓週間等を継続的に提供する事で楽しんで頂く事が出来、ケアマネージャーや家族様にも、チラシや献立表、デイ通信等を駆使し、営業にて取り組みをアピールする事で、利用に繋がった。
- IV. 新型コロナ対策において、ソーシャルディスタンスを意識し過ぎた為に、職員、利用者間で距離が出来てしまい、以前は盛んであった会話や楽しみ等が少なくなってしまう。感染対策と楽しみのバランスを意識し、感染対策を工夫しつつ、1テーブル3～4人に変更。集団レクも再開し、フロアや職員業務エリア等を距離感が近く感じれるようになったが、舞台側のフロアが広々としており、トイレからも遠い等の課題を抱えている為、西側フロアへの移動や模様替えを1～3月に検討。3月末に移動、模様替えを行った。

- V. 職員会議は職員同士の時間を合わす事が難しく、不定期開催となり、情報共有、機統一不足の要因となってしまった。

## 2.利用者様獲得計画

利用者数 (目標差)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
	578名 (-85)	575名 (-101)	560名 (-116)	532名 (-170)	526名 (-216)	493名 (-235)	3,264名 (-923)
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	524名 (-204)	481名 (-273)	502名 (-226)	449名 (-199)	444名 (-204)	546名 (-183)	6,210名 (-2,212)

- I. 今年度は、1日の平均利用人数を27～28名、1ヶ月の利用人数690～720名を目標に、新型コロナウイルス発生以前の利用人数まで戻せるよう努めたが、これまで複数日利用されていた既存の利用者様の入院や施設入所が立て続けにあり、また、新型コロナ対策により出来てしまった利用者同士や職員の距離感が広く寂しい形となり、昨年より楽しみを増やす対策を行ったが、会話や交流が少なく、新規利用者獲得へと繋がらず。利用人数も回復せず、目標値を大きく下回る結果となった。

### II. 利用者獲得に向けての具体的な取り組み

- ① ケアマネ、本人様、家族様からデイサービスに対して何を望むのかについて、リサーチを実施。その中で、「体操や運動、リハビリはしていないのか」「利用者様同士での会話や一緒に作品作りをしたりしたい」「車椅子の方でも入れるお風呂はあるか」「自宅で1人でぼーっとしないように、脳トレ等あるか」「短時間利用はあるか」「ショートステイとセットで利用できるか」といった要望が特に多く見られた。これまで、運動、リハビリの専門プログラムがなく、コロナ対策において利用者同士の距離感も遠く、満足なサービス提供が出来ていなかった面があり。リハビリの導入準備、短時間利用の受け入れ枠増加、交流しやすいフロアへの変更、ボランティアの再開等、要望に合わせて対策を行った。
- ② 毎月、居宅事業所への訪問を行い、状況報告や空き情報等のチラシ配布等を実施。新規利用者獲得へ向けて、訪問事業所を利用されている事業所6～8施設に加え、利用されていない10～12事業所も追加。1月の訪問時より、複合型施設である強みを活かし、デイのチラシを配るだけではなく、他部署も含め、説明を行う等、幅広く興味を持って頂ける様に意識しつつ、営業を行った。
- ③ 御立で行われた営業強化研修に参加。チラシ配布を行うだけの営業ではなく、こまめな訪問等で、今まさにケアマネや利用者はどのようなサービスのデイを求めているか、体操やリハビリなのか、他者との交流、入浴なのか等、求めている事や困っている事に対して話を聞いたり、相談にのる事で、ケア



マネとの関係性を構築する事で、デイサービスに興味を持ってもらう事を学んだ。

### 3. 感染防止対策

- I. 朝のお迎え時、乗車前に検温を行い、37.0℃以上の際、感染予防の観点からご利用を中止させて頂く。また、自宅でも日頃の検温や体調観察を行って頂き、適宜家族様に向け感染症の注意喚起のお手紙を配布。体調不良時にはご利用を控えて頂く事と早めの受診を依頼する等行った。
- II. 音楽療法やナルク等、ボランティアの方々については、4～5月より順次再開。感染対策を行いつつ、中止ではなく、継続していける方法に見直し、行って頂く事が出来た。
- III. 利用者様の発熱等における感染対応や物品の管理方法について、見直しを行い、本番でも滞りなく対応できる様、研修を行った。
- IV. 新型コロナワクチン5回目接種については、4回目と同様施設で行う事が出来ず、各自ご家庭にて行って頂く事となった。
- V. デイサービス内において、利用者様には新型コロナウイルス陽性者・濃厚接触者はいなかったが、職員が7月後半、8月中旬、11月初旬、12月末の計4名陽性となった。

### 4. 人材育成、人材確保、資格取得

- I. 介護支援専門員1名合格。介護支援専門員初任者研修2名、介護福祉士実務者研修1名修了。
- II. 希望する休暇が取れる様、利用予定人数に応じた勤務調整、少人数でも行える様、不要な業務の廃止や効率的な動きが出来る様に、消毒や清掃、記録業務の見直し等を行い、希望する有給を取得してもらう事が出来た。

### 5. コスト削減、設備機器の整備、点検の実施

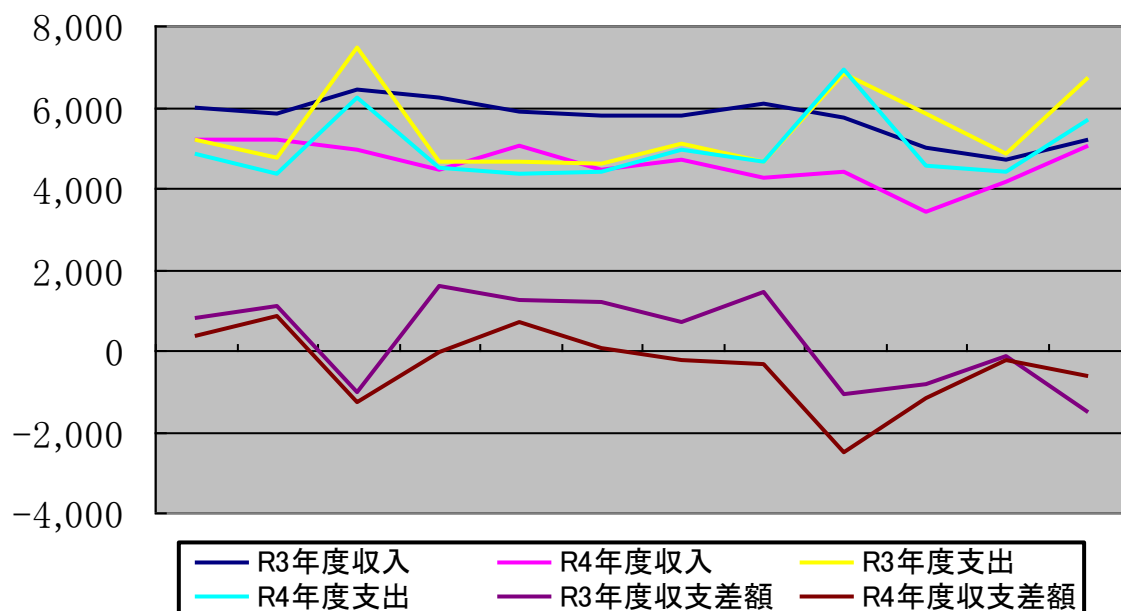
- I. エアコンの時間帯ONOFFや節水、節電の啓発、窓に断熱シート貼る等行い節電、節水に努めた。
- II. デイが和室内に保有している物品整理や点検を9、1月に実施した。

## 7. 令和4年度利用者状況と収支状況

令和4年度 収入・支出 (単位：千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計	前年比
R3年度収入	5,995	5,808	6,440	6,201	5,865	5,774	36,516	97%
R3年度支出	5,169	4,742	7,456	4,620	4,634	4,589	31,210	95%
R4年度収入	5,166	5,180	4,924	4,456	5,041	4,436	29,206	75%
R4年度支出	4,843	4,325	6,202	4,496	4,347	4,410	27,124	85%
R3年度収支差額	786	1,066	-1,016	1,581	1,231	1,185	4,833	217%
R4年度収支差額	323	855	-1,278	-40	694	26	580	14%
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年比
R3年度収入	5,770	6,063	5,744	4,970	4,716	5,199	68,510	92%
R3年度支出	5,074	4,647	6,824	5,818	4,853	6,710	65,136	98%
R4年度収入	4,703	4,259	4,401	3,386	4,154	5,038	55,651	77%
R4年度支出	4,938	4,618	6,903	4,567	4,410	5,682	58,242	88%
R3年度収支差額	696	1,416	-1,080	-848	-137	-1,511	3,369	58%
R4年度収支差額	-230	-359	-2,502	-1,181	-256	-644	-4,592	-137%

収支比較グラフ (単位：千円)



以上

# フレール魚崎中町（認知症対応型共同生活介護）

## 令和4年度 事業報告書

「足腰頭を鍛えて、いつまでも元気に楽しく過ごそう！」をスローガンに、感染対策強化に努めながらも、コロナ禍による入居者様のストレス・認知症状の進行緩和の為、制限の中でできることを積極的に取り組み、体操・口腔体操・廊下歩行・散歩（日光浴）・日常生活動作・自立支援を強化し取り組んだ。職員7名コロナウイルス感染したが、その都度感染対策強化をおこない、入居者様・他の職員に感染なく対応できた。入院者2名・入退居3件。コロナ対応で入居延期もあったが、他部署の協力体制の結果、合計37の空床となった。

### 1. 感染対策強化と足腰頭を鍛えやりがい・楽しみ作りで心身共に健康を

- I 消毒・換気の徹底と継続、入居者様のマスク着用等、感染症予防対策に努めた。又、感染時のマニュアルの見直し作成、実践研修を行い、職員の対策意識の強化に努めた。
- II 職員7名がコロナウイルス陽性者がでたが、その都度感染対策強化をおこない、入居者様・他の職員に感染することなく終えた。その都度職員の負担はあったが、全職員が協力し取り組めた。
- III 免疫力向上・健康維持・ストレス軽減の為、極力日光浴（青空喫茶・青空ランチ）・散歩・廊下歩行・体操を積極的におこない、適度な運動や楽しみ作りを実施した。
- IV 季節の掲示物作成等も積極的に取り組み、個々のできる事、やりがい作りに取り組んだ。
- V 面会制限実施。Web面会・電話での家族様との交流をおこない、毎月の手紙で日常の様子のご写真を掲載し、入居者様・家族様の不安や不満軽減に努めた。又、扉越し面会は、感染者状況に応じ（4月～7月・10月～3月）実施。
- VI 食の楽しみ強化への取り組みとして、新しいメニューは少し取り組んでいるが、出前や郷土料理は実施できていない為、今後の課題。

### 2. 認知症ケア統一に向けての人材育成

- I 職員会議で認知症研修を実施し認知症ケアの認識・ケアの統一に取り組んでいる。
- II フロア会議・カンファレンスをおこない、認知症・個別ケアへの取り組みをおこない、職員の意識や取り組みも向上してきている。4階は精神的に不安定な方がおられ、心療内科医と連携し対応しているが中々落ち着かれず、対応に苦戦し他者への影響、職員の負担も増えている為課題。
- III 2年目のEPA職員は順調に業務をおこなえている。急変時や事故の対応・連絡、電話対応等は引き続き課題。

### 3. 介護保険法遵守の為の進捗状況。

- I ケアプランは3ヶ月に一回見直し作成実施。コロナ感染症対策の為、家族様へは郵送している。居室担当者会議は毎月実施。

II 認知症研修はコロナ感染症対応等の為延期もあり、計 3 回実施。身体的拘束適正化研修は全職員 2 回実施。

#### 4. その他

I 物価高騰の為、節電、物品の節約を全職員に啓発し、エアコンのタイマー運転及び計画的な稼働、不必要な照明の削減等取り組んだ。夏は猛暑等の為、節電は中々実績に繋がらなかったが、冬は衣類等増で意識を強化し取り組んだ。

II R4 年から食費を定額負担（1 日 1,445 円）に変更とし、収入が増えている。

#### 5. 要介護者の年齢・介護度

平均年齢 88 歳・平均介護度 2.4（R5.3 月末）

#### 6. 事故発生状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
転倒	R3 年度	0	1	3	1	3	0	1	2	3	4	1	1	20
	R4 年度	2	0	1	1	0	1	2	5	3	5	3	2	25
転落	R3 年度	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	3
	R4 年度	1	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	4
内出血 打撲	R3 年度	0	2	0	1	0	1	0	0	2	2	0	0	8
	R4 年度	0	0	2	1	1	2	2	3	1	1	3	2	18
擦り傷 裂傷	R3 年度	3	5	1	3	0	0	1	1	1	1	0	1	17
	R4 年度	0	2	1	2	0	1	0	0	1	0	0	2	9
異食 誤嚥	R3 年度	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2
	R4 年度	0	1	0	0	0	0	0	1	2	1	0	0	5
薬	R3 年度	2	0	2	1	1	1	0	4	0	0	2	2	15
	R4 年度	0	0	0	1	1	0	0	0	1	1	0	2	6
その他	R3 年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	R4 年度	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	R3 年度	5	7	6	7	5	3	7	8	11	11	9	7	111
	R4 年度	4	3	4	5	3	4	4	10	9	8	6	8	68

I 転倒…手首橈骨遠位端骨折 1 件・左大腿骨転子部骨折（入院）1 件

II 異食…パズル III 誤嚥…鶏肉・義歯外れ等

IV 薬ミス…服薬忘れ 2 件・薬セットなし 1 件・飲みこぼし 2 件・食後薬を食後に服薬 1 件

V その他…他者の歯ブラシ使用

## 7. 利用者数

I 入院 2 件・入退居 2 件で空室も減少。入退居は、特養入居・短期入所の待機により、空き室最小限での入居予定だったが、職員のコロナ感染と重なり空床日数が長くなった。年間では他部署協力のもと合計 37 の空床でとどめることが出来た。

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総日数		480	496	480	496	496	480	496	480	496	496	448	496	5840
利用日数 (日)	R3 年度	451	465	475	496	488	459	480	480	496	483	434	496	5703
	R4 年度	480	496	480	496	482	480	496	478	475	496	448	496	5803
入院 (日)	R3 年度	6	0	0	0	8	21	7	0	0	13	14	0	69
	R4 年度	0	0	0	0	0	0	0	2	7	0	0	0	9
空室(日) (退居)	R3 年度	23	31	5	0	0	0	9	0	0	0	0	0	68
	R4 年度	0	0	0	0	14	0	0	0	14	0	0	0	28
稼働率 (%)	R3 年度	94%	93%	99%	100%	98%	95%	97%	100%	100%	97%	97%	100%	97%
	R4 年度	100%	100%	100%	100%	97%	100%	100%	99%	96%	100%	100%	100%	99%

I. 入院 2 件…病気 1 件・骨折 1 件 II. 退居 2 件…特養入居・入院 1 件 III. 入居…2 件

## 8. 年間収支結果

単位 (千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月		
令和 3 年度収入	4,807	5,194	5,196	5,313	5,432	5,008		
令和 4 年度収入	5,749	5,797	5,701	5,817	6,170	6,078		
令和 3 年度支出	5,348	4,982	8,319	4,935	5,292	4,693		
令和 4 年度支出	5,094	4,753	8,455	5,162	5,144	5,378		
令和 3 年度収支差額	-541	212	-3,123	378	140	315		
令和 4 年度収支差額	655	1,044	-2,754	655	1,026	700		
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度比
令和 3 年度収入	5,309	5,232	5,737	5,612	5,282	5,843	63,972	
令和 4 年度収入	6,006	6,261	6,019	6,016	5,528	6,491	71,633	111%
令和 3 年度支出	5,159	4,808	8,271	5,591	4,730	5,083	64,596	
令和 4 年度支出	5,242	4,969	9,210	5,093	4,784	8,718	72,002	111%
令和 3 年度収支差額	150	424	-2,534	21	552	760	-624	
令和 4 年度収支差額	764	1,291	-3,191	923	744	-2,227	-369	169%

※減価償却費等は計上せず

- ・ R4 年から食費を定額負担 (1 日 1,445 円) に変更し収入が増えているが、介護用品、消耗器具費、保健衛生費等加している。
- ・ 正職員の比率が高くなり、EPA 雇用等もあり人件費が高くなっている。

以上

# 介護型ケアハウス サンライフ魚崎

## 令和4年度 事業報告書

「足腰頭を鍛えて、いつまでも元気に過ごそう！」をスローガンとし、新型コロナウイルス対策をしながら、入居者様にできるだけ体・頭を使って頂けるような散歩や体操等のレクリエーションの計画的な実施、日常生活内でできる運動を毎日行う事で、入居者様の心身の維持・向上に努めた。

8月下旬に新型コロナウイルスのクラスターが発生、人員確保や感染対応に苦労はしたがケアハウス全体に拡大することなく経過した。

6月に技能実習生2名、10月にEPA職員1名の受け入れを行い、リーダーを中心に業務指導を行っている。どちらも仕事に対する意欲や向上心は高く、順調に育ってきている。資格取得においては介護福祉士4名が受験、3名合格する事ができた。

### 1. 入居者様の健康といきがいづくりの推進

- I. 毎週火曜日及び木曜日にケアハウス4階庭園への散歩、全身曲げ伸ばし運動を行う体操クラブ等のクラブ活動、入居者様と共に簡単なおやつを作るおやつレクリエーションを計画的に行い、入居者様の体力向上や楽しいづくりに繋げた。
- II. 入居者様が日常生活で行える運動や活動を個別で表を作成し、運動担当職員を毎日割り振る事で毎日歩行や立位運動、屈伸運動や手指の運動等を行った。
- III. 日常生活の中で介助の終わり際などに発声練習や足ふみ運動、簡単な屈伸運動を行い細かい時間の有効活用ができるよう意識付けを行い、職員の意識を高めた。
- IV. 可能な入居者様において毎日朝食後を中心に計算問題や塗り絵を提供し、手指や脳の活性化を図った。
- V. 昨年度に引き続き家族様へ入居者様・担当職員より毎月手紙の送付をしている。出来る方入居者様においてはご自分で手紙を書いて頂き、本人様の月替わりの写真と担当職員コメントも同封させて頂いた。家族様から感謝の言葉を頂く事も多く入居者様・家族様の安心に繋がった。
- VI. コロナウイルスの状況を考慮した結果、ボランティア等の外部の方の受け入れは見合わせている。

### 2. 入居者様確保・感染防止

- I. 前年度入院日数152日に対し今年度は234日と、空床日数は前年度176日に対し110日となった。入院に関しては計12件あり出来る限り早期退院できるよう連絡・調整を行ったが、3週間以上の中・長期的な入院になるケースが3件あった。
- II. 毎月、デイサービス管理者と共に居宅事業所訪問を行っている。また9月と3月に東灘区内外の病院・老健・居宅事業所にケアハウスの案内送付を行った。

- Ⅲ. サンライフ住吉川・さくら魚崎北町グループホーム・サンライフ居宅・魚崎北部あんしんすこやかセンターと情報交換を行っている。さくら魚崎北町より紹介のあった方2件が入居に繋がった。
- Ⅳ. 新型コロナワクチン接種を入居者様・職員共に4回目を8月、5回目を12月に実施した。入居者様・職員共にワクチンによる副作用を考慮し、どちらも3日間に割り振ったが、大きな問題なく終える事ができた。
- Ⅳ. 施設内での手洗い・うがい・換気・消毒等の標準的な感染対策を徹底した。また全職員が毎日検温を実施し、同居家族の体調に注意し、少しでも風邪症状等あれば出勤を見合わせ医療機関での検査を行うように周知や勤務調整を行った。しかし8月下旬にケアハウス2階で入居者様8名、職員7名に新型コロナウイルスのクラスターが発生してしまった。限られた人員で感染対応しながら入居者様対応に苦労したが、他フロアへの感染拡大する事なく2週間程度で落ち着かせる事ができた。入居者様1名入院され、施設へ持ち込まない事がどれだけ重要であるかを再認識すると共に感染発生時の対応における理解を深める事ができた。

### 3. 人材育成

- Ⅰ. 6月下旬より技能実習生2名、10月よりEPA候補生1名が就労。日本語能力には課題はあるが、業務及び学習への意欲や向上心は高く、少しずつ成長を感じている。
- Ⅱ. 相談員・リーダーが必要な職員に対して1ヶ月～2ヶ月毎に面談を行い、職員の悩み課題の共有、アドバイスをを行った。
- Ⅲ. 毎月リーダー会議を行い、各フロアへ重要な情報の発信や課題の共有及び相互協力を話しあう場とした。
- Ⅳ. 施設長・相談員を中心とした国家試験対策講座や進捗状況の確認を行い、介護福祉士国家試験を4名が受験、3名合格する事ができた。

### 4. その他

- Ⅰ. 物価高騰を受けて、物品の適正使用に努めた。特に電力に関しては空調のタイマー設定及び温度や風量の管理、不要な照明の消灯に注力し、電気代抑制を図った。
- Ⅱ. 重大事故については入院に至らない事故が7件、入院に至った事故が2件発生した。

### 5. 利用日数・稼働率・入院日数・外泊日数・入退所人数・看取り人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
日数	1,440	1,488	1,440	1,488	1,488	1,440	8,784
利用日数	1,426	1,481	1,432	1,476	1,454	1,371	8,640
稼働率	99.0%	99.5%	99.4%	99.2%	98.0%	95.2%	98.3%
入院日数	12	0	0	0	32	38	82
外泊日数	0	0	0	0	0	0	0
空室数	2	7	8	12	2	31	62

退居者数	0	2	1	0	1	1	5
新規入居者数	1	1	1	1	0	2	6
看取り人数	0	1	1	0	1	1	4
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
日数	1,488	1,440	1,488	1,488	1,344	1,488	17,520
利用日数	1,488	1,436	1,447	1,439	1,285	1,437	17,176
稼働率	100%	100%	97.2%	96.7%	95.6%	96.5%	98.0%
入院日数	0	0	25	44	44	39	234
外泊日数	0	0	0	0	0	0	0
空室数	0	0	16	5	15	12	110
退居者数	0	1	0	1	0	1	8
新規入居者数	0	0	1	0	1	0	8
看取り人数	0	0	0	0	0	1	5

## 5. 年間収支結果

(単位：千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	前年度比
令和3年度収入	18,899	19,966	18,848	19,727	20,846	19,320	117,336	
令和4年度収入	19,798	20,853	19,939	20,367	20,801	20,596	122,354	104%
令和3年度支出	15,951	13,974	26,113	13,465	13,622	12,885	96,010	
令和4年度支出	14,277	14,699	23,954	15,571	14,260	14,000	96,762	101%
令和3年度収支差額	3,104	5,673	-7,107	6,161	7,162	6,337	21,330	
令和4年度収支差額	5,521	6,154	-4,015	4,796	6,541	6,596	25,593	120%
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
令和3年度収入	20,186	19,857	20,785	21,056	18,948	20,989	239,157	
令和4年度収入	20,389	21,003	22,974	19,676	18,438	24,004	248,838	104%
令和3年度支出	15,102	12,666	24,635	15,065	13,339	13,855	190,672	
令和4年度支出	16,233	14,147	27,137	14,650	13,783	14,637	197,348	103%
令和3年度収支差額	5,084	7,191	-3,850	5,990	5,609	7,134	48,488	
令和4年度収支差額	4,156	6,856	-4,163	5,026	4,655	9,367	51,490	106%

※減価償却費等は計上せず

※収入は令和3年度と比べ104%、支出は103%、収支差額は106%の結果となった。

以上



# 介護型ケアハウス サンライフ魚崎医務室

## 令和4年度 事業報告書

スローガン：「足腰頭を鍛えて、いつまでも元気に楽しく過ごそう！」

### 1. 令和4年度受診・往診・入院・救急・看取り件数等

月	往診 件数	受診 件数	入院 件数	救急 件数	看取り 件数	薬管理 件数	入居数	退所	入所
4月	125	7	0	0	0	48	48	0	1
5月	119	10	0	0	1	47	47	1	1
6月	151	5	0	1	1	47	47	0	1
7月	101	5	0	0	0	48	48	0	1
8月	111	5	5	3	1	44	44	0	0
9月	106	6	1	0	1	48	48	0	2
10月	147	6	0	0	0	48	48	0	0
11月	97	9	0	0	0	47	47	1	0
12月	105	7	2	2	0	46	46	1	1
1月	92	2	2	1	0	45	45	1	0
2月	106	10	1	1	0	46	46	0	1
3月	122	14	0	0	1	46	46	0	0
合計	1382	86	11	8	5	560	560	1	8

### 2. 令和4年度 看護業務の総括

#### 1) 入居者様の健康管理

- ① 入居希望者様の面接は出来る限り同席し、現状態の把握と入居後必要な医療的支援についてのアセスメントを行い安心して入居して頂くことが出来た。
- ② 入居者様の体調確認を行い異常の早期発見に努めた。異常があれば速やかに医師に連絡し、指示に従い対応した。
- ③ 毎月主治医に医療連携報告書を提出し医師との情報共有に努めた。
- ④ 褥瘡ゼロを目標に、介護職員と協力し栄養管理、除圧、清潔保持等のケアを行った。早期に皮膚科医の診察を受け、適切な処置を行った。  
持ち込みの褥瘡が悪化し、入院された入居者様がおられたが、家族様、医師と情報交換を密にし家族様が望まれる処置や対応ができた。

- ⑤ 転倒リスクについてアセスメントを行い予防しているが、避けられない転倒もあり、事前にご家族に十分説明し理解を得るようにした。転倒時は見守りカメラを確認し、介護職員と一緒に原因と対策を検討した。  
入居翌日に転倒し救急搬送された事例がある為、入居時は特に慎重に転倒リスクについて介護士と話し合い、センサーなどは積極的に活用していく。
- ⑥ 歯科医、歯科衛生士と連携し定期的に歯科検診と口腔ケアを行い、異常が見られた場合は速やかに医師に連絡し、口腔内トラブルの予防と早期治療に努めた。  
口腔ケア対象者は半年に1回歯科検診を受けて頂いた。
- ⑦ 阪神調剤薬局と連携し、処方変更時の情報共有やダブルチェックを行い、確実な薬剤管理を行った。

## 2) 看取りの対応

看取り介護への移行時期を見極め、早めにご家族と看取りについて相談をさせていただき、コロナ禍ではあるが感染対策を行いながらなるべくご家族様と面会出来るよう配慮したことで、穏やかに居室で最期を迎えることができた。

## 3) 感染対策

- ①手洗い、うがい、換気等の基本的な感染対策は習慣化出来ており1日2回の共用部消毒や換気で感染経路の遮断に努めた。
- ②職員、入居者ともに毎日体温測定実施し、職員は発熱時や風邪様症状、下痢等あれば出勤せず報告するよう徹底した。感染流行時は、急を要する受診以外は控え、なるべく往診で依頼した。
- ③コロナワクチンの5回目接種は12月に希望者全員に問題なく終了した。  
感染対策の研修として「発熱時の初動対応のフローチャート」を作成し回覧してもらい、「介護・障害事業所等における新型コロナウイルス感染症対策（防護服の着脱）/札幌市保健福祉局」の動画視聴を職員全体に義務付けた。
- ④8月後半に2Fの入居者様8名がコロナ陽性となったため、2Fのフロア全体をレッドゾーン、ロビーをオレンジゾーンとし、感染対策を徹底した。看護師が3名とも感染した為、処置はケアワーカーへ依頼し、異常時は電話対応を行い、必要時は医師へ連絡し指示を仰いだ。  
一人重症化するリスクのある入居者様が感染していた為、その方のみ入院となったが2週間後には元気に退院され、そのほか7名の感染した入居者様も重症化せず、療養期間終了まで新たな感染者を出すことなく経過出来た。
- ⑤現在常勤看護師2名で業務し、オンコールを2名で対応しておりなかなか年休、生活支援休暇が取りにくい状態の為、個々で体調管理に努める。

以上

# サンライフ魚崎（厨房）

## 令和4年度 事業報告書

今年度、ささゆり会の経営スローガンである「足腰頭を鍛えて、いつまでも元気に楽しく過ごそう！」を実現するため、継続して、厨房職員の人材育成・職場環境改善を重点に置き、安心・安全・美味しい食事提供に向けた指導方法の見直しを行った。5月に冷凍冷蔵庫1台、2月に食器乾燥機、殺菌庫2台、殺虫灯、回転釜、食器棚、電子レンジ・冷蔵庫の交換を実施した。長期化している新型コロナウイルスや天災の影響を大きく受けながらも、前年度と比較すると、食材費は1,263,417円減額となっている。

### 1. 個々に応じた人材育成・ハラスメント予防に対する周知

- ・今年度は、改訂された業務を覚えながら、基礎的な給食業務・衛生面の知識等の再確認の徹底を行った。食材の温度管理方法の見直しを行い、新たなマニュアルを作成。厨房職員全員に周知を行った。個々の知識や能力の差が見受けられたが、コミュニケーションや情報共有を行う事で、新しい業務の取得を目指し、新規入職者の育成に努めた。
- ・厨房職員の高齢化・人材不足については、9月より、週3回職員食を無しにし、勤務人数の削減を行うことで対応した。職員食中止に伴い、デイサービスで毎月実施していた選択食も、食数の管理が困難なため、中止とした。令和4年度の食事アンケートでは、選択食の実施を望む声もあり、再開できるよう、人材確保・育成に努めていく。
- ・デイサービスでは、集客のため、特別食の提供を実施し、利用者様確保を目指した。食事アンケートでは、松花堂弁当での食事提供は、満足して頂けているという結果が出ており、今後も継続して実施していく。

### 2. 厨房設備機器の更新・改修の検討

長期使用による厨房設備の老朽化が見受けられる。随時、必要に応じて本部長代理・施設長・事務長・管理栄養士で厨房設備の更新・改修の検討を行った。

#### ① 肉・魚用冷蔵庫の更新

冷却不良のため5月に更新を行った。

#### ② 食器乾燥機・回転釜・殺菌庫・食器棚・冷蔵庫・電子レンジ・殺虫灯の更新

各所劣化・故障のため2月に更新を行った。

#### ③ 蛇口各所の修理・交換

水漏れ・衛生面の改善のため交換を行った。

### 3. 食材費価格高騰に対する対策

天災やコロナ禍・ウクライナの戦争等の影響により、大幅な食材費の高騰が続いている。今年度も継続して、主な納入先2社で比較し、調味料や食材等、安価で仕入れできるよう工夫を行った。

食材費は、昨年度と比較し減額とはなっているが、9月より職員食を週3回中止していることが影響を及ぼしている可能性もある。今後も食事の質は損なわない程度に、使用食材の検討や、安価に仕入れられる方で発注できるよう、2社での比較を継続して実施し、美味しい食事作りを考えていきたい。

#### 〈R4年度 食材料費実績〉(円)

	R4年度	R3年度	増減(%)
4月	2,580,135	2,604,356	-0.9
5月	2,623,072	2,597,706	+1.0
6月	2,463,349	2,619,196	-6.0
7月	2,670,910	2,602,735	+2.6
8月	2,700,216	2,498,633	+8.1
9月	2,522,779	2,485,021	+1.5
10月	2,361,025	2,391,345	-1.3
11月	2,274,856	2,486,969	-8.5
12月	2,652,445	2,680,238	-1.0
1月	2,512,759	2,618,653	-4.0
2月	2,315,150	2,291,239	+1.0
3月	2,482,428	2,546,450	-2.5
合計	29,159,124	30,422,541	-4.2

※昨年度比較、1,263,417円減額

以上

# サンライフ魚崎居宅介護支援事業所

## 令和4年度 事業報告書

今年度の法人経営スローガン「足・腰・頭を鍛えて、いつまでも元気に楽しく過ごそう」に沿ってケアマネジメントを行い、赤字をできるだけ単年度では解消するよう進めていきました。上半期は、収支結果、黒字となりました。現在、正社員ケアマネ3名＋非常勤認定調査員1名で頑張っています。

### 1. 感染症や災害への対応力強化

感染症や災害の発生した場合であっても、日頃から地域にある事業所と情報交換することにより、利用者に必要なサービスを継続的に提供できるようにする。ケアマネロッカーに災害時、持ち出し名簿を作成し、災害時の安否確認が出来るように用意しました。

### 2. 令和3年4月改定の介護保険報酬にのっとり、適正なケアマネジメントを行います

- ① 生活援助の訪問回数の多い利用者等のケアプランの検証を行いました。該当者があり、基準回数を超えるケアプランの届出書を提出しました。
- ② 退院・退所時カンファレンス（家屋調査等）にも、福祉用具専門相談員等を必要に応じ、参画してもらいました。  
利用者退院時、医療機関でのカンファレンスに参加し、安心してご自宅での生活ができるよう居宅サービス計画・支援を行っていています。（退院・退所加算（I）イ）
- ③ 看取り期でのサービス利用前の相談、モニタリングの評価を行い、本人の意思を尊重した支援に結び付ける。（ターミナルケアマネジメント加算）  
該当者はおられませんでした。
- ④ 医師の診察時に同席し、必要な情報提供を行うとともに、医師から利用者に関する必要な情報提供を受け、ケアプランに反映させます。（通院時情報連携加算）

### 3. 研修・その他

令和4年5月17日（火）うおみな居宅連絡会「老人会の活動を知ろう」 岩佐出席  
令和4年12月6日（火）神戸市認定調査員 現認者研修 島田動画視聴  
令和5年1月30日（月）「ケアプランデータ連携システム説明会」 岩佐動画視聴  
令和5年1月24日（火）「ケアマネージャーのための支援経過記録の書き方」  
岩佐 島田 齋藤 動画視聴  
令和5年3月2日（木）「災害時のケアマネジメントと要援護者支援」  
岩佐 島田 齋藤 動画視聴

○ 収支（居宅介護支援費・介護予防支援業務委託料・認定調査委託料）（単位：千円）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和3年度収入実績	1,238	1,213	1,287	1,215	1,320	1,154	7,427
令和4年度収入	1,516	1,498	1,412	1,452	1,505	1,512	8,895
令和3年度支出実績	1,442	1,074	2,492	991	1,408	1,351	8,758
令和4年度支出	1,270	1,106	2,378	1,274	1,065	1,128	8,221
令和3年度収支差額	-204	139	-1,205	224	-88	-197	-1,331
令和4年度収支差額	246	392	-966	178	440	384	674
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和3年度収入実績	1,547	1,461	1,625	1,344	1,568	1,450	16,473
令和4年度収入	1,533	1,374	1,586	1,489	1,521	1,573	17,970
令和3年度支出実績	1,541	1,159	2,324	1,201	1,176	1,121	16,091
令和4年度支出	1,355	1,134	2,697	1,080	1,113	1,367	16,947
令和3年度収支差額	6	302	-700	143	392	378	382
令和4年度収支差額	177	239	-1,110	409	408	1,033	1,023

収入・支出・事業活動収支差額に関する管理者の意見

・令和4年度は、1,023千円の黒字となっている。

○利用者数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
令和3年度	介護	86	85	87	85	84	84	511
	予防	15	17	18	18	20	20	108
令和4年度	介護	101	96	92	93	93	100	575
	予防	21	19	21	21	21	17	120
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和3年度	介護	86	92	93	94	93	98	1,065
	予防	19	19	18	18	19	20	220
令和4年度	介護	101	95	96	98	101	100	1,166
	予防	19	21	22	22	20	21	245

以上

## 地域包括支援センター

### 魚崎北部あんしんすこやかセンター

#### 令和4年度 事業報告書

経営スローガン「足腰頭を鍛えて、いつまでも元気に楽しく過ごそう！」  
サブ「全職員が専門力向上し感染防止し楽しい生活を提供する！！」

2022年度もコロナ禍を考慮してイベント開催を企画し感染者等問題なく実施できた。今年度も魚崎地域、甲南地域、北青木地域に分けて分析しアプローチをしている。魚崎北町の高齢化率の高いマンションや地域の自治会やマンション管理人に働きかけ、センター紹介と校北公園でのラジオ体操の広報の協力を得て、チラシを全戸配布し、5月より毎週水曜日の9時半からラジオ体操を開催し介護予防に努めて頂けた。

甲南地域では、甲南商店街理事会に参加し連携できる関係性を築き、甲南地域のお店、病院、薬局、介護関係者に働きかけ、地域ケア会議を開催し、すでにある資源、不足している資源や困りごとについて調査しマップ作成。参加者で情報を共有し、さらにどんな対応が必要か意見を出して頂いた。その意見をもとに、第2回地域ケア会議開催し「プロジェクト甲南」というネットワークを作り、甲南商店街で、認知症声かけ訓練を実施できた。またコープ甲南店内でも、認知症声かけ訓練を実施できた。

北青木地域は、センター事務所より離れている為、相談や広報が充実するように、北青木の自治会と連携関係を築き、掲示や回覧のシステムを構築し、9月より西青木総合会館で月1回第3水曜日の10時から12時、出張相談会を開催することができた。

虐待や困難事例の相談も多かったが、随時情報共有し対応検討し、迅速かつ素早くチームワークを発揮して実践できた。

#### 1. 高齢者への虐待防止、消費者被害防止、成年後見制度の活用等の権利擁護支援

高齢者虐待については、6月に圏域内デイサービス数か所でスタッフ向けに高齢者虐待防止広報を実施。

消費者被害に関しては、事業所、給食会、魚崎プラザ、ラジオ体操等、様々な機会でもチラシを配布、広報を実施した。中でも圏域内で起きた屋根の点検商法の注意喚起チラシについては、一部の自治会掲示板に貼って頂くこともできた。また個別にも広報した。

成年後見制度については、「認知症と銀行口座凍結」について解説したチラシを作成し、3か所で配布、解説した。

2月の事業者連絡会で高齢者の自宅の扉の鍵を外から施錠してしまう行為は身体拘

東であり、高齢者虐待であること、居宅事例に関しても身体拘束 3 原則に照らして対応すること、あんしんすこやかセンターには是非相談してほしい事などお伝えできた。

また、法人職員向けの虐待防止研修に対して、2 つの事例を提供し、地域の在宅介護の中でどのような虐待が起こり、どのように対応をしているのか・すれば良いのかを学ぶ機会を提供することができた。

## 2. 認知症サポートネット「お魚の会」の更なる推進(助成金今年度よりなし)

- ・7/20 : 「お魚の会」兼「地域ケア会議」合同開催。参加者 25 名。

- ・11/11 : 「プロジェクト甲南」ネットワークと「お魚の会」のメンバーで、甲南商店街で認知症声かけ訓練実施。参加者 21 名。甲南商店街の通行人にも認知症声かけ訓練の広報を実施できた。

- ・2/17 : 「プロジェクト甲南」の一員であるコープ甲南主催で、コープ甲南店内で、認知症声かけ訓練実施。参加者 18 名。認知症の人への声掛けや対応を学んで頂けた。

### ・介護予防普及啓発事業（神戸市年間 80 万円委託料あり）

- ・介護予防普及啓発事業「元氣いきいき講座」6/21 に横屋会館で実施。参加者 10 名。

- ・魚崎北町の校北公園にて毎週水曜日の 9 時半からラジオ体操を実施。雨で 2 回中止となった以外は、7~25 名の参加者があり介護予防に努めて頂けた。

- ・北青木地域のラジオ体操については実施出来ていないが、9 月より西青木総合会館で月 1 回第 3 水曜日の 10 時から 12 時、出張相談会を開催することができた。そこで、「元氣いきいき体操 DVD」で体操を実施して頂けた。

## 3. 地域包括ケアシステム構築の為、地域ケア会議の推進。(神戸市から年間に付最高 50,000 円委託料あり。)

- ・7/20 : 第 1 回目「地域ケア会議」「つながって、楽しく、あきない甲南地区！！ 課題解決に向けて。」をテーマに開催。参加者 25 名。

地域資源をスライドとマップにて共有し、会議で知りえた情報も追加しながらマップの充実を図り、「こんな街で暮らしたい！こんなものがあつたらいいね！」をテーマにグループワークを実施した。ただ、単発の会議では課題解決につながらず、継続的な会議開催を行っていくことが必要との意見で参加者との同意を得る事ができた。

- ・10/25 第 2 回目「地域ケア会議」「つながって、楽しく、あきない甲南地区！！ 課題解決に向けて。」を前回の続きとして開催。参加者 15 名。

前回の甲南地区の地域ケア会議を振り返り、甲南地区の課題を負担感なく取り組めるように、取り組みたいプロジェクトに参加するプロジェクト型の活動を進める事で意見がまとまり、「プロジェクト甲南」というネットワークができた。シンボルマークでもある甲南商店街の場所を使用した認知症声かけ訓練の開催に向けた意見交換を実施。「プロジェクト甲



南」を始動し、まずは「認知症声掛け訓練」の開催に向けて合意を得る事ができた。

・1/17 第3回目「地域ケア会議」「障害の方が65歳になる介護保険申請しなくちゃ、どうしよう～医療介護障害、地域でどのように関わったら良いか～」をテーマに事例検討会を行った。5グループに分け、それぞれのテーマでグループワークを行った。「介護保険申請認定されても、障害のサービス使えるよ。」など各グループから色々な意見が出た。64歳という制度の狭間の方が、介護保険へスムーズに移行できるように、またこれから安心して生活していく為に、地域で支援していくネットワークチームができた。

・2/14 事業者連絡会をZOOMで開催した。

「障害がある方が介護保険サービスを使いたい『どうしよう～』』というテーマでうおざき障害者相談支援センター森本氏に講師をお願いした。参加者15名。

65歳になれば、介護保険サービスが優先になるが、一律に介護保険サービスを優先させるのではなく、必要としている支援内容を介護保険サービスにより受けることが可能か否かを適切に判断していくことが必要であり、利用者の障害福祉サービスに関する内容（利用意向）をしっかりと聴き取る事が必要。障害自立支援制度と介護保険制度の説明など、わかりやすく説明して頂いた。

#### ・包括的継続的ケアマネジメント（ケアマネ等支援）

ケアマネ等支援の為に連絡会、研修会を、コロナ過の中ZOOMで開催できた。

東灘区あんしんすこやかセンター合同主催にてケアマネ支援の立場から研修会実施。

- ・7/12 こども・若者ケアラー支援について学ぶ
- ・8/29 心臓疾患を持つ利用者の退院時連携を考える
- ・11/14 口腔ケア研修～訪問歯科診療との連携について～
- ・2/21 障害者福祉を勉強しよう！

#### 4. 単身高齢者・老々世帯の孤立化を防ぎ、地域に出かけていけるように。地域支え合い推進員の地域での見守りと居場所づくりの推進。

・地域活動の「かしまし処」「らくらく体操」「UMEのつぶやき」「Let's ゴー体操」「ぼっぼくらぶ」「うおざきご近助さん」「東灘こどもカフェ」の後方支援を実施。

「ぼっぼくらぶ」は担い手の高齢化により8月末にて終了、「らくらく体操」は3月末にて運営の判断で終了となった。

・法人事業として、「ふれあい喫茶カフェ魚崎」はコロナ感染予防の為に令和4年度は中止としたが、地域で運動できる場、会話できる場として校北公園を利用したラジオ体操を開催。

・シルバーハウジングの見守りを実施。月1回程度、安否確認、情報提供を目的に訪問を行った。また、非常ボタンや生活リズムセンサーによる通報を受けて緊急通報対応を行った。

・介護リフレッシュ教室の開催※神戸市より年間最高 36 万円委託料あり。

介護者を対象にした介護リフレッシュ教室企画開催

6/15：「すぎちゃん流フレイル予防」参加者 5 名。

7/6：「フルート・ギター・チェロによる音楽鑑賞会」参加者 7 名。

9/20：「フラワーアレンジメント」参加者 7 名。

2/13：「ブリザーブドフラワーアレンジメント」参加者 10 名。

コロナ禍でも楽しんでリフレッシュしていただける企画を準備し取り組んだ。

## 5. コロナ感染予防対策実施

・職員各自で、法人の感染対応マニュアルに沿った生活で健康管理に努めた。

職員及び家族の体調不良時は、出勤前に報告し勤務を検討した。

・家族の発熱で、濃厚接触者となり、欠勤となる事が数回あったが、他の職員が濃厚接触者となる事はなく、業務も他の職員がフォローして、支障なく遂行できた。

・訪問時は、事前に相手の体調確認し、アルコール消毒用スプレーボトル、フェイスシールド、感染対応グッズを全職員が携帯し、状況に応じた感染対応で訪問を実施した。

・施設での面談時は、換気の為窓は開けたままで、仕切り版のある面談室を利用し、流行時はフェイスシールドを装着し、出来るだけ短時間で面会を行った。

・イベント開催の時間短縮、人数制限、常時換気、手指消毒、デスクや椅子等消毒、開催前の全員検温、マスク装着、グループワーク時はフェイスシールド装着、マイク使用者毎の消毒など企画時より感染流行状況に応じて、対応を検討し実施した。

・つどい場の後方支援として、コロナ感染予防対策の相談に応じ、飲食をしない等感染状況に応じた神戸市の指針に従い、つどい場を開催して頂いた。

## 6. 介護予防マネジメント 総合相談支援

令和 5 年 3 月末現在、サービス利用者 195 件（受託 144 件、委託 51 件）（前年比 102%）

委託割合 26%。委託事業者（当法人含む）契約件数 16 件。介護予防支援 137 件。

総合事業 58 件。新規件数 68 件。要介護に移行した件数 46 件。中止件数 35 件。

表.1 R4 年度 収支報告 \*5 月 8 月 12 月 神戸市の委託料収入あり（単位：千円）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計	前年度比
① 前年度収入	652	9,251	668	671	8,634	762	20,645	
② 今年度収入	732	9,288	825	782	8,813	793	21,234	102%
③ 前年度支出	2,150	2,040	4,022	2,023	2,049	2,000	14,284	
④ 今年度支出	2,086	1,977	3,677	2,238	2,025	2,056	13,234	92%
⑤前年度収支差額	-1,491	7,211	-3,354	-1,352	6,585	-1,238	6,361	
⑥今年度収支差額	-1,354	7,311	-2,852	-1,456	6,788	-1,263	8,000	125%

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
① 前年度収入	738	728	8,699	688	739	705	32,948	
② 今年度収入	781	748	8,654	722	711	732	33,585	101%
③ 前年度支出	2,101	2,057	3,736	2,263	1,945	2,159	28,551	
④ 今年度支出	2,126	2,014	4,064	2,049	1,971	2,187	27,648	96%
⑤前年度収支差額	-1,363	-1,329	4,963	-1,575	-1,206	-1,454	4,397	
⑥今年度収支差額	-1,345	-1,266	4,590	-1,327	-1,260	-1,455	5,937	135%

今年度収入は 637,000 円増え、支出は 903,000 円減らすことができた。今年度の収支差額は、昨年度よりプラス 1540,000 円となった。

収入は、昨年より 1,9%アップし、目標収入である 1%アップを達成できた。

以上